

# 八代市文化ホール等あり方検討会 第2回

令和2年9月30日(水) 14:00～  
鏡文化センター研修室

## 1. 開 会

## 2. あいさつ

## 3. 協議事項

(1) 前回協議項目の確認と今後のスケジュール (資料①-1、①-2)

(2) 市民アンケートの報告 (資料②-1、②-2)

(3) ホールを活用した市民の文化意識向上・定着にむけた  
本市の運営方針と取り組み (資料③)

①本市の取り組み

②他の自治体の取り組み

(4) 施設稼働率及び収益を上げるための取り組み (資料④)

①本市の取り組み

②他の自治体の取り組み

(5) 他の自治体での取り組みから見えるもの (資料⑤-1、⑤-2)

## 4. その他

(1) 第3回検討会の日程について

## 5. 閉 会

鏡文化センターホール現場視察

令和元年度 第1回八代市文化ホール等あり方検討会  
検討会会議録

開催日時	令和2年2月14日(金) 10:00~12:00
開催場所	代陽コミュニティーセンター会議室、厚生会館ホール

■ 出席委員

会長	本田 恵介	委員	岩崎 布見子	委員	多田 満
副会長	丁畑 幸美	委員	柏 昭子	委員	森山 学
委員	石本 愛	委員	川村 健治		

■ 欠席委員

委員	中山 英朗	水本 和人
----	-------	-------

■ 市出席者

職	氏名	役職	氏名
副市長	田中 浩二	厚生会館館長	林田 安夫
経済文化交流部次長	岩崎 和也	厚生会館主査	坂梨 英司
文化振興課長	沖田 丈房	総合支援担当	水本 慎吾
文化振興課主幹兼課長補佐	山崎 撰		

■ その他の出席 なし

■ 傍聴者 なし

■ 協議事項

審議事項

(1) 八代市文化ホール等あり方検討会について

① 検討会の目的や協議事項

② 検討会の今後の予定

(2) 八代市の文化ホール等の現状について

① 各施設のハード（建物や設備）の状況

② 各施設の利用等の状況

③ 各施設の自主文化事業の状況

(3) 市民アンケートの実施について

① アンケートの実施時期及び方法等

② アンケート案の検討

その他

(1) 委員報酬等の事務手続きについて

厚生会館ホール現場視察

■ 会議録（要約版）

1. 開会
2. 委嘱場交付
3. あいさつ（副市長）
4. 委員紹介
5. 会長及び副会長選出

会長に本田恵介氏、副会長に丁畑幸美氏を選出。

## 6. 会長・副会長あいさつ

### 議事

#### (1) 八代市文化ホール等あり方検討会について

- ① 検討会の目的や協議事項
- ② 検討会の今後の予定

事務局から別添資料により説明、各委員の考えや思いを意見として頂いた

〈委員〉

ハード面、利用に関する事ということなので施設にいらっしゃる事務方、管理運営者並びに舞台技術スタッフの育成、そういったことが少し弱いのかなという気がするのでソフト面も検討の課題にされたらいかがかと思う。

〈事務局〉

市が行う自主文化事業をソフト面ととらえていたが管理運営も含めて舞台技術のスタッフ育成とかの問題もあるかと思う。皆様のご意見を伺いながら関係資料をまとめる形でご意見を伺えるような形にさせていただきたい。

〈委員〉

ホールスタッフにいろいろな企画提案ができる方がいるのが望ましいと思うが指定管理者制度が始まってそこが弱くなっているホールが全国的にある。各ホールを愛するスタッフがそのホールにすることが大事。そういった人材育成、舞台技術とはまた異なるがそのような環境整備もご検討いただければ。

〈委員〉

直営だと2年3年で人が変わってしまい経験の蓄積や専門性の追求が果たせない。

ただ指定管理者制度自体が国も含めて自治体も財政的に厳しくなる中でいわば予算が文化を支えるホールスタッフやハード面も含めてどんどんコストカットされているという実態もある。そういう中で今後八代市としてその4つの施設をどういう方向で運営していくのか、この辺りの議論も八代の方で議論していくことだろうと思う。ハードもちろん重要だがソフト面それから人材特に人材育成は重要なポイントになると思う。

〈委員〉

自主文化事業など大変な努力をされて売っている。

ボランティア的な存在、友の会的なものを4つの共通のシステムとして作って、技術面に関してもホールスタッフに関してもボランティアを募って取り組んでいくとより連携が深まって、ホールの運営というのも、あとチケットの販売も含めてですね、自主文化事業の場合、効率的にできるんじゃないかと思う。また技術スタッフ、ホールスタッフなど単に好きな人だけ集めるということではなく、音響的な技能士でせめて3級の舞台機構調整技能士を取れるくらいの講座とかをやっていたら取ってもらうことによって、ホールとか舞台技術に対する愛着も深まると思う。

〈委員〉

照明・音響に関してもそれぞれこれは国家資格ではないが専門の認定がある。また一方では非常に危険性の高い場所ではあるので専門家が運営するというのは最低限必要なことと思う。

〈委員〉

市のスタッフが職人もしなさい、あれもしなさいというのは無理だと思う。一般の人が会館を利用しようと言ったときにそこにソフトに携わってもらうサービス業のようなものなのでチケット販売とか、もっと郷土愛などが強い人が携わってくださると自然といくと思う。

〈委員〉

サービス業なので利用者の方、地域の方にどれだけ喜んでいただけるか満足していただけるかという事はこういうホールに勤めている人間としては一番意識しなければならない。技術は持っていても優しくすることはできる。研修は公立文化施設協議会も行っている。

他のホールでどういう日頃働きぶりをしているのか情報交換する中で足りないところを学んでいき少しずつ良くなることを期待している。

〈委員〉

一方で舞台の設備もどんどんアナログからデジタルに変わって行ってパソコンで舞台装置を昇降したりと日々変化しているので受け入れていかざるを得ない。そのために操作ができないことから、この世界からだんだん退いて行く技術者も現実としてある。

〈委員〉

デジタルになろうが、結局それぞれの舞台も機構も音響もなんですけど本当の基本を知ってないといけない。温故知新ということでやはり若い人は年を召した人に学ぶべきだし、年寄りも若い人から学ぶことはたくさんあると思う。最新最先端に関しては基本的なことは押さえておかないといけない。

〈委員〉

パトリア千丁の方公民館施設になった時点でピアノの扱い方すらちょっとわかってらっしゃらなかったっていうのがあって利用する方としては愕然とした。

異動はあるので仕方がないが引継ぎで研修などはあるのか。申し送りはあると思うが最低限の研修はやっているのか。

〈事務局〉

研修というのまではしていないと思う。本当ならば道具とか特に大事なものであり、安全性の問題もあるので、舞台技術の専門のスタッフにほとんどお任せしているので職員が実際に舞台に携わるというのはあまりないのでそこでうまく引継ぎができないとか確かにご不満の通りであり改善は必要かと思う。

〈会長〉

次に協議事項（２）の文化ホール等の現状と課題について説明をお願いします。

## （２）八代市の文化ホール等の現状について

- ①各施設のハード（建物や設備）の状況
- ②各施設の利用等の状況
- ③各施設の自主文化事業の状況

〈委員〉

建設の文化面の観点で言うと、厚生会館は、建築家の芦原信義さんが設計され、鏡文化センターは、黒川紀章さんの事務所が設計されている。著名な建築家の設計という点も文化面でも重要である。

〈委員〉

厚生会館は、大丈夫か？

〈委員〉

耐震診断がしてあると思うので確認していただければよいと思う。音響も調査されればよいと思う。

〈委員〉

県内でも 1000 席を超える施設はほとんどなく、県南では人吉カルチャーパレス、水俣市文化会館その次の規模。

〈委員〉

収益を上げるには 500 席では上がらない。1,000 人収容でないと収益は上がらない。この検討会は厚生会館を存続させるための検討会ととらえてよいのか。

〈事務局〉

本日のあり方検討委員会はソフト事業をどうしたら市民の文化レベルの向上になるか、どうソフト事業を展開していく必要があるか議論していただき、そのソフト事業に見合う八代市の財政規模に見合った施設の数や質が必要になってくる。

ここでは存続・廃止の話ではなく、まずは、ソフト事業から議論していただいてそのあと施設の在り方・方向性を設定していくと考えている。いろんな意見があると思うが最後に委員会の意見として報告していただければと思うので本日は現状や問題点・課題などを認識していただき、次回以降の会議の中で議論いただければと思う。

〈委員〉

厚生会館別館が解体され民族伝統芸能伝承館が建設されれば、新たな街の繋がりが生まれると思う。

〈委員〉

ぜひ伝承館が完成したらこけら落としを厚生会館でできたらと思う。大改修は無理と思うので修理だけしながら使用できれば。

八千代座とか観劇は、明治時代の建物で修理だけしてアンティークでいいから価値のあるように建物を残していく方法もあると思う。

〈委員〉

歴史的景観の地。お城跡もあって厚生会館もあって昭和の近代建設の大事な昭和の遺産。

〈委員〉

自主文化事業はあるが八代の文化レベルは非常に低い。高度な文化を持ってきても市民が目を向けない。市全体として文化レベルを向上させるよう学校教育も含めてやっていかないといけない。良いものが八代を飛び越えて人吉に沢山行っている。ソフト面は八代は興味がないというのが現状。ハード面には飛びつくけどソフト面は敬遠するのが昔からの流れ。

厚生会館では、自主文化事業を民間でも行っている。もちろん審査はあるが、共催でやっている。ホールは使用料を免除し運営等は民間で事業を行うべき。あったかハートや宮嶋財団のミュージカルなどソフト面を民間で行い意識向上のために文化レベルの向上のためにやるのでホール使用料を免除するとよい。とっかかりはあるのでそれを広げていけばよい。満席にこだわると良いことはない。

例えば、ブックフェスなどビッグサイトで行うと何万人と来る。八代でもある本屋さんが、ハーモニーホールで行われたが、何千人もの若者が来た。若者の文化を取り入れてホールもそういったものを取り入れて地元から発信できるホールなり会館なりの位置づけを考えていった方がよい。

大きな舞台で本物を見て楽しむという若者文化を育てていったらホールの利用率も上がっていく。

### (3) 市民アンケートの実施について

- ①アンケートの実施時期及び方法等
- ②アンケート案の検討

〈委員〉

このアンケートの対象とか配布の仕方はどういった形か。

〈事務局〉

配布は郵送で返信用の封筒を同封し対象は3000人。八代市在住の市民の方無作為抽出で年代とか地域性も考慮してお送りする。

〈委員〉

このアンケートの中に八代以外でのコンサートなどあるかお聞きしていただくと八代市からどれだけ流れているのかわかると思う。

〈委員〉

今後の検討会のスケジュールっていうのがあって、3月いっぱいまでアンケートを取ったら4月にアンケート結果を検討するのはなかなか厳しいスケジュールかなと感じたがいかがか。

〈事務局〉

できるだけ早くまとめたいと思う。

その他

本田会長より国施策に関する資料説明

○「文化芸術基本法の制定」

○「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」

- ・文化に触れる機会の均等的な機会の提供という観点もあり、八代市の取り組みとしてホールのない地域へのソフト面の充実を図るという意識をもって検討に臨んでいただければと思う。
- ・文化芸術、特に演劇については小中学校では体験する場がなく、スポーツのように地域にクラブがある環境が理想である。

※その後、厚生会館ホール現場視察

# R2年度 あり方検討会 スケジュール

R2.9.30

(令和2年度は5回開催予定)

資料①-2

1回目 (済)	日時	令和2年2月14日(金) 10:00～
	場所	代陽コミュニティセンター
	次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 委嘱状交付、正副会長選任</li> <li>② あり方検討会について</li> <li>③ 市内ホール等の現状</li> <li>④ アンケート実施について</li> <li>⑤ 厚生会館確認、その他</li> </ul>
2回目	日時	令和2年9月30日(水) 14:00～16:00
	場所	鏡文化センター
	次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 協議項目の確認と今後のスケジュール</li> <li>② 市民アンケートの報告</li> <li>③ ホールを活用した文化意識向上・定着にむけた本市の運営方針と取り組み</li> <li>④ 施設稼働率及び収益を上げるための取り組み</li> <li>⑤ 他の自治体での取り組みから見えるもの</li> <li>⑥ 視察(鏡文化センター)</li> </ul>
3回目	日時	令和2年10月
	場所	未定
	次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 情報発信について(対象・内容・範囲等)</li> <li>② 人脈、人材の質の確保</li> <li>③ 技術者育成プログラムの具体策</li> <li>④ 視察(桜十字ホールやつしろ)</li> </ul>
4回目	日時	令和2年11月
	場所	未定
	次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 財源確保に向けての施策</li> <li>② 演じる側から見たメリット・デメリット</li> <li>③ 各施設の役割・活用方法について</li> <li>④ 視察(八代市公民館)</li> </ul>
5回目	日時	令和3年1月
	場所	未定
	次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 厚生会館の劣化度調査結果について</li> <li>② 各施設の改修等と今後の見通し</li> <li>③ 継続的かつ安定的な管理運営体制の確保</li> <li>④ 実施事業とホールの適正配置</li> </ul>
6回目	日時	令和3年2月
	場所	未定
	次第	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 検討会報告のまとめ</li> </ul>

文化ホール等あり方検討に関する市民アンケート調査  
結果報告書

2020年9月  
八代市文化振興課

## 目 次

1. アンケート調査の概要	1
（1）調査目的	2
（2）調査設計	2
（3）調査内容	2
（4）回答結果	3
2. 集計結果	4
（1）回答者の属性に関する質問	5
（2）市民による文化芸術活動の重要度や意識について	7
（3）市内の文化ホール等施設について	9
（4）自主文化事業やホールでの公演について	17
（5）文化ホールのイベントや行事、利用等に関する情報発信について	25
（6）文化ホールの今後の取り組みについて	28
（7）文化ホール等施設の今後のあり方について	30
（8）文化ホール等施設に対しての自由意見	32

## 1. アンケート調査の概要

### (1) 調査目的

本市には、4つの文化ホール等施設（厚生会館・鏡文化センター・桜十字ホールやつしろ・市公民館《旧パトリア千丁》）があり、芸術鑑賞や市民の文化活動の発表の場など、本市の芸術・文化向上の拠点として、地域に根ざした活動を推進してきました。

一方近い将来、公共施設は老朽化により一斉に大規模改修や建替えなどの更新時期を迎えようとしており、人口減少や少子高齢化が進展する中、維持管理経費の負担が増大することが予想されています。そのような中で、本市では「八代市公共施設等総合管理計画」を策定し、「公共施設の適正配置と施設総量の縮減」を基本方針の一つとしています。

このアンケートは、これらの状況をふまえながら、市民の芸術・文化向上のため、より効果的で実効性の高い文化ホール等施設の活用と今後のあり方を検討する資料として扱うことを目的に、アンケート調査を実施しました。

### (2) 調査設計

- ①調査内容           より効果的で実効性の高い文化ホール等施設の活用と今後のあり方について
- ②調査対象           市内在住の18歳以上の市民3,000人（令和2年5月末現在）
- ③標本抽出           校区ごとに、その地域の人口を考慮し、無作為に抽出
- ④調査手法           郵送によるアンケート調査票配付及び回収
- ⑤実施時期           令和2年6月1日（月）～ 令和2年6月15日（月）

### (3) 調査内容

- ①回答者の属性
  - ・性別、年代、居住校区、職業
- ②調査項目
  - ・市民による文化芸術活動の重要度や意識について
  - ・市内の文化ホール等施設について

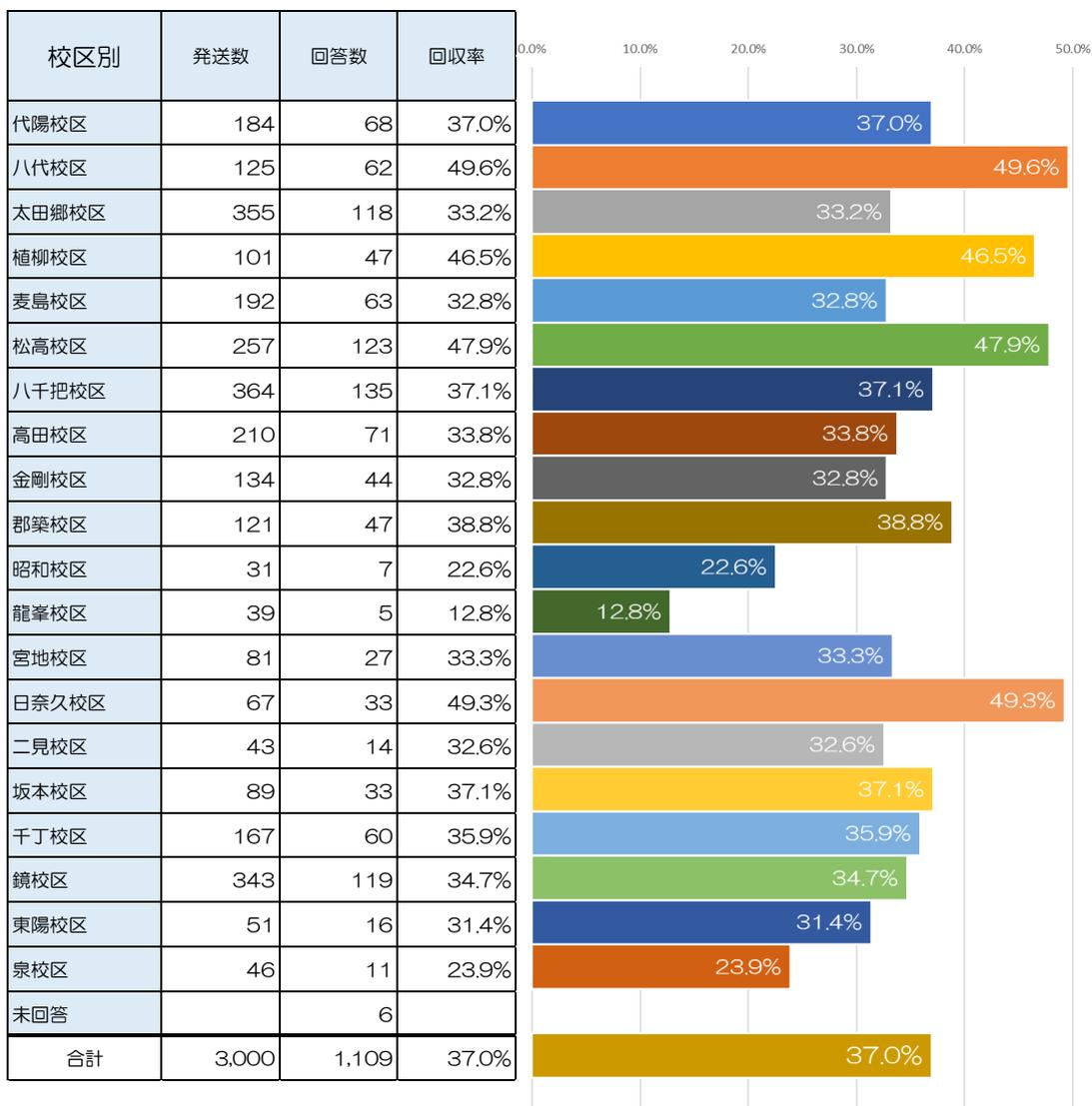
〔対象施設一覧〕

	施設名	所管課
①	八代市厚生会館	文化振興課
②	八代市鏡文化センター	文化振興課
③	桜十字ホールやつしろ（ハーモニーホール）	指定管理（商工・港湾振興課）
④	八代市公民館（旧パトリア千丁）	生涯学習課

- ・自主文化事業やホールでの公演について
- ・文化ホールのイベントや行事、利用等に関する情報発信について
- ・文化ホールの今後の取り組みについて
- ・文化ホール等施設の今後のあり方について
- ・文化ホール等施設に対しての自由意見

(4) 回答結果

- ①標本数 3,000人
- ②有効回答数 1,109人
- ③有効回答率 37.0%



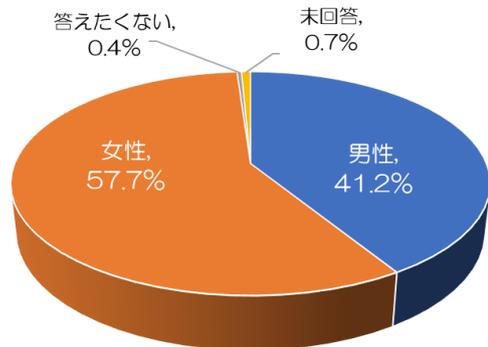
旧市町村別	発送数	回答数	回収率
旧八代市	2,304	864	37.5%
旧坂本村	89	33	37.1%
旧千丁町	167	60	35.9%
旧鏡町	343	119	34.7%
旧東陽村	51	16	31.4%
旧泉村	46	11	23.9%
未回答		6	
合計	3,000	1,109	37.0%

## 2. 集 計 結 果

(1) 回答者の属性に関する質問

質問1 性別

項目	回答数	割合
男性	457	41.2%
女性	640	57.7%
答えたくない	4	0.4%
未回答	8	0.7%
合計	1109	100.0%



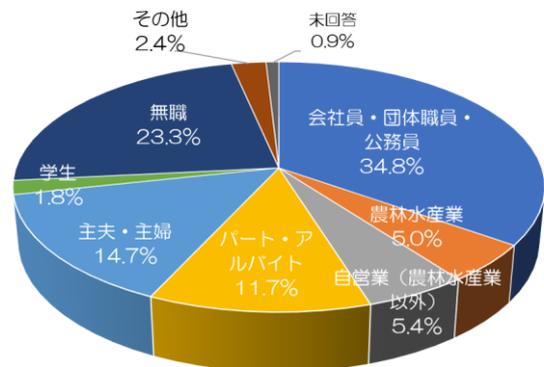
質問2 年代

項目	回答数	割合
19歳以下	12	1.1%
20歳代	78	7.0%
30歳代	134	12.1%
40歳代	141	12.7%
50歳代	189	17.0%
60歳代	246	22.2%
70歳代	195	17.6%
80歳以上	109	9.8%
未回答	5	0.5%
合計	1109	100.0%



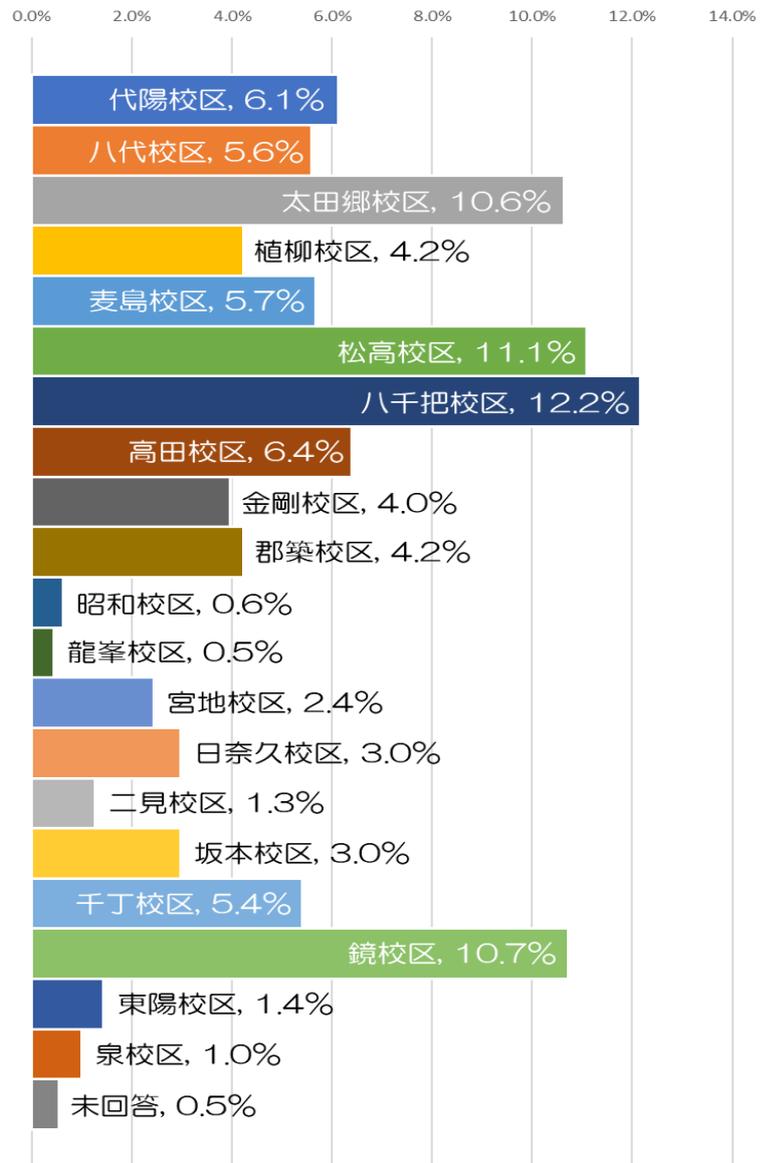
質問3 職業

項目	回答数	割合
会社員・団体職員・公務員	386	34.8%
農林水産業	55	5.0%
自営業（農林水産業以外）	60	5.4%
パート・アルバイト	130	11.7%
主夫・主婦	163	14.7%
学生	20	1.8%
無職	258	23.3%
その他	27	2.4%
未回答	10	0.9%
合計	1109	100.0%



## 質問4 居住校区

項目	回答数	割合
代陽校区	68	6.1%
八代校区	62	5.6%
太田郷校区	118	10.6%
植柳校区	47	4.2%
麦島校区	63	5.7%
松高校区	123	11.1%
八千把校区	135	12.2%
高田校区	71	6.4%
金剛校区	44	4.0%
郡築校区	47	4.2%
昭和校区	7	0.6%
龍峯校区	5	0.5%
宮地校区	27	2.4%
日奈久校区	33	3.0%
二見校区	14	1.3%
坂本校区	33	3.0%
千丁校区	60	5.4%
鏡校区	119	10.7%
東陽校区	16	1.4%
泉校区	11	1.0%
未回答	6	0.5%
合計	1109	100.0%

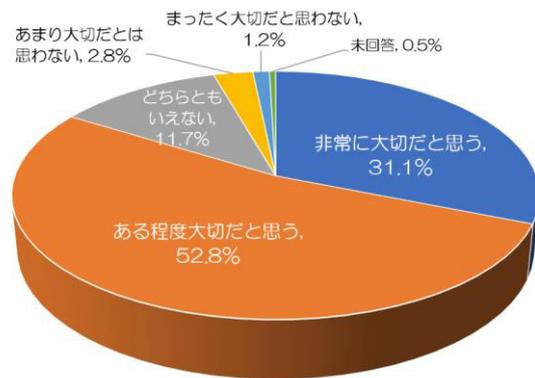


## (2) 市民による文化芸術活動の重要度や意識について

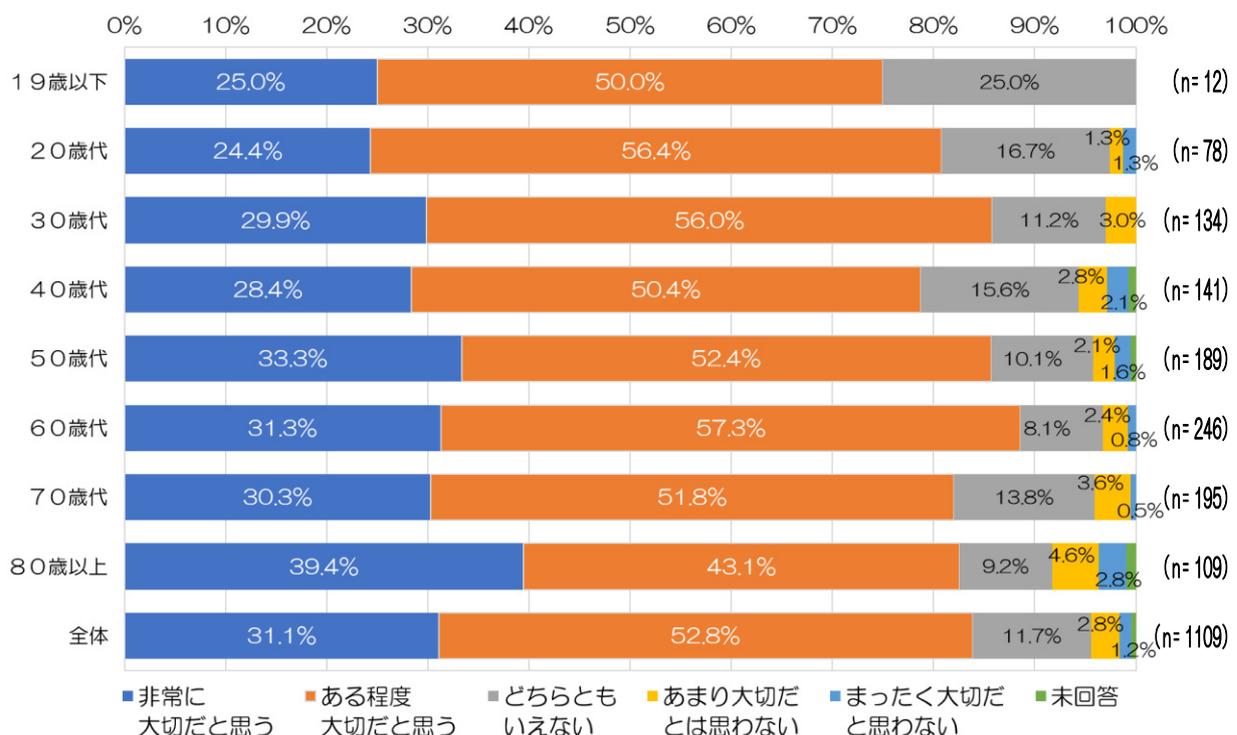
### 質問1 あなたは、市民が文化芸術を鑑賞することや、自ら文化芸術活動を行うことについてどう思いますか。

・市民が文化芸術を鑑賞することや自ら文化芸術活動を行うことについて「非常に大切」(31.1%)「ある程度大切」(52.8%)の合計が、全体の83.9%を占めており、文化芸術の鑑賞や活動に対し大切だと考えている市民の割合が多いたることが分かる。

項目	回答数	割合
非常に大切だと思う	345	31.1%
ある程度大切だと思う	585	52.8%
どちらともいえない	130	11.7%
あまり大切だとは思わない	31	2.8%
まったく大切だと思わない	13	1.2%
未回答	5	0.5%
合計	1109	100.0%



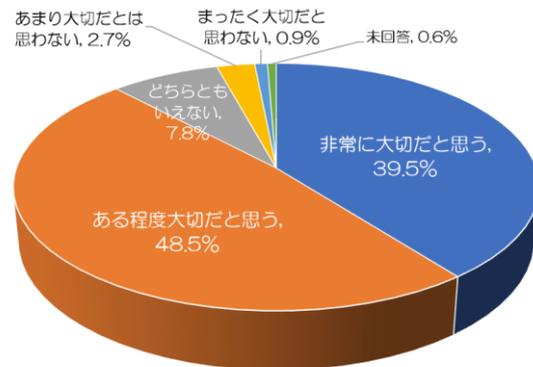
#### ■年代別



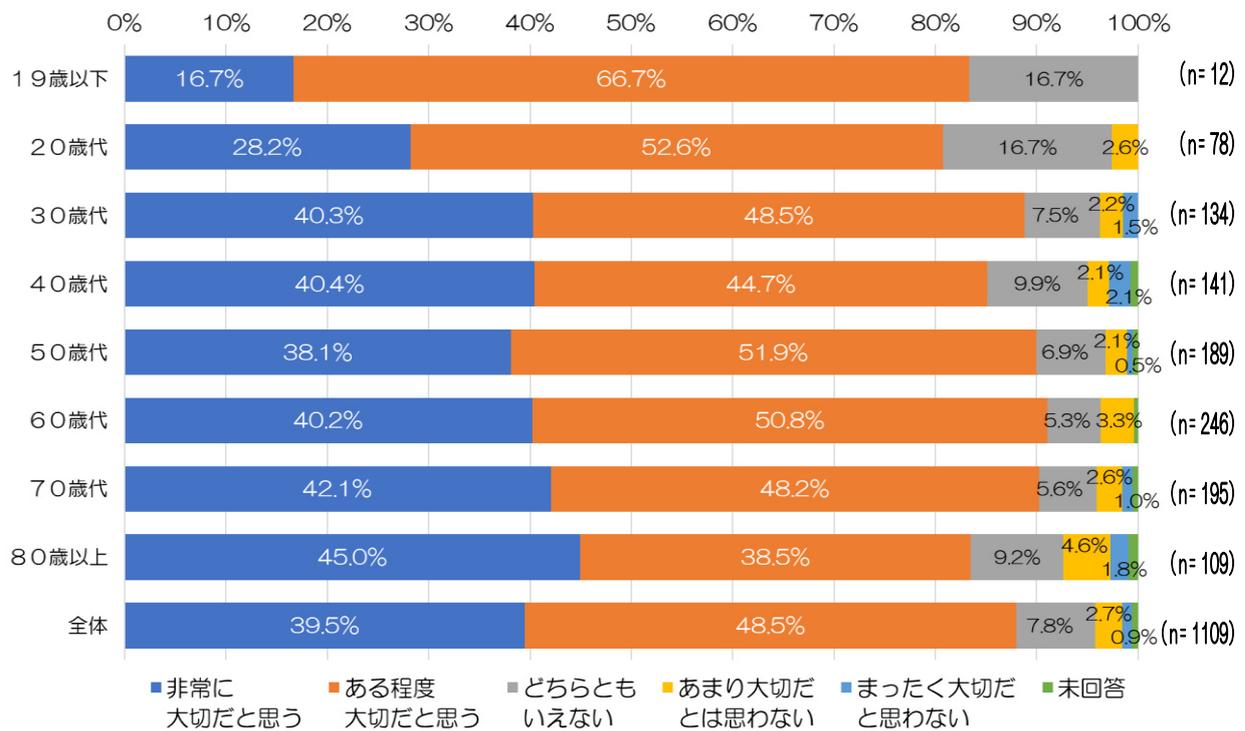
**質問2 文化芸術活動を発表したり展示したりするホールや会場があることについて  
どう思いますか。**

・市民が文化芸術を発表したり展示したりするホールや会場があることについて「非常に大切」(39.5%)「ある程度大切」(48.5%)の合計が、全体の88.0%を占めており、発表・展示する場があることについて大切だと考えている市民が非常に多いことが分かる。

項目	回答数	割合
非常に大切だと思う	438	39.5%
ある程度大切だと思う	538	48.5%
どちらともいえない	86	7.8%
あまり大切だとは思わない	30	2.7%
まったく大切だと思わない	10	0.9%
未回答	7	0.6%
合計	1109	100.0%



■年代別

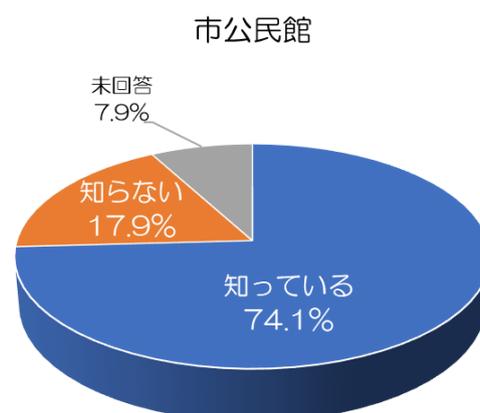
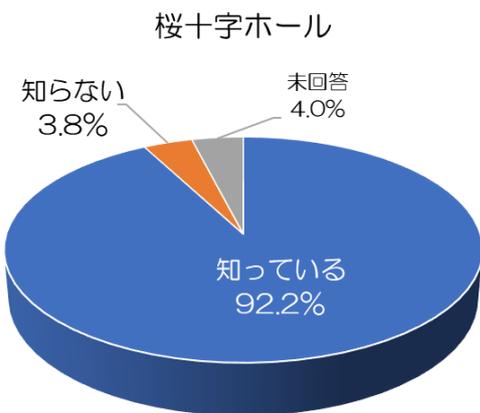
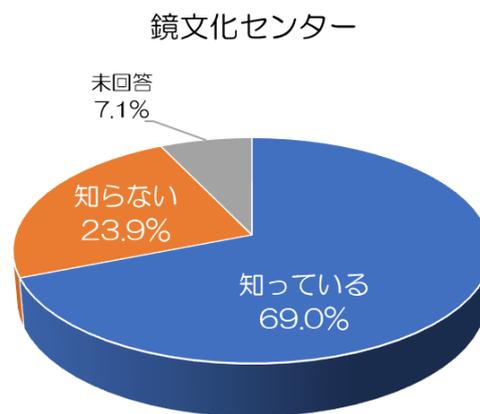
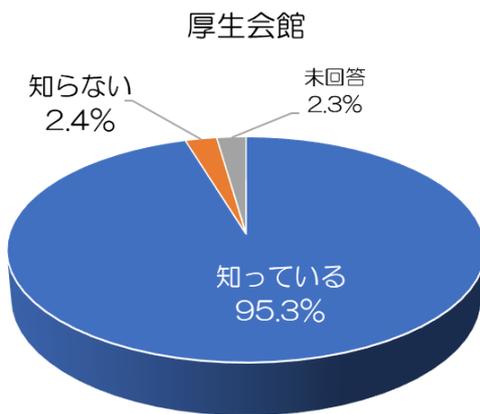


### (3) 市内の文化ホール等施設について

#### 質問1 市内には文化ホール等施設が4つあります。これらの施設をご存じですか。

・知っている施設では厚生会館（95.3%）が最も多く、次いで桜十字ホール（92.2%）となっている。知らない施設では、鏡文化センター（23.9%）市公民館（17.9%）の割合が高くなっている。

項目	厚生会館	鏡文化センター	桜十字ホール (ハーモニーホール)	市公民館 (旧パトリア)
知っている	1057	765	1023	822
知らない	27	265	42	199
未回答	25	79	44	88
合計	1109	1109	1109	1109

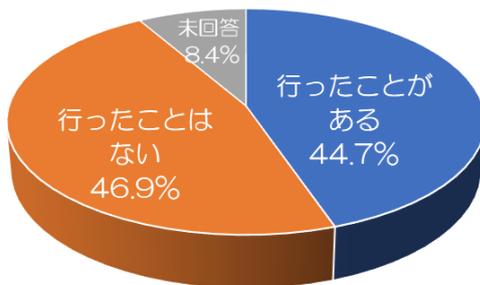


**質問2 市内の文化ホール等施設に過去3年間の間に行かれたことはありますか。**

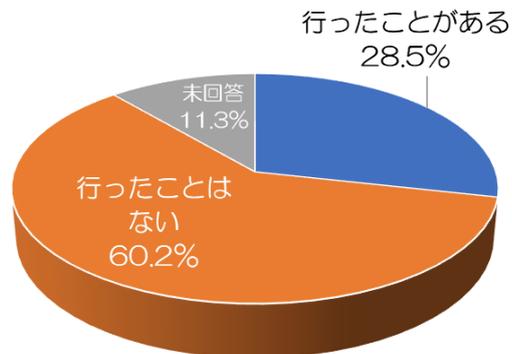
・過去3年間で行ったことのある施設としては「桜十字ホール」(73.9%)が最も多く、次いで「厚生会館」(44.7%)となっている。行ったことのない施設としては「鏡文化センター」(60.2%)が最も多く、「市公民館」(56.5%)が続いている。

項目	厚生会館	鏡文化センター	桜十字ホール (ハーモニーホール)	市公民館 (旧パトリア)
行ったことがある	496	316	820	337
行ったことはない	520	668	225	627
未回答	93	125	64	145
合計	1109	1109	1109	1109

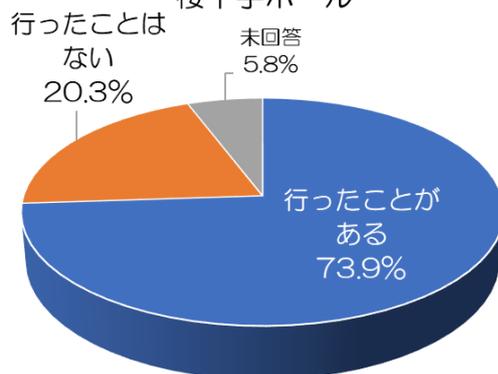
厚生会館



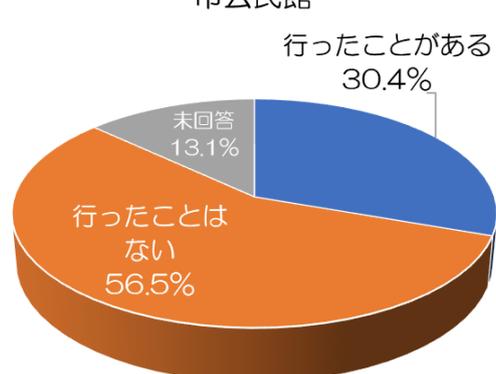
鏡文化センター



桜十字ホール



市公民館

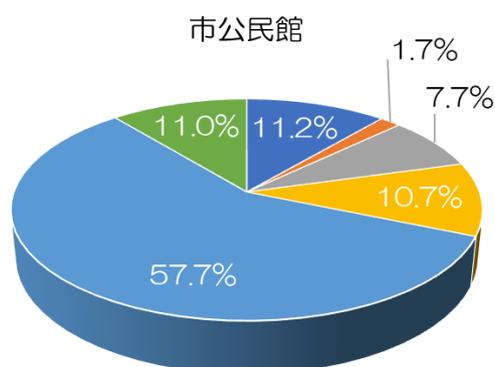
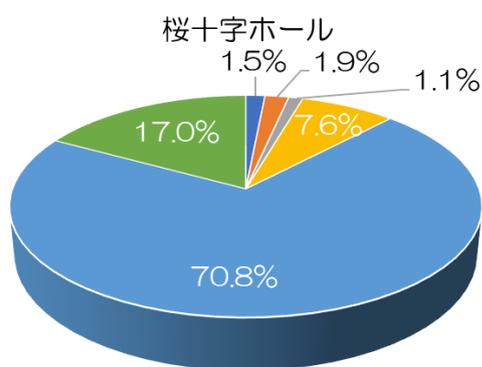
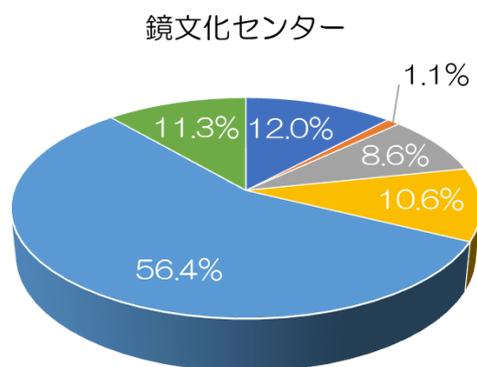
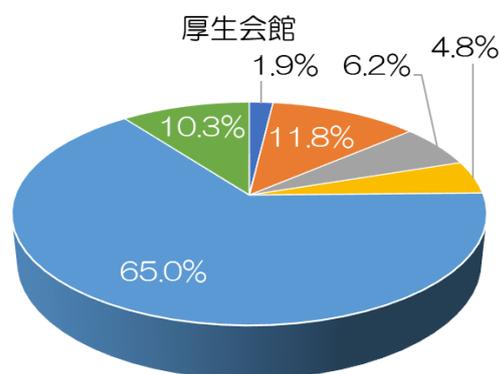


### 質問3 過去3年間に文化ホール等施設に行かなかった理由は、なんですか。

(複数回答可)

- ・4館に共通する理由として「見たい催し物がないなど行く理由や必要がない」が最も高くなっている。
- ・厚生会館では「駐車場が不足している」(11.8%)という理由が次に多く4館では突出している。
- ・鏡文化センター、市公民館では「場所が不便で利用がしにくい」がそれぞれ次に多い理由となっている。
- ・その他の意見として、高齢・病気・介護・免許返納など、年齢的な理由によるものが多くみられた。

項目	厚生会館	鏡文化センター	桜十字ホール (ハーモニーホール)	市公民館 (旧パトリア)
場所が不便で、利用がしにくい	11	90	4	80
駐車場が不足している	69	8	5	12
他の施設を利用している	36	65	3	55
行きたいと思う場所ではない	28	80	20	76
見たい催し物がないなど行く理由や必要がない	379	424	187	411
その他	60	85	45	78
合計	583	752	264	712



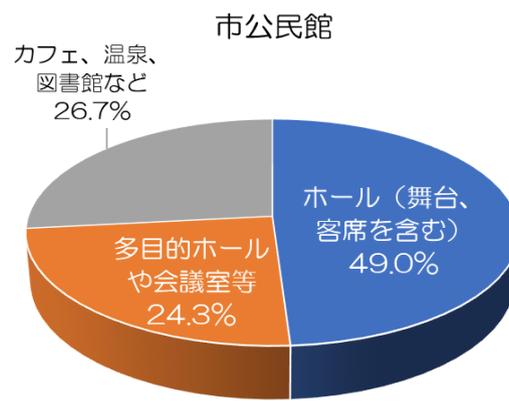
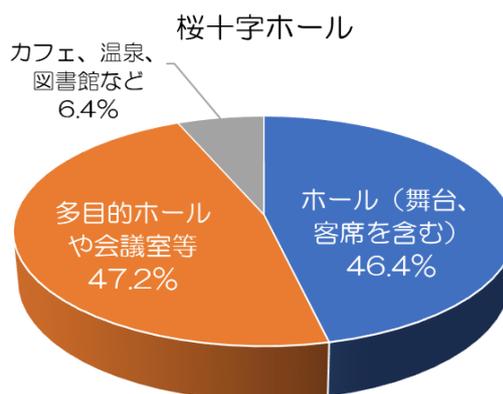
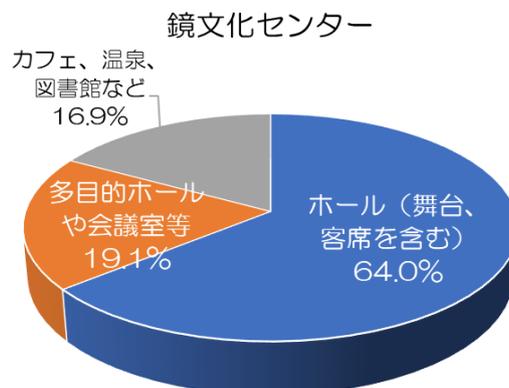
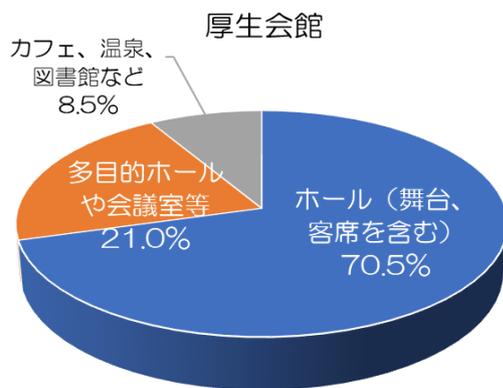
- 場所が不便で、利用がしにくい
- 駐車場が不足している
- 他の施設を利用している
- 行きたいと思う場所ではない
- 見たい催し物がないなど行く理由や必要がない
- その他

**質問4 行ったことがある文化ホール等施設ではどこを利用されましたか。**

(複数回答可)

- ・桜十字ホールにおいては「ホール」の利用数(550件)と併せて「多目的ホールや会議室等」の利用数(560件)も多く、総合的に利用が多くなっている。
- ・「ホール」利用の割合からみると、厚生会館(70.5%)、鏡文化センター(64.0%)、市公民館(49.0%)において割合が高くなっている。

項目	厚生会館	鏡文化センター	桜十字ホール (ハーモニーホール)	市公民館 (旧パトリア)
ホール(舞台、客席を含む)	517	288	550	242
多目的ホールや会議室等	154	86	560	120
カフェ、温泉、図書館など	62	76	76	132
合計	733	450	1186	494



**質問5 過去3年間で、ホールを利用されたことは何回程度ありますか。**

・過去3年間でホールを利用した回数は「主催者・出演者として」「観客・参加者として」いずれの場合も桜十字ホールの利用が最も多くなっている。

項目	厚生会館		鏡文化センター		桜十字ホール (ハーモニーホール)		市公民館 (旧パトリア)	
	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として
10回以上	6	17	1	14	7	52	2	18
6～9回	6	29	6	12	14	57	2	9
1～5回	51	398	39	238	101	553	34	231
0回	145	123	150	181	131	66	148	177

**質問6 ホールを利用されたときの内容は、なんでしたか。** (複数回答可)

・主催者・出演者としての利用では、桜十字ホール(163人)の利用が最も多く、次いで厚生会館(105人)となっている。項目別では桜十字ホールは「大会・集会・式典・講習会・研修会等」(71人)、「文化祭・発表会等」(39人)、「音楽会・コンサート等」(31人)の利用が多く、厚生会館では「文化祭・発表会等」(32人)、「音楽会・コンサート等」(31人)の利用が多くなっている。

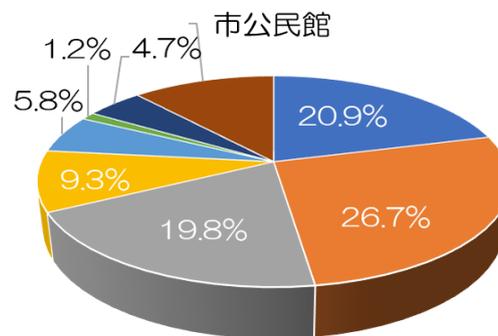
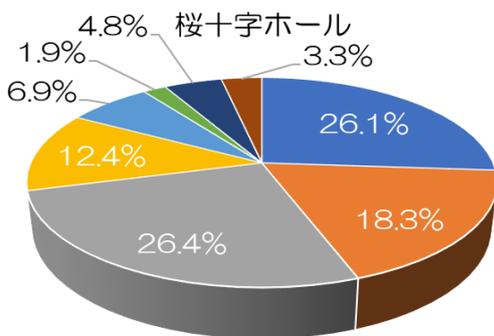
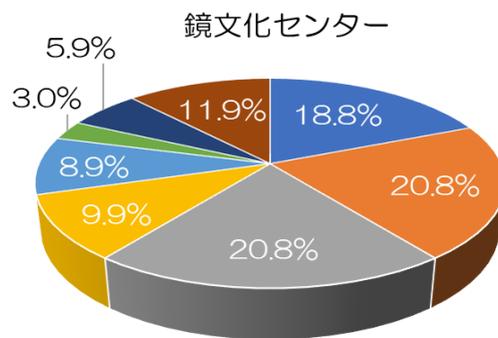
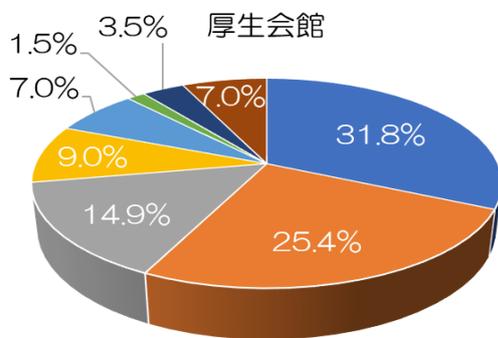
・観客・参加者としての利用では、こちらも桜十字ホール(966人)の利用が最も多く、次いで厚生会館(720人)となっている。項目別では桜十字ホールは「大会・集会・式典・講習会・研修会等」(418人)、「文化祭・発表会等」(227人)の利用がおおく、厚生会館は「音楽会・コンサート等」(272人)の利用で特に多くなっている。

項目	厚生会館		鏡文化センター		桜十字ホール (ハーモニーホール)		市公民館 (旧パトリア)	
	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として	主催者 出演者 として	観客・ 参加者 として
大会・集会・式典・講習会・研修会等	24	171	20	0	71	418	17	125
音楽会・コンサート等	31	272	13	20	31	179	12	79
演劇・ミュージカル等	4	62	1	10	2	25	1	8
舞踊(日舞・バレエ・ダンス等)	11	34	5	3	9	48	1	5
日本古典芸能・落語等	1	19	1	8	1	15	0	5
文化祭・発表会等	32	153	17	33	39	227	16	88
その他	2	9	2	3	10	54	1	27
合計	105	720	59	77	163	966	48	337

**質問7 主催者・出演者としてホールを利用された方について、その文化ホール等施設を選ばれた理由は何ですか。** (複数回答可)

・その文化ホール等施設を選んだ理由として、前質問で利用の最も多かった桜十字ホールでは、「駐車場が確保できる」(26.4%)、「会場の立地がよい」(26.1%)、の理由が多くなっている。  
 ・その他の施設を選んだ理由としては、厚生会館では「会場の客席数がちょうどいい」(25.4%)、鏡文化センターでは「駐車場が確保できる」(20.8%)、市公民館では「会場の客席数がちょうどいい」(26.7%)がそれぞれ最も多い理由となっている。  
 ・主催者・出演者としては「駐車場の確保」と「客席数」が会場を選ぶ大きな理由となっていることがうかがえる。

項目	厚生会館	鏡文化センター	桜十字ホール (ハーモニーホール)	市公民館 (旧パトリア)
会場の立地条件がいいから	64	19	110	18
会場の客席数が催し物にちょうどいいから	51	21	77	23
駐車場が確保できるから	30	21	111	17
設備や備品等が充実しているから	18	10	52	8
利用料金が手ごろだから	14	9	29	5
催し物を開催して赤字になりにくいから	3	3	8	1
職員やスタッフの対応がいいから	7	6	20	4
その他	14	12	14	10
合計	201	101	421	86

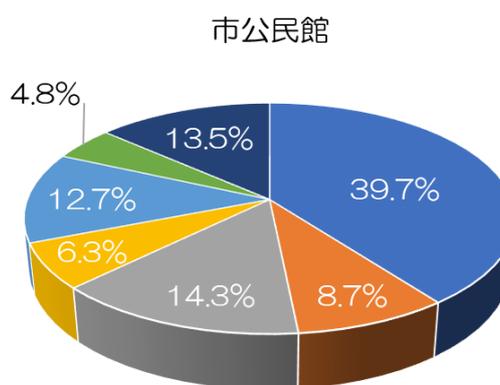
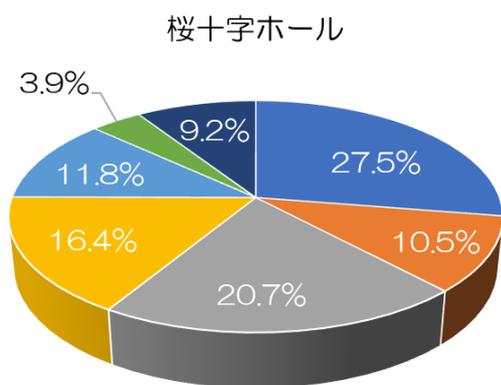
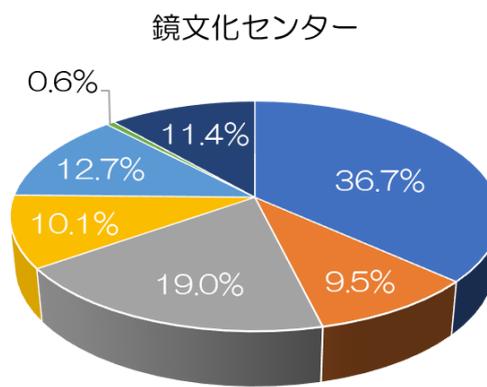
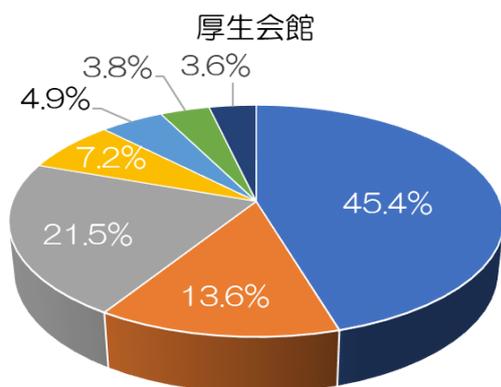


- 会場の立地条件がいいから
- 会場の客席数が催し物にちょうどいいから
- 駐車場が確保できるから
- 設備や備品等が充実しているから
- 利用料金が手ごろだから
- 催し物を開催して赤字になりにくいから
- 職員やスタッフの対応がいいから
- その他

**質問8 ホールを利用したときに、困ったことはありますか。** (複数回答可)

- ・困ったことがあると回答した件数は「厚生会館」(553件)が最も多く、項目としては「駐車場が少ない」(251件)、「客席の前後や通路が狭い」(119件)、「客席のイスが小さい」(75件)の順になっている。
- ・利用したときに困ったこととして4館に共通している項目では、「駐車場が少ない」、「客席の前後の通路が狭い」の割合が高くなっている。

項目	厚生会館	鏡文化センター	桜十字ホール (ハーモニーホール)	市公民館 (旧バトリア)
駐車場が少ない	251	58	84	50
客席のイスが小さい	75	15	32	11
客席の前後や通路が狭い	119	30	63	18
ロビーやホワイエが狭い	40	16	50	8
トイレの場所がわかりにくい	27	20	36	16
暖房や冷房が効かない	21	1	12	6
その他	20	18	28	17
合計	553	158	305	126

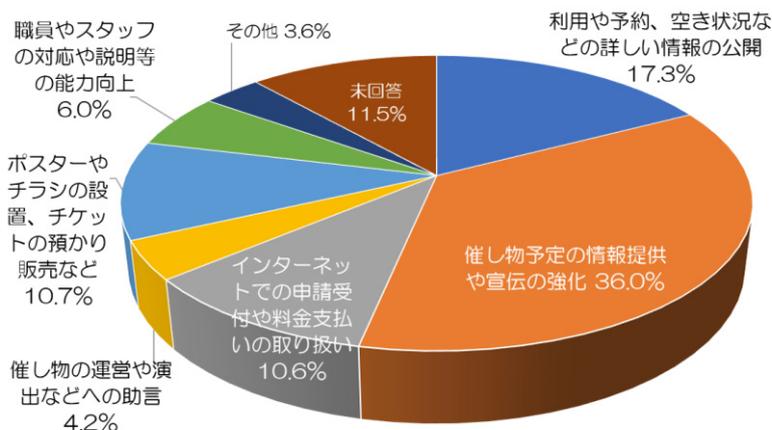


- 駐車場が少ない
- 客席の前後や通路が狭い
- 客席のイスが小さい
- ロビーやホワイエが狭い
- トイレの場所がわかりにくい
- 暖房や冷房が効かない
- その他

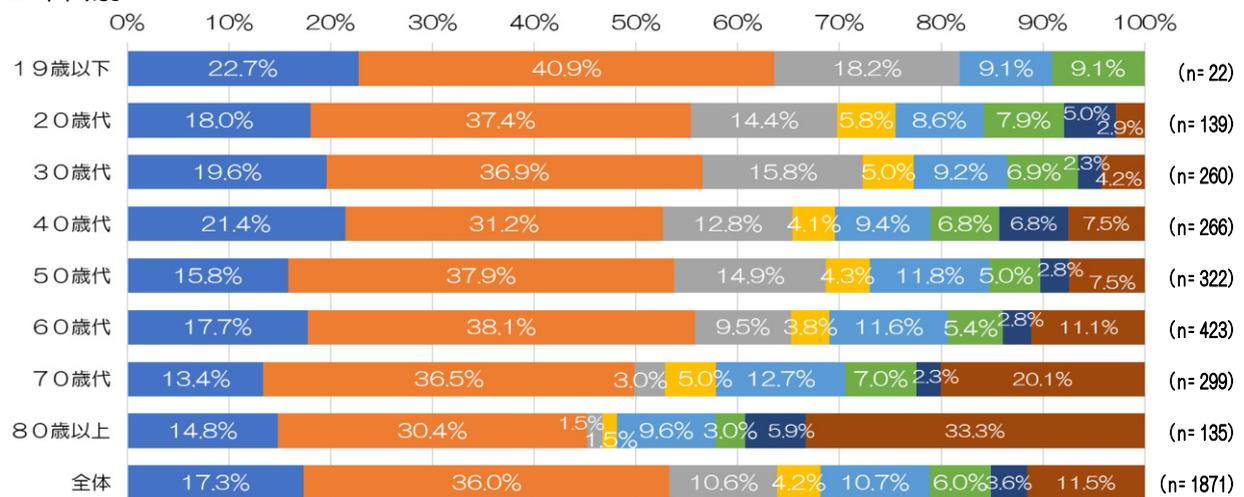
**質問9** どのようなサービスがあれば、文化ホール等施設を利用しやすくなると思いますか。 (複数回答可)

・ホール等を利用しやすくなるサービスとして、「催し物予定の情報提供や宣伝の強化」(36.0%)という意見が最も多く、「使用や予約、空き状況などの詳しい情報の公開」(17.3%)、「ポスターやチラシの設置、チケットの預かり販売」(10.7%)、「インターネットでの申請受付や料金支払いの取り扱い」(10.6%)の順となっている。

項目	回答数	割合
利用や予約、空き状況などの詳しい情報の公開	324	17.3%
催し物予定の情報提供や宣伝の強化	673	36.0%
インターネットでの申請受付や料金支払いの取り扱い	198	10.6%
催し物の運営や演出などへの助言	79	4.2%
ポスターやチラシの設置、チケットの預かり販売など	201	10.7%
職員やスタッフの対応や説明等の能力向上	113	6.0%
その他	67	3.6%
未回答	216	11.5%
合計	1871	100.0%



■年代別



(4) 自主文化事業やホールでの公演について

**質問1 自主文化事業に過去3年の間に行かれたことはありますか。** (複数回答可)

・過去3年間の行ったことのある自主文化事業では、「かがみふるさと音楽祭(H30)」(17.2%)、「かがみふるさと音楽祭(H29)」(13.9%)、「小椋佳・歌絃ぎの会」(12.3%)、「NAOTO&清塚伸也デュオコンサート」(8.1%)の順となっている。

項目	回答数	割合
林家木久扇・林家木久蔵親子会	16	5.2%
世良公則KNOCK・KNOCK2019	24	7.8%
ドリーミングファミリーコンサート	12	3.9%
めざましLIVE CONCERT TURE 2018	21	6.8%
NAOTO&清塚信也デュオコンサート	25	8.1%
岡本知高クリスマスコンサート	13	4.2%
ケロボンスファミリーコンサート	13	4.2%
かがみふるさと音楽祭(H30)	53	17.2%
旅立ち・そして思い出がいっぱいコンサート	5	1.6%
キエフバレエ	18	5.8%
小椋佳・歌絃ぎの会	38	12.3%
三遊亭小遊三・林家三平落語会	19	6.1%
ケロボンスコンサート	9	2.9%
かがみふるさと音楽祭(H29)	43	13.9%
合計	309	100.0%

質問2 自主文化事業に行かれた理由は、なんですか。(複数回答可)

- ・自主文化事業に行った理由として、項目別にみると、「内容に魅力を感じたから」という理由が多かったのは「小椋佳・歌絃ぎの会」(25人)「NAOTO&清塚信也デュオコンサート」(20人)が高くなっている。「出演者を見たいと思ったから」という理由が多かったものには「小椋佳・歌絃ぎの会」(31人)、「かがみふるさと音楽祭(H30)」(22人)、「世良公則 KNOCK・KNOCK2019」(21人)が多くなっている。
- ・「チケットの料金が購入にちょうど良かったから」という理由を選ばれているのは「NAOTO&清塚信也デュオコンサート」(12人)、「小椋佳・歌絃ぎの会」(11人)、「世良公則 KNOCK・KNOCK2019」(9人)、「三遊亭小遊三・林家三平落語会」(8人)となっている。

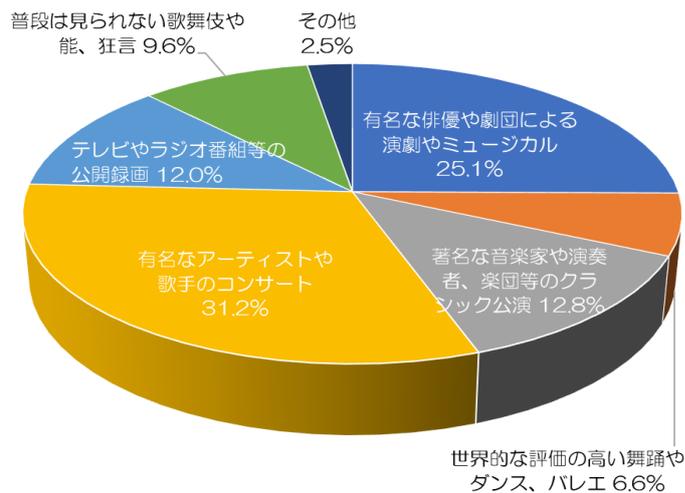
項目	林家木久扇・林家木久蔵親子会	世良公則 KNOCK・KNOCK2019	ドリーミングファミリーコンサート	TURKEY LOVE CONCERT 2018	めざましLIVE CONCERT	NAOTO&清塚信也デュオコンサート	岡本知高クリスマスコンサート	ケロボンズファミリーコンサート	かがみふるさと音楽祭(H30)	旅立ち・そして想い出がいっぱいコンサート	キエフバレエ	小椋佳・歌絃ぎの会	三遊亭小遊三・林家三平落語会	ケロボンズコンサート	かがみふるさと音楽祭(H29)
内容に魅力を感じたから	4	11	7	13	20	8	12	12	2	15	25	10	7	9	
出演者を見たいと思ったから	11	21	1	15	16	9	6	22	4	12	31	14	5	16	
公演の開始や終了時間が都合よかったから	3	8	2	2	6	4	4	5	3	2	7	3	5	5	
会場の大きさや雰囲気、場所などがいいから	1	3	0	1	2	1	0	7	2	3	3	2	0	5	
チケットの料金が購入にちょうどよかったから	8	9	5	3	12	9	4	4	2	8	11	9	4	5	
その他	1	1	1	0	0	1	1	3	0	0	0	0	1	3	

**質問3** どのような内容なら、文化ホール等施設での公演を見に行きたいと思いますか。

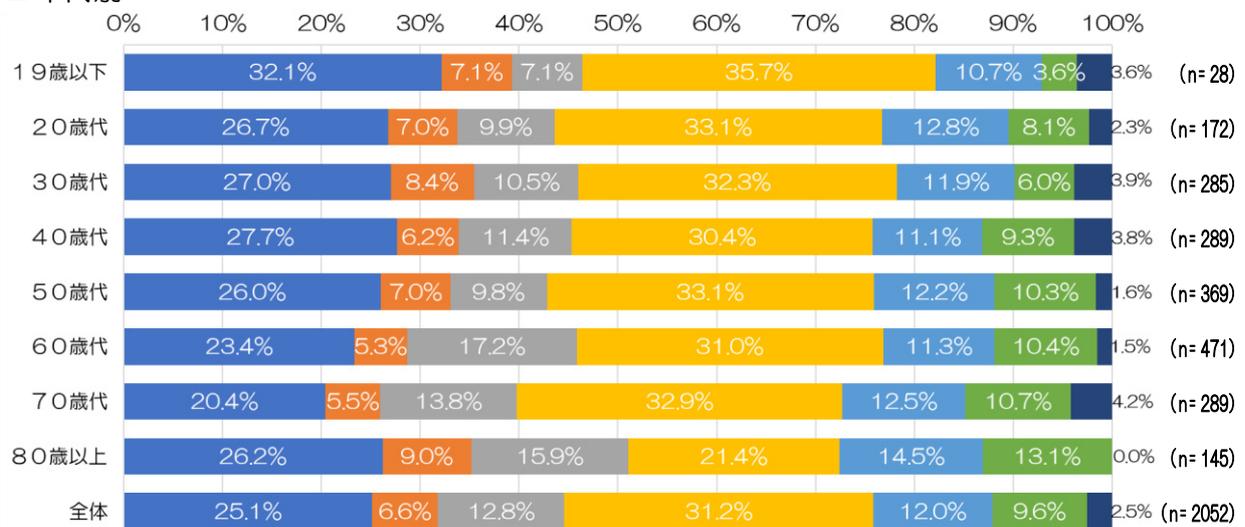
(複数回答可)

- どのような内容の公演を見に行きたいかの質問には、「有名なアーティストや歌手のコンサート」(31.2%)、「有名な俳優や劇団による演劇やミュージカル」(25.1%)、「著名な音楽家や演奏者、楽団等のクラシック公演」(12.8%)の順になっている。
- ほとんどの年代で「有名なアーティストや歌手のコンサート」の割合が高くなっている。

項目	回答数	割合
有名な俳優や劇団による演劇やミュージカル	516	25.1%
世界的な評価の高い舞踊やダンス、バレエ	136	6.6%
著名な音楽家や演奏者、楽団等のクラシック公演	263	12.8%
有名なアーティストや歌手のコンサート	641	31.2%
テレビやラジオ番組等の公開録画	247	12.0%
普段は見られない歌舞伎や能、狂言	197	9.6%
その他	52	2.5%
合計	2,052	100.0%



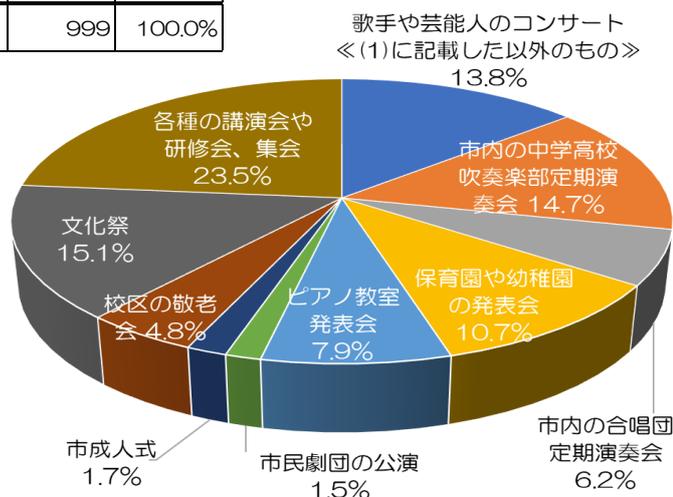
■年代別



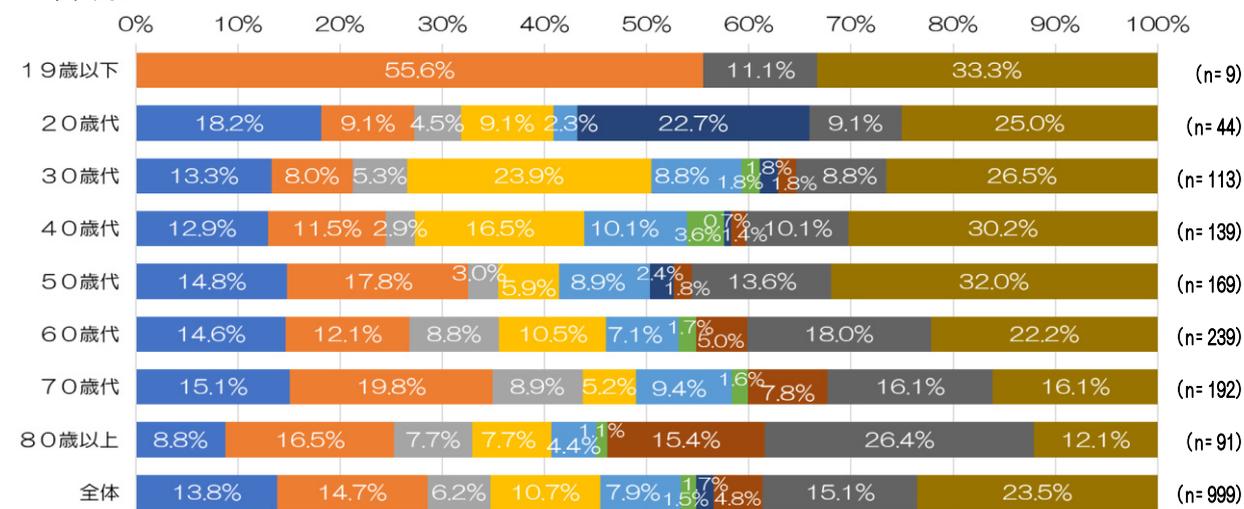
**質問4 過去3年間に、自主文化事業以外の演劇や音楽、その他の公演で、文化ホール等施設に行ったことはありますか。** (複数回答可)

・過去3年間に自主文化事業以外で文化ホール施設に行ったことがあるものとしては、「各種の講演会や研修会、集会」(23.5%)、「文化祭」(15.1%)、「市内の中学高校吹奏楽部定期演奏会」(14.7%)「保育園や幼稚園の発表会」(10.7%)などの催し物で行かれている。

項目	回答数	割合
歌手や芸能人のコンサート <<(1)に記載した以外のもの>>	138	13.8%
市内の中学高校吹奏楽部定期演奏会	147	14.7%
市内の合唱団定期演奏会	62	6.2%
保育園や幼稚園の発表会	107	10.7%
ピアノ教室発表会	79	7.9%
市民劇団の公演	15	1.5%
市成人式	17	1.7%
校区の敬老会	48	4.8%
文化祭	151	15.1%
各種の講演会や研修会、集会	235	23.5%
合計	999	100.0%



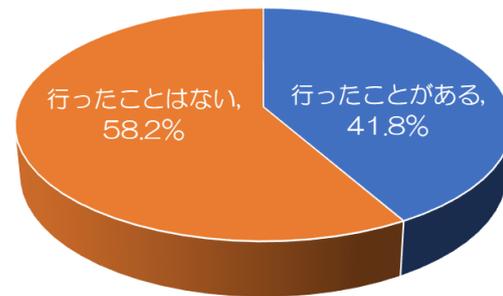
■年代別



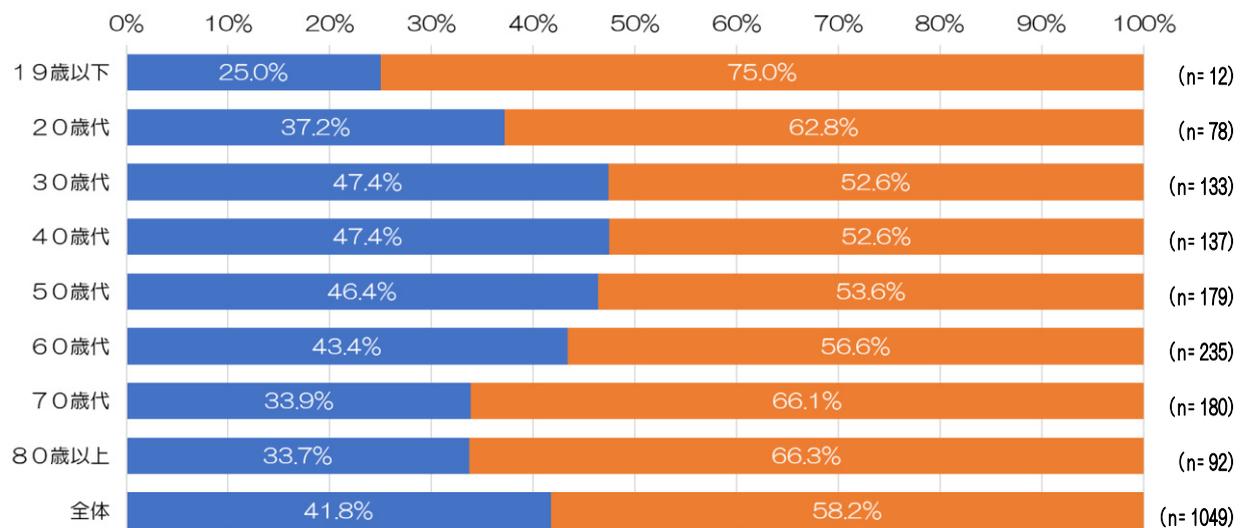
**質問5 過去3年間に、八代市以外で演劇や音楽、その他のホールでの公演に行ったことはありますか。**

・過去3年間に、八代市以外のホール公演に行ったことがある人は41.8%であった。年代としては30歳代から60歳代が多くなっている。

項目	回答数	割合
行ったことがある	438	41.8%
行ったことはない	611	58.2%
合計	1,049	100.0%



**■年代別**

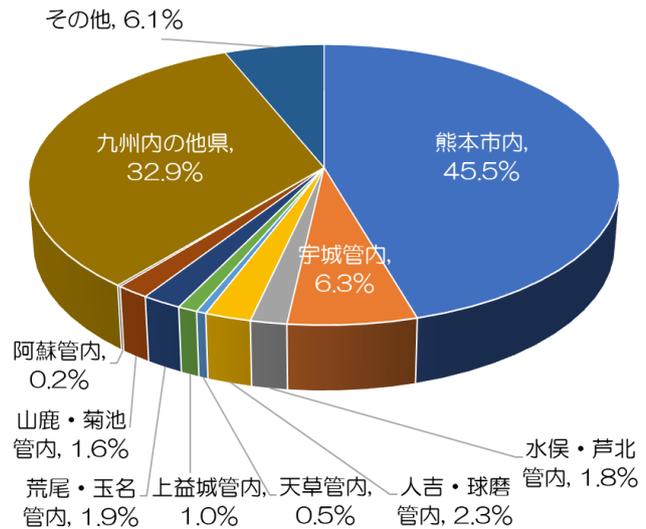


質問6 過去3年間で八代市以外のホールでの公演に行ったのは、どこですか。

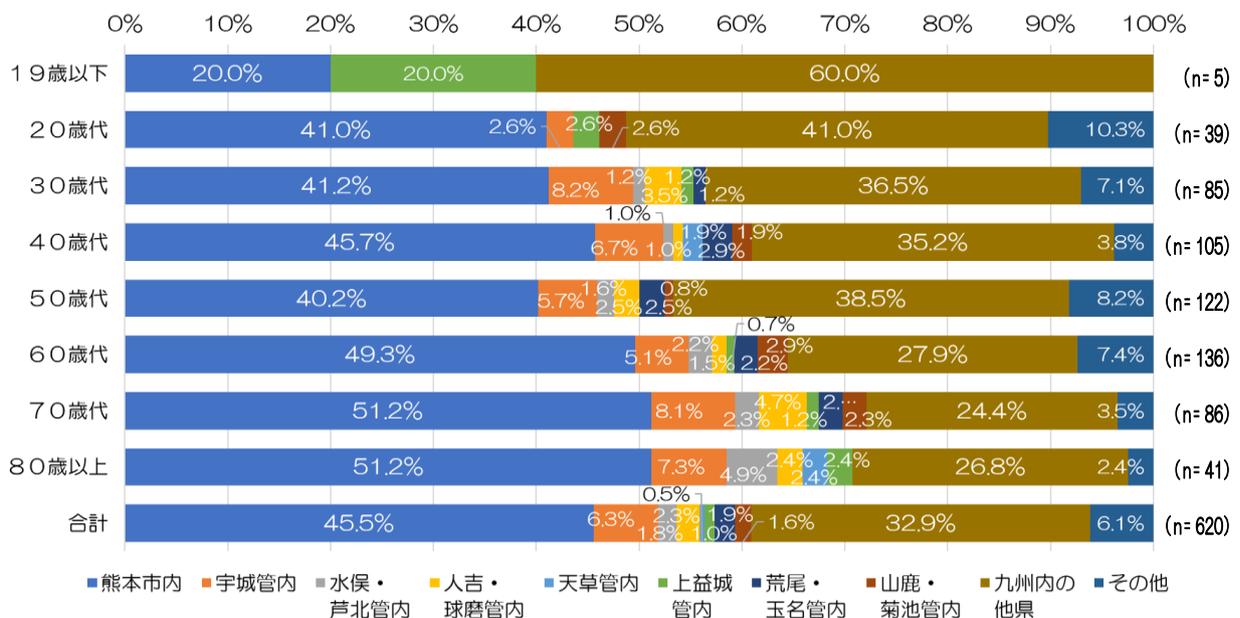
(複数回答可)

・熊本市内(45.5%)が最も多く、次いで九州内の他県(32.9%)、宇城管内(6.3%) 其他(6.1%)となっている。

項目	回答数	割合
熊本市内	282	45.5%
宇城管内	39	6.3%
水俣・芦北管内	11	1.8%
人吉・球磨管内	14	2.3%
天草管内	3	0.5%
上益城管内	6	1.0%
荒尾・玉名管内	12	1.9%
山鹿・菊池管内	10	1.6%
阿蘇管内	1	0.2%
九州内の他県	204	32.9%
その他	38	6.1%
合計	620	100.0%



■年代別

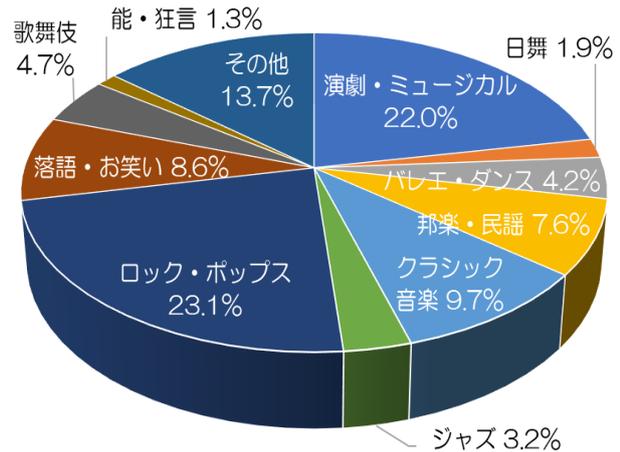


質問7 過去3年間で八代市以外のホールでの公演に行ったジャンルは、なんですか。

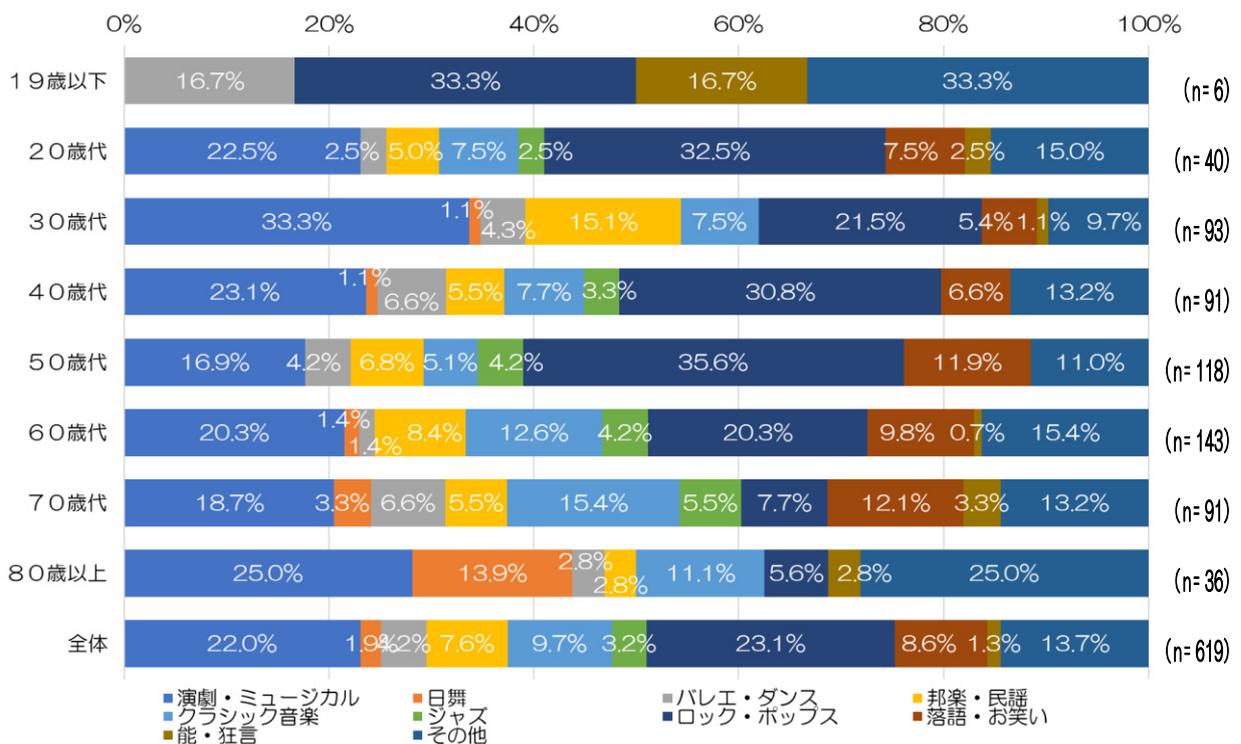
(複数回答可)

・市外のホール公演に行くジャンルでは、全体としては、「ロック・ポップス」(23.1%)、「演劇・ミュージカル」(22.0%)、クラシック音楽(9.7%)の順に多くなっている。年代別で比較すると、「ロック・ポップス」は50歳代以下の年代で比較的多く、「演劇・ミュージカル」は年代にかかわらず市外に出かける割合が多かった。他と比較して80歳代以上で「日舞」の割合が多かった。

項目	回答数	割合
演劇・ミュージカル	136	22.0%
日舞	12	1.9%
バレエ・ダンス	26	4.2%
邦楽・民謡	47	7.6%
クラシック音楽	60	9.7%
ジャズ	20	3.2%
ロック・ポップス	143	23.1%
落語・お笑い	53	8.6%
歌舞伎	29	4.7%
能・狂言	8	1.3%
その他	85	13.7%
合計	619	100.0%



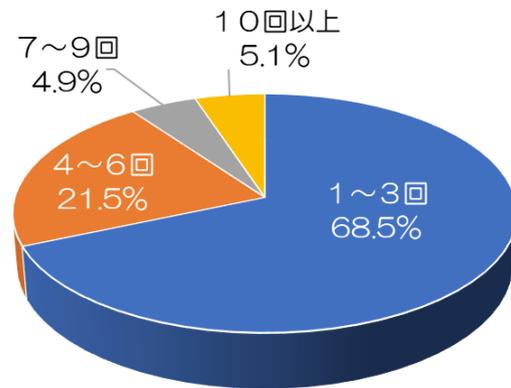
■年代別



**質問8 過去3年間で、何回ぐらい八代市以外のホール公演に行かれましたか。**

・過去3年間では「1～3回」が68.5%と最も多く、「4～6回」(21.5%)「7回以上」(10.0%)となっている。

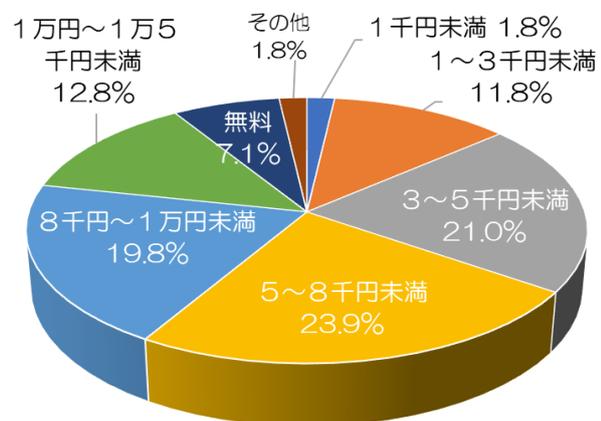
項目	回答数	割合
1～3回	296	68.5%
4～6回	93	21.5%
7～9回	21	4.9%
10回以上	22	5.1%
合計	432	100.0%



**質問9 八代市以外のホール公演1回あたりのチケット料金は平均いくら程度ですか。**

・「5～8千円未満」(23.9%)が最も多く、次いで「3～5千円未満」(21.0%)、「8千円～1万円未満」(19.8%)の順になっている。5千円以上払っている割合が56.5%であった。

項目	回答数	割合
1千円未満	8	1.8%
1～3千円未満	52	11.8%
3～5千円未満	92	21.0%
5～8千円未満	105	23.9%
8千円～1万円未満	87	19.8%
1万円～1万5千円未満	56	12.8%
無料	31	7.1%
その他	8	1.8%
合計	439	100.0%

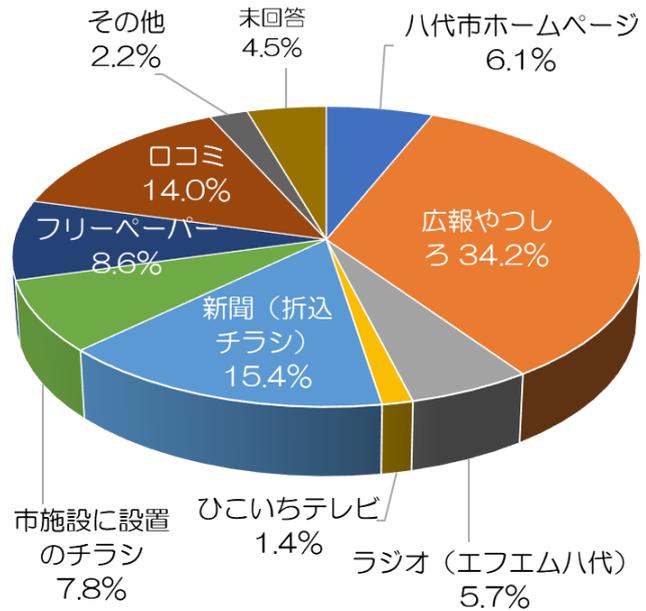


(5) 文化ホールのイベントや行事、利用等に関する情報発信について

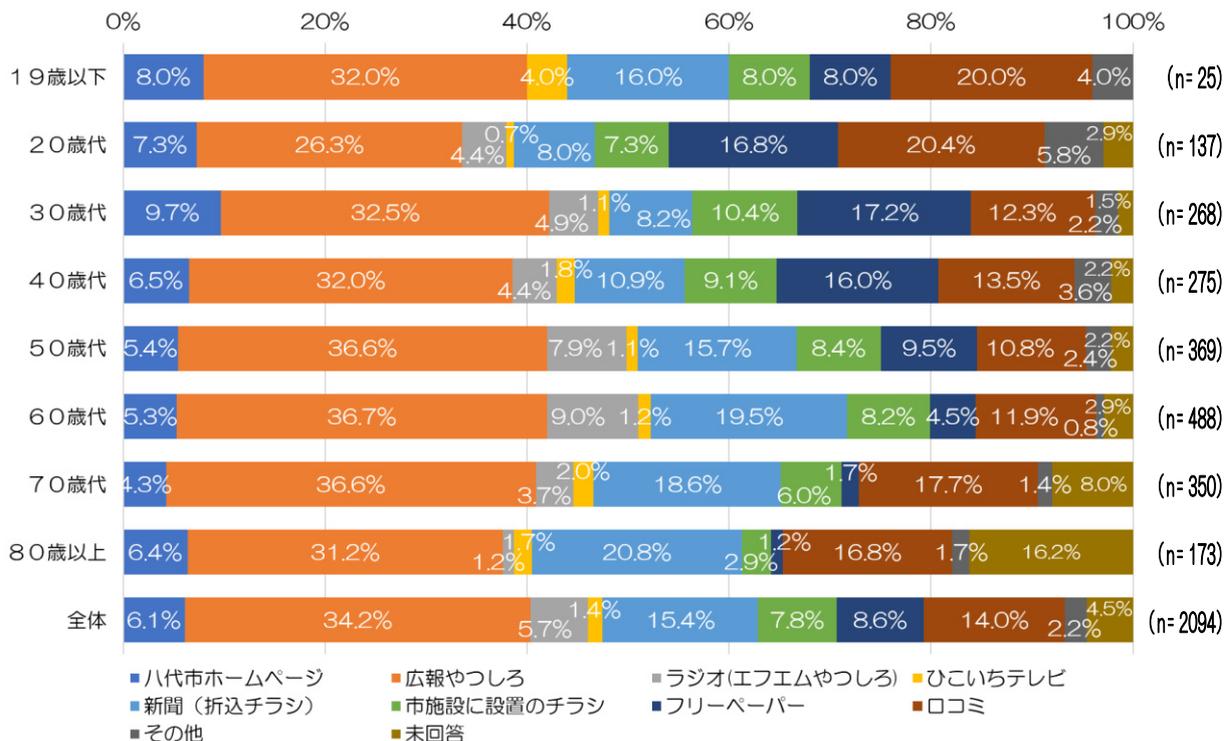
**質問1 あなたが文化ホールのイベントや行事、利用等の情報を得る手段として、日ごろ多く利用している手段は何ですか。** (複数回答可)

・全体としては、「広報やつしろ」(34.2%)、「新聞(折込チラシ)」(15.4%)など紙媒体での情報を利用している人が多かった。年代別で見ると特に10歳代、20歳代で「ロコミ」の割合が2位となっていた。それぞれの年代で情報を得る手段に違いがみられることが分かった。

項目	回答数	割合
八代市ホームページ	128	6.1%
広報やつしろ	717	34.2%
ラジオ(エフエム八代)	119	5.7%
ひこいちテレビ	30	1.4%
新聞(折込チラシ)	323	15.4%
市施設に設置のチラシ	163	7.8%
フリーペーパー	180	8.6%
ロコミ	293	14.0%
その他	46	2.2%
未回答	95	4.5%
合計	2,094	100.0%



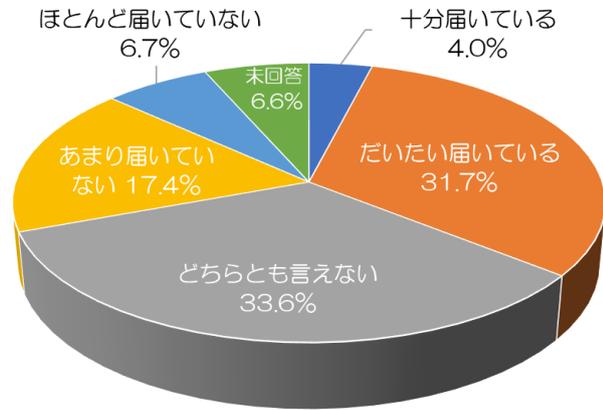
■年代別



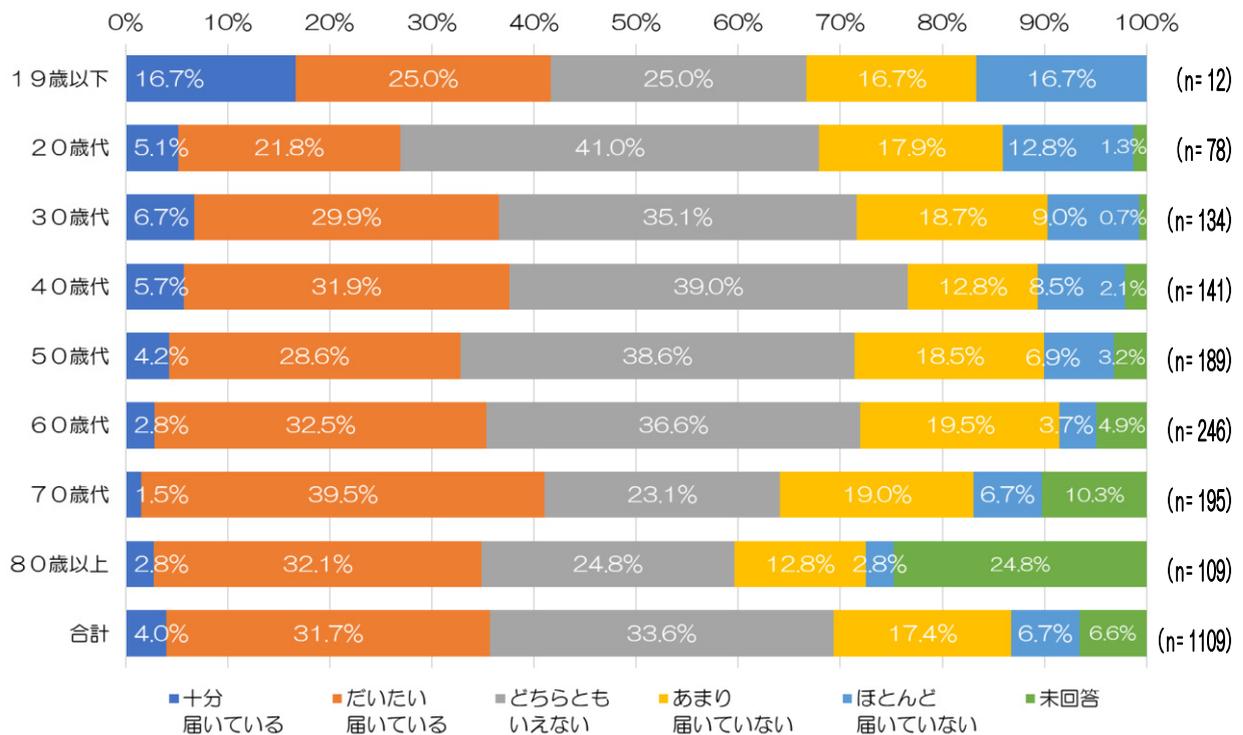
**質問2 あなたが必要とする情報は十分届いていると感じますか。**

・「十分届いている」(4.0%)、「だいたい届いている」(31.7%)合わせて35.7%であった。「どちらとも言えない」(33.6%)を含め6割以上は届いているとは言い難い現状となっている。

項目	回答数	割合
十分届いている	44	4.0%
だいたい届いている	352	31.7%
どちらとも言えない	373	33.6%
あまり届いていない	193	17.4%
ほとんど届いていない	74	6.7%
未回答	73	6.6%
合計	1,109	100.0%



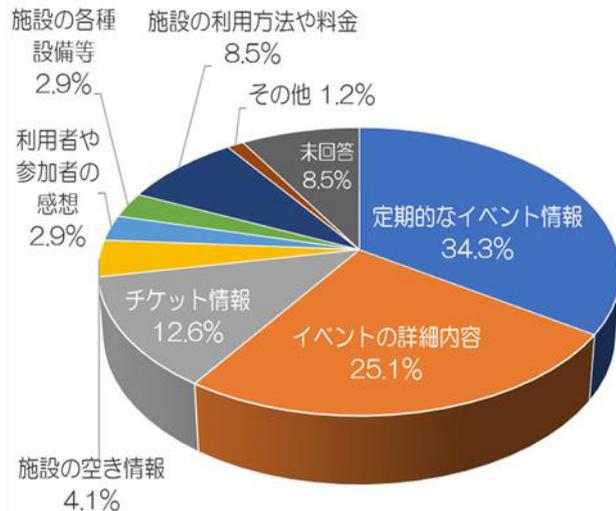
**■年代別**



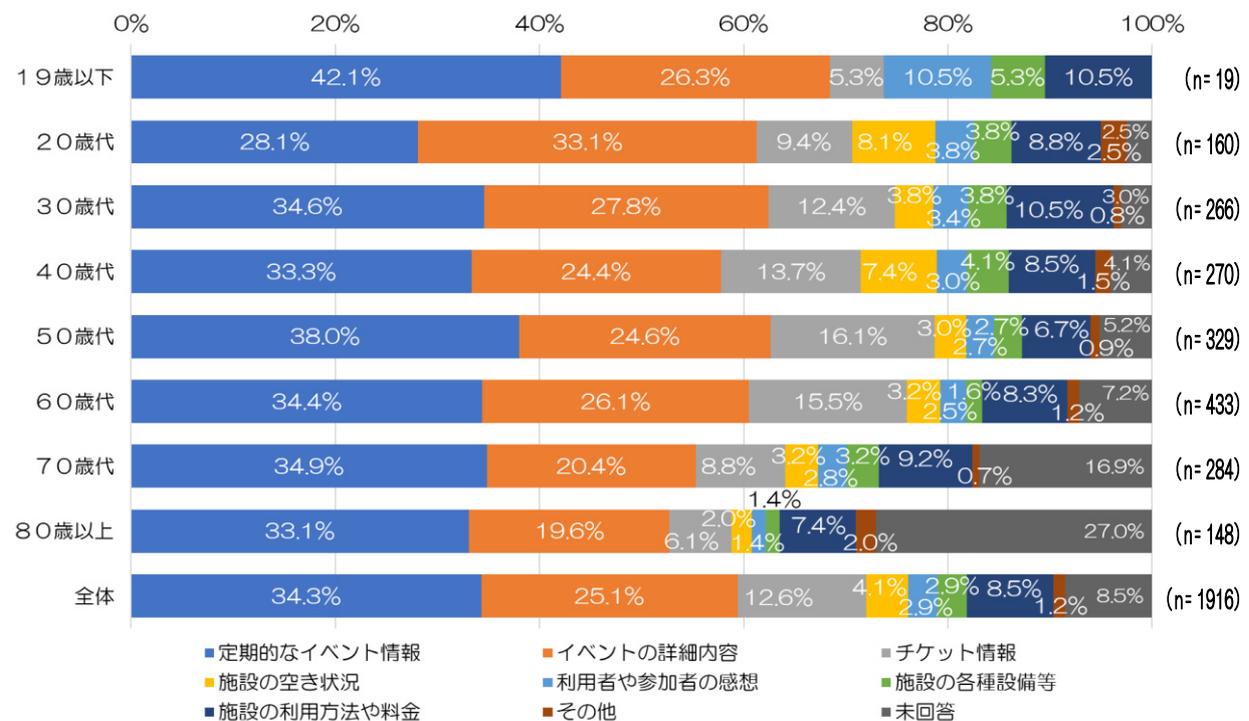
質問3 どのような情報提供に力をいれてもらいたいと思いますか。 (複数回答可)

・力を入れてもらいたい情報提供の内容としては、「定期的なイベント情報」(34.3%)が最も多く、次に「イベントの詳細内容」(25.1%)、「チケット情報」(12.6%)となっている。定期的かつ詳細なイベント情報の提供を全年代で望んでいるようである。

項目	回答数	割合
定期的なイベント情報	658	34.3%
イベントの詳細内容	480	25.1%
チケット情報	241	12.6%
施設の空き情報	79	4.1%
利用者や参加者の感想	55	2.9%
施設の各種設備等	55	2.9%
施設の利用方法や料金	162	8.5%
その他	23	1.2%
未回答	163	8.5%
合計	1,916	100.0%



■年代別



## (6) 文化ホールの今後の取り組みについて (抜粋)

・子供も大人も本物に触れる機会が多くほしい。もっと大きなホールで演劇やショーを気軽に見に行けるといいなと思う。(福岡など遠いので)《女性・40歳代》

・絵画などの展示、子供と一緒に見たりできる美術館的な所があるといいなと思っています。子供と一緒になのでゆっくり回れないことも多く、チケットの値段が高いと行こうとは思わないので、ワンコイン程度だとうれしいです。《女性・20歳代》

・ダンスコンテスト、世界ダウン症の日など障害者のイベント、外国人観光客に向けた1時間程度の公演(伝統芸能など)、ファッション関係のイベント、映画鑑賞、カラオケ大会、韓国人アーティストによるLIVE、ボディコンテスト、八代市民に向けた災害時の対応、セミナー(有名人・起業家・ダンサー等)《女性・20歳代》

・映画などの上映が昔みたいにあると行くと思う《女性・30歳代》

・学生のイベント→寄席など。以前厚生会館で細川たかしショーを観に行き、細川たかしさんがもっと大きいホールがあったら客がいっぱい来ると思います。ハーモニーホールは、設備はいいですが客席が少なく残念だと言っていました。厚生会館もたくさん客席を増やしたらいいと言っていました。細川さんもいい設備があれば、芸能人が来ますと言っていました。《男性・60歳代》

・88歳になる母が歌やおどり等見に行くことを楽しみにしています。近くで見られるので、負担に感じなく喜んでます。ぜひ続けていただけたらと思います。《女性・60歳代》

・吉本新喜劇やお笑い、20~30年前に流行した歌手のコンサート《女性・50歳代》

・福岡博多座である、劇団四季等のミュージカルがあったらいいと思っています。《女性・70歳代》

・若者に人気のある人(アーティスト)のコンサートや舞台を見たい。熊本市内や福岡からも観に来るような魅力のあるアーティストを呼べる文化ホールを作ってもらいたい。《男性・30歳代》

・クラシック公演に以前行った事がありましたが、すごく感動しました。この様な催し物も考慮して頂ければと思います。料金は少し高くなるんですけど。《女性・60歳代》

・ホールで何が行われているのか市民に行き渡るように情報提供を第一に力を入れていただきたい。《男性・40歳代》

・具体的にはありませんが、子供の為にテレビ、ビデオなどと違って生の舞台を見せてあげてほしいと思います。《女性・60歳代》

・全世代向けのイベントとなると、つまらなくなるのでターゲットを決めてイベントを実施したらどうか。地元の文化ホールであるイベントイコール年寄向けのつまらないものというイメージがある。《女性・40歳代》

・クラシックやジャズなどのコンサートを多くして欲しい。元や熊本及び九州出身者などの活躍の場の提供をして欲しい。一流演奏者だけでなく、これからの人を育成するようにして欲しい。《男性・70歳代》

・NHKのおかあさんといっしょをやってほしい。《女性・30歳代》

・プロの演劇やミュージカルを見てみたい。チケット代が高くて、きっと人は集まるはず。《女性・50歳代》

・ツイッターのアカウント作ってほしい(もうあるならすみません)。割とSNSとかでこういうことあるよってしてもらえると、イベント見られるかも。《女性・20歳代》

・小さな会館をいくつも設けるより、いい加減厚生会館を新しく、大きくして、もっと一流で有名な人を呼べるようにして欲しい。現在のままだと興味の持てる催しや人が来ない。《女性・50歳代》

・色々な年代で楽しめる企画を考えていただけると嬉しいです。地域参加型のイベントなど。祖母と一緒にいきたいので映画などもしてほしいです。《女性・20歳代》

・若い方の文化芸術離れが感じられます。年に1回ぐらいは若い方が喜びそうな話題性のある方の出演とか八代での催し物に興味を持って頂きたい。フリーペーパーやネットなど活用され興味を持って頂きたいですね。《女性・50歳代》

・テレビの公開収録(なんでも鑑定団・のど自慢・笑点)。ミュージカルが見たい。八代の音楽祭・チャリティーイベント等《女性・40歳代》

・普段は見られない歌舞伎や能、狂言など日本の芸術文化《女性・50歳代》

・厚生会館か桜十字で明治大学の皆さんのマンドリン演奏を是非企画して頂きたいです。《女性・60歳代》

・アクアリウム等のイベントはないだろうか?《男性・30歳代》

・東南アジアからの農業研修生と八代市の高校生や青年団の文化交流としての演劇など《男性・60歳代》

・行きたいと思う催しがないのでこれから見に行きたいと思うイベントが増えますよう期待しています。

子供が小さいので小さい子供向けの催しをお願いします。《男性・40歳代》

・プロでもアマチュアでも音楽演奏会をもっと増やしてほしい。《女性・30歳代》

・とにかく若い世代の方々が集まる場を作るべきと思う。そのためにもコンサートやライブができる施設を作り他県からもたくさんの方々に来てもらう様な考え方はできないのでしょうか？八代の文化を展示するような施設は一時的にはいるかもしれませんがその後は、誰も入らなくなるのはわかっています。現に博物館があるのですからそこに常設すればよいのではないのでしょうか。余計な税金を出さないように考え方の方向転換をしてください。古い人の考えを引きずっている八代は時代遅れです。若い人や地元の方々が底辺で頑張っているだけでも微々たる成果です。是非、八代の底力を有能な方々の力で上げてください。《女性・20歳代》

・コロナ対策セミナー、副業やFXの説明会、異文化交流、弁護士相談会など、地元学生と老人の交流会、花道や絵の展示会、撮影会などホール活用《女性・30歳代》

・クラシック音楽のコンサート（以前、日本フィルのコンサートが厚生会館であった）《男性・70歳代》

・各町で行っているイベント祭りを市の大型施設や駐車場で行う。各町からの無料送迎バスを出して参加してもらう。各町の祭りを合体させて期日を決め（2～3日間とか）各町のブースを造作する等。《男性・50歳代》

・市民参加型（特に若者が）色々なジャンルでその取り組みを気軽に発表できる場を提供して欲しい。また、そういうイベントをしているということを若者にしっかり届けて欲しい。イベントを企画する人も育てて欲しい。さわやかヤングステージ等がありますが、もっとサブカルチャー的活動をしている人達にも広く周知できる工夫をしてもらい、もう少しハードルの低いものにして参加する底辺を増やせたらいいのになぁと思います。何となくホール＝気軽に足を運べる所というイメージが八代には根づいていないように感じます。《女性・50歳代》

・わざわざ熊本市内のホールに行くよりも八代のホールで有名な演劇やコンサートが見られるのであれば足を運びたいと思います。できれば1回公演だけでなく2回公演とか何日間か公演とかがあれば見に行くチャンスが広がり嬉しいです。《女性・40歳代》

・これまで優れた成績、実績を修められてスポーツ選手、文化人等の講演等《男性・70歳代》

・有名なアーティストは熊本市民ホールには良く来演していますが、なかなか八代までは来ることがありませんね。残念です。集客人員の問題もあると思いますがなんとかありませんかね。《男性・60歳代》

・子供達のための講演会や定期的な映画会等をできれば良いですね。子育ての中の悩みは集うことでコ

ミュニケーションの場を広げて行けると思うのですが、早くコロナウイルスが大人しくなってくれるといいですね。《女性・60歳代》

・デイサービスを利用しておられる方にお笑い芸人でお年寄りが笑う姿があれば脳の活性化によいと思います。予防介護になるのでは。《男性・70歳代》

・新型コロナによりイベントに関する集客が難しくなっている現状を考えると今までのようなやり方では成り立たないのかもしれませんが。コロナ終息時にイベントが復活するという事も難しいでしょう。しかしながら文化を衰退させないためにも熊本の中でも八代市がリーダーとなり新しい取り組みを専門家と連携してやってもらいたいです。例えば、箱型ホール、5G、イベント、プロジェクションマッピング…具体的には分かりませんが今までにないコンサートとか見てみたいです。《女性・50歳代》

・若人はライブハウス等で色々な事をやっている様ですが、中高音向けの歌手のコンサート等などをやって頂きたい。財政状況などで大変だと思いますが文化行事は大事だと思います。《男性・70歳代》

・地域の小中学校の生徒の発表会に興味があります。年齢が多い関係で昔の様に元気に鑑賞できる体でないため意欲が低いと自分で思います。《女性・80歳以上》

・来館されずともLIVE中継などを有効に活用し、三密にならない設定が必要になると考える。《男性・60歳代》

・子育て中の若いお父さん、お母さんが親子でゆっくり楽しめるコンサートや演劇、あそびうた等《女性・60歳代》

・子供向けのコンサート（アンパンマン・トーマス・わんわん等）のイベントにはとても興味があるのでたくさん講演していただきたいです。子供と一緒に楽しめる（子供が騒いでもOK等気軽に行ける）クラシックコンサートや映画上演などがあればありがたいなと思います。《女性・30歳代》

・自分からアクセスするだけでなく、ホール側からの情報が届くシステムにして頂くと目に触れる機会が増えて利用することが増えると思います。《女性・50歳代》

・日本国内・外のオーケストラ、歌舞伎、文楽、舞踏の鑑賞が出来るように。今より舞台を大きく。《女性・70歳代》

・八代市内出身者にも優れた表現者の方がいらっしやるので、見る機会が欲しい。演劇や和太鼓、ミュージカルの本物に触れたいです。《女性・50歳代》

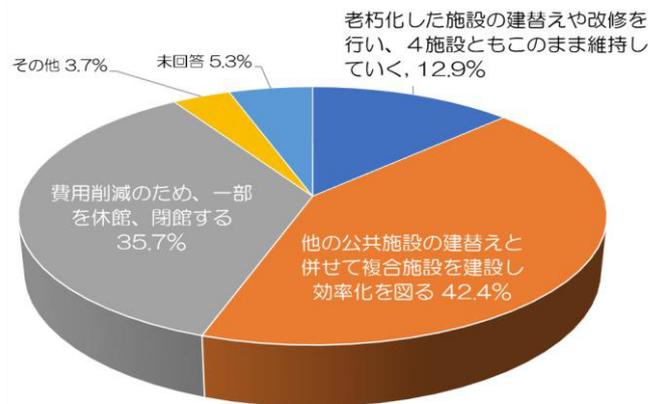
・学校関係（保育園、幼稚園、小中学校等）の発表会、文化祭、催し物を各々の体育館でなく、文化ホール等を利用したり、合同の大きな大会を行ったりできたら、県、九州大会など開催してみてもは。《女性・60歳代》

(7) 文化ホール等施設の今後のあり方について

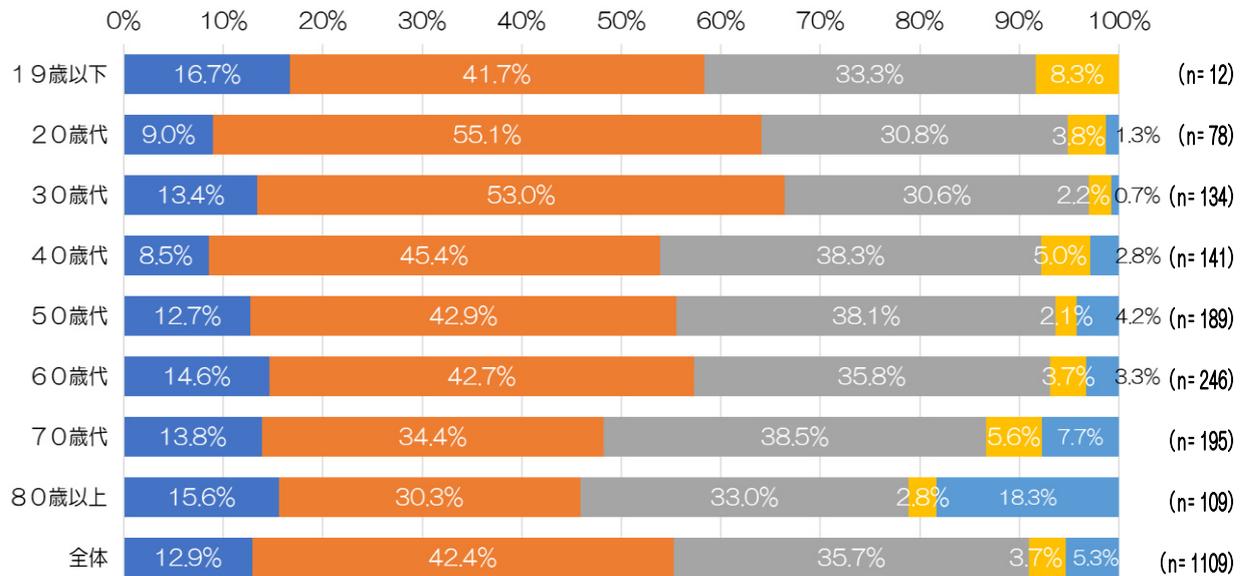
**質問1 八代市の4つの各施設は、今後老朽化に伴い改修や運営に要する費用は増加していくことが見込まれます。この状況をふまえて、どの取り組みが適切だと思いますか。**

・「他の公共施設の建替えと併せて複合施設を建設し効率化を図る」(42.4%)との回答が最も多く、「費用削減のため、一部を休館、閉館する」(35.7%)が次に多かった。逆に「老朽化した施設の建替えや改修を行い、4施設ともそのまま維持していく」(12.9%)との回答は少なく、財政状況に合わせた施設の縮減、効率化の考えをもっている方が多い状況であった。

項目	回答数	割合
老朽化した施設の建替えや改修を行い、4施設ともそのまま維持していく	143	12.9%
他の公共施設の建替えと併せて複合施設を建設し効率化を図る	470	42.4%
費用削減のため、一部を休館、閉館する	396	35.7%
その他	41	3.7%
未回答	59	5.3%
合計	1,109	100.0%



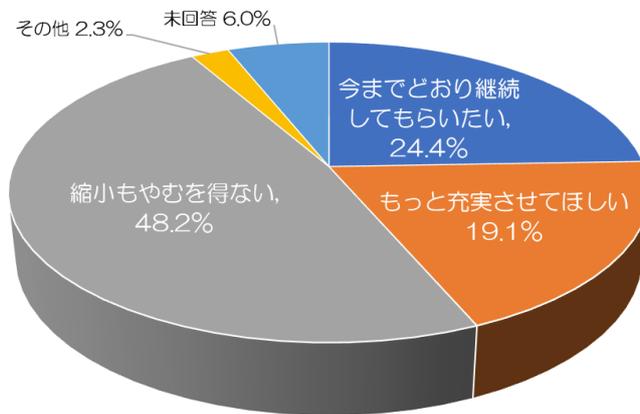
■年代別



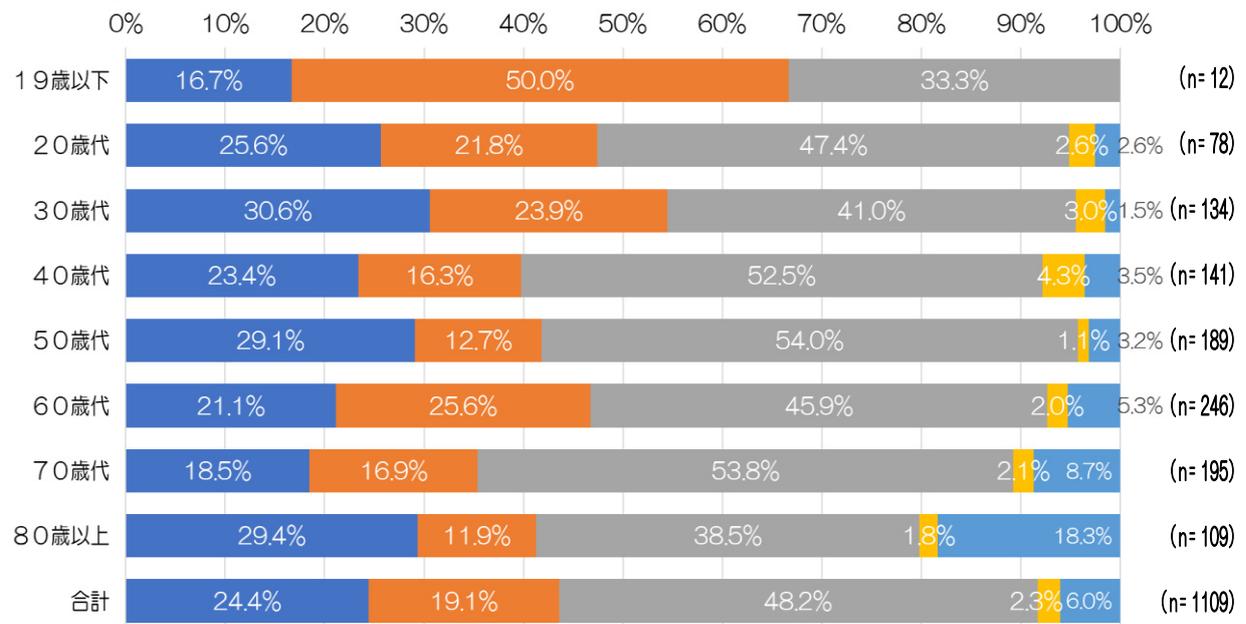
**質問2 文化ホール等が行う自主文化事業について、今後どのようにすべきと思いますか。**

・「状況の変化次第で、自主文化事業の縮小もやむを得ない」(48.2%)との回答が最も多いものの、「今までどおり継続してもらいたい」(24.4%)、「もっと充実させてほしい」(19.1%)を合わせて4割以上の方が自主文化事業の継続・充実を望んでいることが分かる。

項目	回答数	割合
状況が変化しても、自主文化事業は今までどおり継続してもらいたい	271	24.4%
状況の変化に関わらず、自主文化事業はもっと充実させてほしい	212	19.1%
状況の変化次第で、自主文化事業の縮小もやむを得ない	534	48.2%
その他	25	2.3%
未回答	67	6.0%
合計	1,109	100.0%



**■年代別**



## (8) 文化ホール等施設に対しての自由意見 (抜粋)

・子供が小さいうちは年に数回文化祭や発表などで利用していた。・現在は仕事が多忙由、会議、研修以外での使用はしていない。・不必要な費用はつき込んでいただきたくない。・施設や事業の縮小やむなし。

《女性・40歳代》

・施設に関して何もありませんが、無作為に選んでアンケートを取るのではなく、利用している人に聞くべきではないかと思えます。私みたいに何十年も利用していない者にとっては何もわからないので。

《女性・40歳代》

・どの施設も職員等の受け答えが悪い。ハーモニーは時に施設のイス等もう少しクッションが良い物になりませんか。《男性・70歳代》

・福岡や熊本市内まで行かないとコンサートや有名な演劇が観られないのが残念です。近くで楽しめる企画がもっとたくさんあればいいのと思う。本物に触れる感動とワクワク感を子供と一緒に、親と一緒に、(それぞれ別の)幅広い世代で味わえる様々な企画を期待します。《女性・40歳代》

・「文化は生命維持装置」海外の政府が発言したように、状況がどうであれ、文化は縮小していくものではないと思えます。子供たちが身近に感じて、小さな頃から触れることで教養やセンスは育つものだと思うので、何であれ自主文化事業はこれからも頑張りたいです。私も今まで調べたりしていませんでしたので、積極的に利用していきたいなあと思えました。《女性・20歳代》

・場所が不便であることと、駐車場が不足しているかなど、一番参加するかどうかで断念する原因になっている。(老化に伴い)情報が入手しにくい。《女性・70歳代》

・同規模の施設をいくつも管理するよりも、他市町とも比較し、より充実した運営ができるよう規模の大きいものや施設の個性を特化したものにしてはどうか。《男性・60歳代》

・複合施設を建設の場合、南九州にはあまりないスポーツ施設等が良いと思えます。(体操場、ボルダリング、パルクール、サスケなど)・八代在住のプロアーティストに出演料などの謝礼をもう少し待遇良くしてほしいです。《女性・20歳代》

・市外に出かける手段がない人にとっては、近くで開催されるのはとてもうれしいです。《女性・60歳代》

・これから先も文化というものは受け継いでいかなければならないと思えます。将来のことも考えて、今の若者世代にも興味を持ってもらうことが大切だと思います。例えば、今はポップミュージックなど人気ですが、それもひとつの文化であり、ライブなど皆で一体となって楽しむのも文化だと思います。今後グローバル化がますます進んできて、今までと

はちがう”色々なあり方”が重要視されていくと思うので、もちろん、昔からの伝統文化を発信することは必要ですが、今後の社会のあり方のように、例えば、デザインにもこだわったり、照明なども幅広いものなど、広い視野で考えていくのが様々な面で大事になってくると思えました。《女性・19歳以下》

・色々な分野のものがあるといいと思えます。他の施設と併せて作り、色々な人が来られるような施設が一つあるとすごくいいと思えます。古いものを大切にすることは大切だと思いますが、町を活性化させるには新しいものを取り入れていくことも大事だと思います。《女性・40歳代》

・学生などが気軽に集まれるような安全な憩いの場になってほしいと思う《女性・20歳代》

・施設の維持費よりもほかの事に費用を使って欲しい。《女性・30歳代》

・小ホール規模で1,000人程度集員できる厚生会館はぜひ残して欲しいが57年経過している為建て替えの検討をして欲しい。ただ同場所となると、駐車スペースの確保が困難な為そちらの検討も必要に思えます。《男性・30歳代》

・特に利用した事がないのでよく分かりません。維持するのが難しいのであれば、縮小や休閉館することもやむを得ないのでは?と思えます。《男性・40歳代》

・自主文化事業については有名な方のチケットは手に入りにくいことがよくあります。自主文化事業でチケット代が安くなることはとてもありがたいが、それだけでは、八代市に文化は根付かないと思ったりします。文化芸術の維持、向上には個人の負担が必要であると思っています。八代市の財政や今後の状況からも縮小はやむを得ないと思うところです。施設があることはうれしいことですが...《女性・60歳代》

・4つのホールで利用合計が543件だから2か所残して他2つは閉館して欲しい。人口126,000くらいの市で4つもホールあるわけがないだろ。できれば1つでいい。鏡・ハーモニー・パトリアは規模的に近いから1つにして、厚生は38,528人/116件=332人/件(1回の席が埋まる率34.5%)だから席が埋まっているのか疑問《男性・30歳代》

・40数年八代を離れ生活をしていました。私にとって文化ホールといえば厚生会館です。ホールの利用状況、音響照明(設備)等分かりませんが、どんな文化芸術活動もこなせるホールであって欲しいと思います。ロビー・ホワイエの必要性劇場とホールを兼ね備えた施設を期待しています。八代という場所の文化ホール1つでいいのではと思います。それも厚生会館《女性・60歳代》

・これから先出生率の低下、高齢化が進み大変だと

思う。縮小もやむを得ない。ロビーが広い部屋があったら全国有名な物産展等開催されてもよいのかと？《男性・80歳以上》

・ホール客席数が有名芸能人を呼ぶには最低1,500席必要（他県には小さな市でも1,300席ホールもある）小さなホールが多数あっても税金のムダ使い。ホールは使ってもらわないと利益は出ない。3年で数回しか少し大きなイベントがないなら管理費・人件費のムダ。市民の税金を使っていることをしっかり考え必要最小限でいいと思う。《男性・50歳代》

・ある方が人吉と比較されていた。カルチャーパレスとスポーツパレスが同じ場所にあり相互補完をしている。文化的事業も八代を飛び越して人吉では行われている。施設が分散するのではなく、大きくて機能的なもの。使いやすいものを造ってください熊本県下第二の都市ですよ。プライドはどこにありますか？《男性・60歳代》

・利用状況を判断し適切な処置をしてほしい。収益状況は気になる。維持費の方がかかるのでは？正直あまり目立つことがないような気がする。箱物は時代とともに変化を求められるので負担にならない決断をお願いします。《男性・40歳代》

・八代市にある4つの施設も老朽化に伴い2つ位の施設に残して行った方が良くと思います。《女性・70歳代》

・私の60～70代は、厚生会館、ハーモニーホールが週一で通った。稽古ごとの発表会につながりとても楽しみの一つでした。文化ホール等の発展は、ありがたいです。《女性・80歳以上》

・財政状況を見ると選択と集中を考慮しコスト削減のため、一部閉館も止むを得ないと考えます。ランニングコスト削減分を内容充実にシフトすることで文化事業の質の低下を抑え時代に即した効果的運営が可能と考えます。《男性・60歳代》

・地域としてある程度の文化レベルを維持するぐらいでよいのではと思います。若い方は、遠方でも必要であれば出かけていきます。高齢者等中心に視点を移していかれてもいいのでは。《女性・50歳代》

・民間だと採算が取れないものは処分したりリストラしたり生き残るために必死に頑張っています。税金だと思って無駄遣いせずしがらみを捨てて八代市の財政に危機感を持って大きな決断をしてください。安定した生活ができる市の職員さんにはわかりませんが、皆コロナで生活が大変です。品物は値上がりしたり手にいらなかったり自由が奪われたり皆、辛抱するときです。これを機に施設に関しては校区に1つのものもいくつかまとめて複合し、人件費や箱モノを見なおしてほしいです。私たちの税金を有効に使うように頑張ってください。《女性・50歳代》

・類似する施設が4つある必要はないと思う。老朽化している施設があれば今後人口減少や財政状況に応じて減らしていかなければならないと思う。コロナの影響でオンラインで自宅に居ながら鑑賞するよ

うな生活様式が今後普及していくと考えます。新しい時代を見据えた対応をお願いします。《男性・40歳代》

・Ⅶでも述べましたが、設備（音響・照明）の充実した施設（ホール）が一ヶ所あればいいと思います。《女性・70歳代》

・鏡文化センターと桜十字ホールやつしろと八代市公民館は客席数がほぼ同じで3館とも必要でしょうか？利用者数を考えて閉館もありえるのでは？厚生会館は客席数は多いが古いし、駐車場も少ないので、建替えも考えるべきではないでしょうか。芸術活動は重要だが、市内に4館は多いのではないかと考えます。《女性・80歳以上》

・他県のホールによく行くのですが、八代と規模（客席数）が変わらない所で、ミュージカルやライブが行われている。トイレ等の設備を整えるだけでもチャンスはあると思うので今後八代の文化ホールがどうなるのか楽しみです。《女性・20歳代》

・文化ホールは一部の人だけが利用していると思う。ネットを利用してない年配者には情報がほとんど届いていないと思う。皆が皆、スマホを利用している訳ではない。チケットなど購入できる訳がない。パソコンも持っていない、どうやってイベントの情報を知る事ができるのですか。文化ホールは八代に1つだけあればいいと思う。3つも4つもいらぬ。税金の無駄だと思う。《女性・60歳代》

・鏡文化センターでも公演が多く、利用しにくかった。厚生会館での公演も増やしてほしい。《女性・60歳代》

・八代厚生会館の年間管理費、人件費の多い事にとでも驚きました。老朽化の為、手直ししたりしているからかもしれませんが、思い切って閉館した方がよいと思う。メリットは客席数の多さだけ。《女性・40歳代》

・人口減少により財政状況が苦しくなる様なことが続くと4つの文化ホールを全部維持するのは難しいかもしれませんね。教育文化事業を長くつづけてほしいので使いやすいホールを残し、集中して利用できる様に考えていってもいいのではないのでしょうか。厚生会館の存在感は大きいですが駐車場が少ないので利用しにくかったです。個人的には私と同じ年齢なので？ご苦労様と労いたいです。アンケートに参加させていただきありがとうございました。《女性・50歳代》

・娘（3人）たちのピアノの発表会で16年間、ハーモニーホールやパトリア千丁を利用させていただきました。ピアノ（スタインウェイ）も音響もすばらしくて、その中で娘たちの発表を聴くのを毎年とても楽しみにしていました。私たち市民が気軽に施設を利用できるのは大変ありがたいです。《女性・50歳代》

・せっかく高額な維持、人件費が税金で運営されている訳ですから3000人ではなく20歳以上全員に

アンケートをされたらいかがですか。そしたら良い案も出てくる割合も上がるし、職員さんの知恵も借りつつ八代市民ファーストで事が進むように思いますが、いかがでしょうか。《男性・40歳代》

・今後人口減少や財政状況が悪化の恐れがあれば、施設を休館、閉館することもやむをえないと思います。あくまでも、財政第一に考えてほしいと思います。《男性・80歳以上》

楽しみにしておられる方のためにもなくてはならないと思いますが、利用者数、人件費などの割合を見て減らしていくことはありかと考えます。市の内外から指定管理者を募ることは？《女性・70歳代》

・厚生会館は残してほしい。何もかも新しいものがないとは限らないと思う。《女性・80歳以上》

・子供の頃、親に連れられて厚生会館に行って劇など見ていました。自分も親になり、子供たちに劇などを見せてあげたいと思います。《男性・30歳代》

・八代は新幹線も高速も九州内からの集客は見込める利便性を備えていると思う。福岡マリンメッセやグランメッセのような多用途に使える施設一つに集約すればいいと思う。《女性・60歳代》

・文化ホールの維持に多額の費用がかかっているとは知らなかった。ホールにお金を使うくらいなら、子どもの教育にお金をかけて欲しい。ハーモニーホール以外は利用しないので廃止してください。また、厚生会館の隣に施設を作られているようですが、不要だと思います。不要な施設を私たち納税者の意見を聞かずに作らないでください。《女性・40歳代》

・市町村合併により、行政サービスの地域格差が大きくなった。旧町村は一つの校区としてとらえるべき。旧町村内の施設、設備が合併前と変わらず、維持されていることが問題だと思います。各文化ホールの年間管理費をみて、腹が立ちました。《男性・20歳代》

・保育関係者、保護者の立場から考えると、このような施設の休館、閉館は困る。どうしても、発表会などのイベント事は各園で重なってしまうことが多く、利用したい施設の予約が取れなかったり、予約を取るために日程を大幅にずらしたり・・・子どもや子育てをする大人にとっては必要な施設だし、大切にしてほしいと思う。《女性・30歳代》

・市内に出ることはあまりなく、今何があっているのか？誰がどんな有名人が来て、講演又はツアーがあっているのか、全然知らない。広告宣伝をもう少し考えた方が良いのでは？会社員等は昼間に街中に出ることはなく、情報が全く伝わってこない。法人等パンフレットとか配布はどうか。《男性・30歳代》

・いつも駐車場が気になり、早く行かなくてはと時間を早めて行くことになる。駐車場に余裕があるといいです。《男性・70歳代》

・同じ大きさの施設は整理して、小規模 100~200

人のホールや 1500~2000人ぐらい入るホールがあれば、市外県外からも集客できるイベントを開けるのではないかと思います。また、駐車場は広くて駐車しやすい駐車場が必要だと思います。《女性・50歳代》

・取扱い内容（自主文化事業）が片寄っているように思います。幅広く行って欲しい。アマチュアや学校関係も。・実施回数も少ないようです。《男性・70歳代》

・地域の団体、個人のホールの借り方としては、あまりに広い（厚生会館）。ホールは空席が目立つためどうしても小さいホール使用となってしまう。しかし、大きな行事や催し物にはそれは必要！であるならば、4つの文化ホールを縮小するとすると500人程度のホールの閉館でしょうか。できるなら現状維持を願いたいところではありますが。《女性・60歳代》

・コンサート等の会館利用頻度が多いのか解りませんが、私の感覚からは他県のイベント（または熊本市内の）ホール等から比べても少ないように思えるのですが、また八代の文化意識が低いのか、イベント等が少ないように思えてならないのですが・・・。イベント側に利用しやすい何かがないのでしょうか。せっかくのホールが生かされていない気がします。《女性・70歳代》

・八代市厚生会館は昭和 37 年開館ということで建て替えた方が良くないですか。八代市以外からも見に来るような立派な文化ホール作って下さい。・旧パトリア千丁は公民館だけにして温泉施設は別に切り放した方が良くないではないか。《女性・70歳代》

・4施設を2カ所にまとめてはどうか？2施設を買収してそのお金でより良い施設を作る。《女性・20歳代》

・子育て世代が利用しやすい環境を整備して欲しい。《男性・40歳代》

・駐車場が広く（グランメッセの様な）施設があるともっと活用があるのでは？と思います。《女性・50歳代》

・子供は特に文化ホールに入りづらいイメージがあるので誰でも入りやすい様な施設にして欲しいです。《男性・30歳代》

・ネット中心になりテレビも見ない若い方達が増えているように思います。確かにネットで文化・旅行（景地）など見ることができホール等に行かなくても満足されている方もいます。映画を映画館で見るか自宅の大型テレビで見るかと同じですね。でも実際見て触って感じる物は違うと思うんですけど・・・文化芸術活動は必要だと思います。《女性・50歳代》

・これだけネットが発達している中、見るだけの目的でわざわざ施設に足を運ぶことはないと思います。子供のころ厚生会館で見たミュージカルに感動した

のは今でも憶えています。「一緒に感動を共有できる」体験ができるイベントをこれからも提供して頂ける様宜しくお願い致します。《男性・50歳代》

・熊本第二の都市なのに八代って何となく地味で楽しくないです。八代を盛り上げるためにも文化ホールでお客さんを集め（花火の時のように）活気のある街になるといいなと思います。大学が少ないせいで若い人も少ない八代に活気を作るには文化ホールでの楽しいイベントだと思います。《女性・40歳代》

・有名なアーティスト等は福岡止まりで熊本迄は来ないのである程度大きな施設が若人のためにも必要だと思う。《男性・70歳代》

・昭和を代表する厚生会館に於いてはお疲れ様でしたという気持ちです。ホール客席数は最大で八代市民にはもっと利用して欲しいと思いますが、老朽化と駐車場問題には利用者は減るばかりです。年間管理費を考えるならば思い切って解体し利用しやすいホールと十分な駐車場を確保した”新八代ホール”の建設をお願いしたいです。（ホール客席数は現状で）福岡県の博多座のような施設も魅力です！《男性・20歳代》

・趣味・稽古事の発表が出来る会場を望みます。各地区の伝統文化の発表が出来る会場を望みます。《女性・60歳代》

・各施設の維持が難しい状況になっていることを今回初めて知りました。なかなか足が運べないことありますが、文化的な施設は必要不可欠だと思います。是非今後も継続して色々な舞台やイベントが開催されることを願っています。コロナの事も本当に大変だと思いますがどうぞよろしくお願い致します。《女性・40歳代》

・自主文化事業がどのように決められるのかわかりませんが、どういう世代を対象に考えるのか市民の声が反映される事業を望みます。（批判しているわけではありません）利用の規定が厳しく使いにくい大ホールではなく、これからは中・小・多目的ホールなどの利用が多くなる気がします。ニーズの多様化に細かく対応できるホールを望みます。《女性・70歳代》

・厚生会館クラスのホールが無ければ市の文化事業は先が見えなくなる。他市町村からも集客が可能な様新八代駅徒歩圏に大ホール1000人程度の観客席を持つ施設が絶対必要であると考え。他の3館は廃止やむを得ない。《男性・40歳代》

・厚生会館につきましては音も素晴らしいと聞いております。ぜひ残していただきたいです。お願いいたします。《女性・60歳代》

・上記（1）（2）については、どれも帯に短しタスキに長しといったどっちつかずの施設ばかり。もう少し他の施設を見て八代ならではの他に類を見ないスペシャルなものを作ってもらえたら・・・完成当時、厚生会館は音響設備としては国内有数のホール

だったとか。そんなのがあれば八代も有名になるのでは？《男性・60歳代》

・文化ホールは数よりも現在より収容人数を増やせる大規模のホールが1つあると他県や他市より人がイベントに集まるような気がします。市は人口減少傾向にあるのでよそから市にお金を落としてもらええるようなコンサートイベントができる施設を建設した方がいいと思う。《女性・50歳代》

・八代の厚生会館は立地は良いが圧倒的に駐車スペースが足りない。ハーモニーホールが近いので経費を使って厚生会館を維持するよりも規模も大きいハーモニーホールだけで良いと思う。厚生会館でのイベントも少ないように感じる。また、経過年数もたっている。《女性・30歳代》

・八代市厚生会館については、客席数を減らして（500名程度）新たに建設していいと思います。今後、人口減少が考えられますので経費削減が絶対必要です。借金を後世に残してはいけません。《男性・40歳代》

・自主文化事業については、開催後に行われたことを知ることが数回ありました。主な情報源は、フリーペーパーのみでなかなか気づきません。広告や宣伝に力を入れてもらえると多少参加しやすいです。4つの場所は近く八代市内だと車での移動も簡単なのでホールの数を減らしてもよいと思います。その分、1回の事業に力を入れてもらえると良いのではないのでしょうか。《女性・30歳代》

・アンテナをはっていないと今何の催しをしているかわからない。広報や宣伝を一括して配信方式にしてもらえればもっと身近に感じられると思う。《女性・30歳代》

・せっかく八代市には4つのホールがあるので、有効活用してもらいたい。このような世の中ですが、やることはきっとあると思うので頑張っているみなさん、あきらめず無理がないように頑張ってください。私は大学生なのでこうした地方問題に深く関心があります。地域の皆様の意見を参考にされることは、とても良いことだと思います。《女性・20歳代》

・文化振興課のこのアンケートを考えられた方はすごいと思います。いいことをされたと思います。先ほど書きましたが無駄な税金を出したくありません。八代が潤うことをまず考えてください。若者たちが居つくような八代にしてください。①要は、厚生会館をもっと広くして若い方のコンサートイベントできる場にしてほしい。②八代市の中心になる様、鏡やパトリア千丁は無くていいと思います。八代に力を入れましょうよ。初めは、それからだと思います。もっと若い方々の意見をどんどん聞いて下さい。《女性・20歳代》

・今まで通りの規模の文化ホールはいらない。県南唯一のといえる程の大規模コンベンションホール・センターが必要だ。場所はJRと高速道路に近い新

八代駅周辺。そして県南、天草合同で自主事業で集客性のある大きなコンサート等を開催したらどうですか？また、グランメッセと同等のイベントホールを併設して一元管理して経費削減としたらどうか。文化的事業で運営できる時代ではなく、経済的事業が行える施設とセットで検討すべきだ。《男性・50歳代》

・民間企業は必死に事業存続に取り組んでいます。各ホールもお金を払ってでも見に行きたいと思う公演を計画してもらいたい。市民に広く情報提供が必要。利益を生まないと存続もない。仕事で各会議室、ホールを利用しているが他のホールで何が計画されているか未知。月初めの広報に各ホールの公演等の情報を紹介してほしい。詳しく。それによりまだ多くの市民が参加して利用につながっていくと思う。《女性・70歳代》

・駐車場をもっと広げて多くの車が停められるようにしてほしい。《女性・60歳代》

・八代市には昨年6月末に引っ越してきました。その内2ヶ月以上は入院生活を送っておりましたので実質の居住はまだ10ヶ月足らずで八代市の事情にも通じておりません。今回初めて市の文化事業を取り巻く諸事情を知りました。広報誌にはある程度目を通していましたが持病と今回の入院で長時間の外出が難しいため、まだ一度も催しに参加したことがありませんが、このような事業は心豊かな生活を送る上でとても大切なことだと常々考えています。今年は思いがけなくコロナの問題なども加わり財政的にも大変厳しいことと思いますが、地方の文化の灯をともし続けて下さいます様にお願ひ致します。私も体調が良くなれば関心あるイベントには是非参加させて頂きたいと思います。《女性・60歳代》

・現状を考えると財政の面で収支は赤字かと思いますが、今後も自主文化事業は続けて頂きたいです。このアンケートを通じて自ら情報を得ようと思いましたが、おそらく、この問題は八代市民が気づいていない、もしくは優先度が低いこととされているのもっと市報、ラジオ等で問題提起、PRを進めて行った方が良く感じました。応援しています。《男性・30歳代》

・一流のコンサートや演劇等、福岡や熊本市内まで出かけなければならず高齢者には淋しい事。子どもたちの教育の為にも本物を見せてやりたい。駐車場確保も大事。《女性・80歳以上》

・4つの文化ホールを活用した文化事業推進が望まれるが、今後は全ての文化ホールにおいて指定管理者制度の導入などさらなる検討が必要である。なお、厚生会館は文化勲章を受章された芦原義信氏設計による県内初の文化ホール建築である。外壁改修工事により外壁の質感が変わったこと、別館が解体されたことは残念であるが、厚生会館本館は、本市の文化活動の拠点として、今後とも末永く維持、活用すべきである。《男性・60歳代》

・自主制作の作品を展示できる施設がほしい！博物館

等は利用料が高価なので障害者にはなかなか利用できない。無料で利用できるとうれしい！《男性・60歳代》

・鏡文化センターでの開催が多いですが、公共交通機関でのアクセスが悪く、足を運べない方も多いと思います。身体に障がいがある方や小児・高齢者、赤ちゃん連れのママにも優しい環境が整えば、利用者は喜ぶし利用増にもつながると思います。又、どんなに素晴らしい施設でもスタッフの教育がなされていないとより良く利用できないので、人材育成はとても大切なことだと思います。施設維持管理については大いに指定管理者制度の導入して良いと思いますがその運営評価はしっかりしていくべきだと思います。未来ある子供や若者に素晴らしい本物の芸術に触れる機会を普段から用意していることで豊かな八代の将来につながればと思います。《女性・50歳代》

・私は仕事の研修会で利用したり、発表会を見に行ったりと利用する機会が多いのかもしれませんが。一般の方々も利用しやすいよう会議室を利用しやすい料金にしたりコンサートやイベント等があるといいのかなと思ったりします。各施設で構造が違うので音楽に向いてる施設、演劇に向いてる施設というように使い分けてより質のよいものを見る事ができると、お客さんも楽しんでもらえるのではないのでしょうか？また、各年齢層でターゲットをしぼって内容を考えてみたりするのもよいのではないのでしょうか？八代の文化ホールが発展していくことを願います。《女性・40歳代》

・土日以外のイベントの開催もあって良いと思います。サービス業の人は土日は行けませんので。《男性・70歳代》

・施設の自主文化事業内容はどのように決めているのか不明。過去3年間の事業内容を見て行きたいと思うものがない。他の世代の人たちは興味を持っているのか？《女性・40歳代》

・情報があふれる時代に著名高名のある人を呼ぶ必要はないと思います。市民会館の建設当時の社会の情報の量も現在と比べものにならないし、質の高い情報を今は知ることもできます。税金を千人程度の方に投入する必要はないと思います。臨場感を得るだけで税金を投入するのはいかがでしょうか。有名な演者を呼ぶのは民間に任せるべきと思います。職員の方も大変でしょうが頑張ってください。《男性・60歳代》

・高齢化が進んでいる中、本当に厳しい問題ですね。80歳を超えてなかなか出かけるもの大変ですが文化事業には関心を持っています。若者と高齢者と繋がりが持てるものがあつたらと思います。《女性・80歳以上》

・市内の文化ホール等の利用者数、管理費等の実績から見ると当然合併（八代市）前は当地での人口に対して建造された施設なので良かったと思います。現在は千丁地区には若い人たちの新しい戸建ての人

も多くなりました。大きなイベントをするにもホール客席数が少ないと厚生会館でも足りない程です。ダンスや舞踊等の練習に大きな鏡のある練習室が欲しいです。他市町村に出かけることが多々ありました。他からの利用も増えること間違いないと考えます。《女性・60歳代》

・新幹線などを利用したお客さんなどの呼び込みをする為にも新八代駅近くの土地を発展させてほしいです。どのホールに行くにもバス、タクシーなどを利用しないと行けないのが不便です。《男性・30歳代》

・建替えや改修を行うなら、音響等に配慮してほしい。また、内容についても一方的に選ばずに年1回でも市民の声をアンケートとして今年は皆様の希望に添うような八代ならではのやり方で取り組んでもらいたい。もっと若者が住みたいと思う魅力発信してほしい。なぜ今若者が県外からどンドン南阿蘇に移住してくるんだろうか。もっと八代の良さを全国的に知って、文化面でも生かせる努力をしないと八代は取り残されてしまう。また、館内の出入口の清掃は自分の家の玄関だと思い、5~10分早く来て掃除する意欲もほしい。ありきたりの事務的なやり方では市民の目は見ているので心構えを見せないと文化交流はできない。《女性・80歳以上》

・厚生会館の前の緑の広場は臨時駐車場として利用し、緑の広場は残してもらいたい。理由、①施設全体との調和、景観が素晴らしいこと。②災害時に臨時的に利用できること。祖父(建築関係の仕事)父の話です。厚生会館は有名な設計者、芦原義信氏(代表作に東京芸術劇場)の作で第1回建築学会賞の施設と聞いています。評価は構造デザイン、施工方法(コンクリートの打ちっぱなし、柱、梁に木目の模様が見られます。もし、改修があっても、本体が残るようにして、八代市の文化遺産として残してほしいです。残念なことは、会議室、事務棟が解体されたことです。厚生会館全体のイメージ、景観が下がったような気がします。《男性・40歳代》

・施設を2ヶ所に統合し、大規模ホールと中小規模の2ヶ所程度が八代市の人口では十分だと思う。駐車場を十分確保してもらいたい。《男性・50歳代》

・文化ホールでの交流や文化に触れる事は非常に大切なことですが、集客、利益あつての維持だと思いますので箱ものにとらわれずコロナ終息時までは費用削減しつつ新時代に対応した文化事業期待しています。《女性・50歳代》

・いつも利用している桜十字ホールはとてもよくして頂いてます。今後も利用したいです。もっと文化事業は広めていくべきで、心と体を育てるチャンスにもなるので出来る限りの機会は続けて欲しいです。ホールのランチも美味しくとても市民の為になっていると思います。《女性・40歳代》

・文化事業は施設・人・経費等大変なことと思われませんが、豊かな心情を養うためには必要なことではないかと思われれます。今後共この方面での若い方の

活躍が望まれます。《女性・80歳以上》

・年間2億の維持費に対して自主文化イベント等含めて、市民への還元が少なすぎる為、ハーモニーホールだけでいいのではないかと。自主文化イベントにおいても「落語」や「世良のコンサート」には興味が沸かない。子ども、子育て世代が楽しめるユーザーイベントを企画してもらいたい。文化とは何なのかをもう少し考えた方がいい。維持費に対して市民へのリターンが少なすぎる。《男性・30歳代》

・今までこのアンケートで各施設の催し物に興味が出てくるほど無頓着でした。私より若い方で興味を示す人は少なそうです。《男性・30歳代》

・仕事に忙しく、文化事業を楽しむ余裕がないのが私も含めた多数の人の状況だと思う。20年以上前は文化ホールをよく使って鑑賞していた。地域での文化の育成も大切だと思う。ただ「箱物」を作ればよいの発想でない。厚生会館は建築物として歴史的価値があると聞きました。大切にモニュメントとしても維持して下さい。教育文化にはお金を使って欲しい!このアンケートを口実にした施設の閉館はしないで下さい。《男性・60歳代》

・新八代駅周辺に複合施設(多目的施設)を建設し(八代の顔となる施設)市活性化の起爆剤になる様にする。※国道3号線・JR等交通アクセスも良いので市外客も見込めるのでは・・・各種講演会を多く開催して欲しい(医学・文化・政治・経営者等)《男性・50歳代》

・今は子育てや仕事でなかなかイベントに足を向ける余裕はありませんが、職場の旅行で一度県外でミュージカルを見に行ったことがあり、八代でもそういう催しものがあれば、時間を取って観に行ってみたいなと思っています。今までは自ら情報を得ようとするのがあまりなかったのですが、今回興味もつきかけになりました。ただ、施設の老朽化、人口の減少などの問題は今まで考えたことがなく、私たち市民もちゃんと知っておくべきであり、一人一人にそういう情報を発信していくべきだと思います。《女性・40歳代》

・八代市内での自主文化事業にあまり魅力を感じないのが正直なところ。県外や熊本市内へ行き楽しむことが多いと思う。(私の場合)Ⅶ(1)で○をしたが、今後の状況に不安があるのならば、複合施設を考えていただき、子供~大人~高齢者まで楽しめる「文化事業」であって欲しいと思う。《女性・30歳代》

・稼働率を上げて収益につながるような取り組みが必要だと思います。色々な文化に小さい子供から大人まで楽しめるものが出来ればいいと思います。施設の利用が多目的に活用され活気ある施設になればと思います。《女性・40歳代》

・私は今ある文化会館の内厚生会館がいいと思いますが舞台がせまく、イスもせまいし背もたれもせまく、長く鑑賞するにはイスとイスの間もせまくて足

の置き場に困る。疲れます。今のコンサート会館は八代厚生会館よりいすのゆとりが有り疲れず鑑賞できると思います。音の響きは厚生会館はとても良いと定評ですが、新しい会館になるなら厚生会館より大きい方が良いと思います。《女性・70歳代》

・厚生会館は八代市の文化の殿堂と思います。施設も設備も良く、特にホールの音響効果は抜群で音楽を堪能させてくれます。自主文化事業を活発にやってください。財政的な理由で民間委託など絶対にやらないで下さい。《男性・80歳以上》

・自主文化事業のチケット代、大人の分はもう少し高く設定されても良いのではと思います。《女性・50歳代》

・有名なイベントを利用して盛り上げる。例えばハロウィーンを利用して施設の前に会場を設けて、ハロウィーン会場として人を集め、施設では関連する

イベントを行う。家族連れで参加できる安全な「八代ハロウィーン」を企画して知名度を上げる。何年か続けば「10/31には八代で何かある」というのが知られて盛り上がりやすい。5月連休にも企画して年2回ぐらい盛り上がる「八代イベント」+「妙見祭」があればいい。5月は金沢の「風と緑の楽都音楽祭」のイメージです。各会場で同時にコンサートがあり、なかなかいい感じです。《男性・60歳代》

・八代の文化ホールは器が小さいです。国際的なアーティスト達を呼べないと思います。有名な芸能人を呼ぶには器を大きくしないと、八代は何つけ人吉に負けている。人吉カルチャーパレスのように立派なホールを作って欲しいです。《男性・70歳代》

・市の文化ホールの使用状況と施設数はあってますか？利用が少ないなら数を減らし統合した方がいいと思います。施設の管理費は市民の税金ではないのですか？《男性・40歳代》

自主文化事業実績

資料②- 2

公演名	会場名	チケット 代金	販売枚数	売上枚数	販売率 (%)	入場者数	入場率	備考
林家木久扇 林家木久蔵親子会	鏡文化センター	3,000円	594	399	<b>67%</b>	392	<b>66%</b>	
世良公則KNOCK KNOCK2019	鏡文化センター	6,000円	570	570	<b>100%</b>	565	<b>99%</b>	
ドリーミングファミリーコンサート	鏡文化センター	大人2,000円 中以下500円	1188	472	<b>40%</b>	607	<b>51%</b>	2歳以下膝上無料 135名含む
めざまし LIVE 2018 (共催)	厚生会館	1,700円	—	—	—	900	—	
NAOTO&清塚信也ディオコンサート	厚生会館	一般 4500円 高校生2,000円 中以下1,000円	940	755	<b>80%</b>	750	<b>80%</b>	
岡本知高クリスマスコンサート	鏡文化センター	一般 3,000円 高以下1,000円	593	593	<b>100%</b>	590	<b>99%</b>	
ケロポンズファミリーコンサート (鏡)	鏡文化センター	大人2,000円 高以下500円	1188	672	<b>57%</b>	782	<b>66%</b>	2歳以下膝上無料 110名含む
かがみふるさと音楽祭 (H30)	鏡文化センター	500円	594	538	<b>91%</b>	594	<b>100%</b>	高校生以下無料 56名含む
旅たち・そして思い出がいっぱい	鏡文化センター	無料	—	—	—	253	—	
キエフバレエ (共催)	厚生会館	S席5,500円 A席4,000円	944	—	—	927	<b>98%</b>	
小椋佳 歌謡の会	厚生会館	S席5,000円 A席4,000円	923	923	<b>100%</b>	923	<b>100%</b>	
三遊亭小遊三・林家三平落語会	鏡文化センター	3,000円	594	590	<b>99%</b>	575	<b>97%</b>	
ケロポンズファミリーコンサート (千丁)	八代市公民館	大人2,000円 高以下500円	485	485	<b>100%</b>	450	<b>93%</b>	
かがみふるさと音楽祭 (H29)	鏡文化センター	500円	594	570	<b>96%</b>	600	<b>101%</b>	高校生以下無料 30名含む

## ホールを活用した市民の文化意識向上・定着にむけた 本市の運営方針と取り組み

八代市厚生会館及び千丁・鏡文化センター 運営方針（平成28年3月策定）抜粋

### 1. 質の高い事業の実施

八代市文化ホールの目的の大きなものが市民への舞台芸術鑑賞機会の提供であることは、事務事業として自主文化事業（以下、「事業」という。）が条例や規則に掲げられていること、また、市民のニーズが高いことから明白である。

この目的を果たすために、事業の実施にあたっては、その演目や出演者といった内容の観点だけでなく、ジャンルや主となる観客層、立地条件や地域性などにも配慮した検討と決定の体制を構築するとともに、単なる鑑賞だけに終始せず、創造性や企画性の高さ、あるいは独自性や特色を打ち出すことに努める必要がある。

また、市民のニーズの動向を把握しながら、事業選定が独善性に陥ることなく、市民に寄り添い、市民とともに事業を実施するという意識を持ち続けなければならない。このことは、施設や設備の面だけでなく心のバリアフリーにも通じるものとして、老若男女を問わず、すべての市民に対する快適なサービス、市民目線での「おもてなし」の観点から重要なものである。

さらに、事業を実施することが目的にならないよう、入場者数や収益などの短期的な指標だけでなく、事業の波及効果や地域への影響、関係文化団体等の水準向上など、長期的な視点を加味した基準による適切な評価を積み重ねていくとともに、そのフィードバックを怠らないことでより充実した事業につなげていくものである。

### 八代市の取り組み（過去5ケ年度）

#### ・市民へ芸術文化鑑賞の機会を提供する「鑑賞普及型事業」

##### R1

世良公則 KNOCK KNOCK with 神本宗幸 feat. 渡辺美里

林家木久扇・林家木久蔵親子会、ドリーミングファミリーコンサート

##### H30

めざまし LIVE COUNTRY TOUR IN YATSUSHIRO 2018

NAOTO&清塚信也デュオコンサート、岡本知高クリスマスコンサート

ケロポンズファミリーコンサート

##### H29

キエフバレエ（共催事業）、小椋佳・歌紬の会

三遊亭小遊三・林家三平落語会、ケロポンズコンサート

##### H28

オペラシアターこんにゃく座公演「ロはロボットのロ」（共催事業）

まちなか音楽祭（共催事業）、まどかぴあ舞台創造プログラム「浮足町アンダーグラウンド」、熊本県立劇場ネットワーク事業「TRINITY」

##### H27

石川綾子ヴァイオリンコンサート、オペラ椿姫（共催事業）

NHK-FMラジオ番組「吹奏楽のひびき」公開収録

宝くじ文化公演「吉田記念オーケストラ～いつでも元気が出るコンサート～」

・**芸術文化に直に接する「舞台芸術体験型事業」**

劇団きららによる演劇ワークショップ（毎年）

・**中学・高校生の学習や発表の場となる「学習型事業」**

高校演劇舞台技術講習会、八代市高校演劇大会、八代市中学音生音楽教室  
（いずれも30回以上開催されている長寿事業である。）

・**ホワイエを利用して気軽に観覧できる「舞台芸術普及型事業」**

ホワイエライブ「en」、旅立ち・そして思い出がいっぱいコンサート（H30）

・**地域住民自身による運営・出演の「住民参加型事業」**

かがみふるさと音楽祭（毎年）

## 2. 普及啓発及び調査研究（方針抜粋）

八代市文化ホールでは、鑑賞の提供だけにとどまらず、教育や体験、普及や住民参加という形態で事業を実施している。これらの事業の成果は、具体的な数値として現れにくいものであるが、舞台芸術に対する理解の向上、地域文化の担い手の育成という観点から継続していく必要性が高いものである。

また、事業開催にあわせて実施するアンケートの項目の見直しや集計・分析などを強化するとともに、県内の他の文化施設と連携した市民や事業鑑賞者の動向把握、あるいは、宣伝強化や集客への対策など、調査研究を展開していく。

### 八代市の取り組み

・生のクラシック音楽に親しんでもらい、演奏を聴くマナーを学習し、舞台芸術に触れてもらうことを目的として、毎年10月中旬に八代市内の中学3年生を対象として、熊本交響楽団を招聘し、中学生音楽教室を開催している。今年で53回目であったが新型コロナと7月豪雨災害で残念ながら中止となった。

・アマチュア劇団の公演に関して、育成の観点から共催事業として扱い、使用料に関して減免を実施（H28）。

・劇団きららによる演劇ワークショップを開催し、演劇を志す若者の育成を毎年実施。

・八代市は、演劇の育成に力を入れていることもあって、熊本県高校演劇のフラッグシップ的な存在となっており、舞台技術講習会には講師を派遣したこともある。

・落語家桂伸三（令和2年5月に真打に昇進し、伸衛門を襲名）によるアウトリーチ事業で二見小学校（60名）、坂本中学校（43名）昭和小学校（67名）において上演した（H28）。

・小学生を対象に、三線（H19）、習字（H23）、竹楽器（H24）、紙切り芸（H26）、マジック（太田郷小学校へのアウトリーチも実施）（H27）等の実際に作品を作って演奏したりする芸術体験事業を実施。

## 施設稼働率及び収益を上げるための対策

八代市文化ホールの稼働率（平成 28 年度～平成 30 年度 3 か年平均）は、厚生会館が 36.97%、鏡文化センターが 23.56%、桜十字ホールやつしろが 57.97%、八代市公民館が 20.87%となっており、中心市街地にある施設の稼働率が高い傾向にある。

また、指定管理者制度導入施設である桜十字ホールが最も高くなっている。

公共ホールにとって稼働率を上げるということは本来の目的である市民の文化水準の向上に加えて、施設運営の収支にも影響することから、重要な課題となっている。

### 八代市の取り組み

#### 1. 集客に向けた自主文化事業等の工夫・周知

##### (1) 稼働率・収益向上のための工夫

- ・自主文化事業の選定については、関係機関からの情報収集により、集客や収益も期待できる事業、ジャンルに偏りがないように選定・企画を行なっている。
- ・各事業の来場者にアンケートを実施し、催物の利用者ニーズの把握につとめている。
- ・子供向け催物の大口購入のお客様には団体割引等の措置を実施。
- ・厚生会館ではホワイエを使用して演奏や声楽などのミニコンサートを実施し、気軽に来館し、鑑賞できる機会を提供した。

##### (2) 稼働率・収益向上のための向けた広報活動

- ・市の広報紙、市のホームページ、エフエムやつしろ、ポスターチラシ等による広報宣伝を行っている。
- ・上記の対策を講じても効果がない場合は、新聞への折り込みチラシや看板作成、スピーカー搭載の公用車にて宣伝活動を実施。
- ・子供向けの催物については保育園担当課を通じてチラシを送付、保育協会等の会議に出席し、宣伝を行っている。

## 2. 利用しやすい施設にするための検討

### (1) 予約システムの導入検討

本市ホール施設については空き状況はホームページで確認できるが、予約まではできず来館や郵送による手続きとなっている。

そのため、利便性の向上に向けてオンライン決済を含めた施設予約システムの導入検討を行っている。

### (2) 利用者ニーズ拡大に向けた検討

桜十字ホールやつしろの会議室等は営利目的での利用も可能となっており、その場合の利用料は10割増しとなることから収益力も高い。

桜十字ホールの会議室等の多様な利用者ニーズへの対応はホールの稼働率・収益向上にも繋がっていると思われることから、それ以外の施設でも営利目的の利用拡大に向けての検討を行っている。

平成28年度 文化庁委託事業

**劇場、音楽堂等の特徴的な取組に関する調査事業  
報告書**

平成29年3月

一般社団法人 芸術と創造

## 目次

<b>第1章 事業の概要</b> .....	<b>5</b>
1-1. 背景と目的 .....	6
1-2. 本事業の進め方 .....	6
1-3. 本事業の体制 .....	9
<b>第2章 調査対象の抽出と共通点</b> .....	<b>11</b>
2-1. 調査対象の抽出 .....	12
2-2. 調査対象の共通点 .....	17
<b>第3章 各施設の取組みの紹介</b> .....	<b>19</b>
3-1. 響きの森文京公会堂（文京シビックホール） .....	20
3-2. 福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい） .....	24
3-3. 松江市八雲林間劇場（しいの実シアター） .....	31
3-4. 三重県総合文化センター 三重県文化会館 .....	35
3-5. アステールプラザ .....	40
3-6. 富士見市民文化会館 キラリふじみ .....	43
3-7. 豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと） .....	46
3-8. 桐生市市民文化会館 .....	49
3-9. 岩手県民会館 .....	53
3-10. アトリオン音楽ホール .....	57
3-11. 吹田市文化会館メイシアター .....	60

## 第1章 事業の概要

### 1-1. 背景と目的

我が国においては「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）」において、文化施設は地域コミュニティの創造と再生を通じて地域の発展を支える機能や、地域の文化芸術活動の場、地域のブランド作りの場として、その機能・役割を十分に発揮することが求められている。また、あわせて文化施設がこのような期待に応えるためには、文化施設そのものの魅力の向上とともに、収益力の向上が「日本再興戦略 2016」にて求められている。

このように、劇場・音楽堂等に求められる役割はますます大きく、また多様化している状況を踏まえ、自己収入の拡大や来館者増加のために特徴的な取組を行っている事例を各館の運営状況も踏まえて調査し、ベンチマークとなるような分析を行い、今後の我が国の劇場・音楽堂等の在り方の検討や、全国で事業を進める劇場・音楽堂等の運営に携わる職員の参考となり、文化 GDP 拡大につなげることを本事業の目的とする。（本事業仕様書を基に作成）

### 1-2. 本事業の進め方

本事業は、「①調査対象とする劇場・音楽堂の抽出」、「②調査対象とした劇場・音楽堂の調査」、「③調査結果のとりまとめ」の3つのステップにより行った。調査結果は以下のような構成にてとりまとめている。

なお、本報告書の構成は「事業の概要（第1章）」、「調査対象の抽出と共通点（第2章）」、「各施設の取組みの紹介（第3章）」としている。

#### ①調査対象とする劇場・音楽堂の抽出

本調査では文化庁「平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業」に採択された施設のうち、以下の条件に合致する64施設を調査対象候補としている。

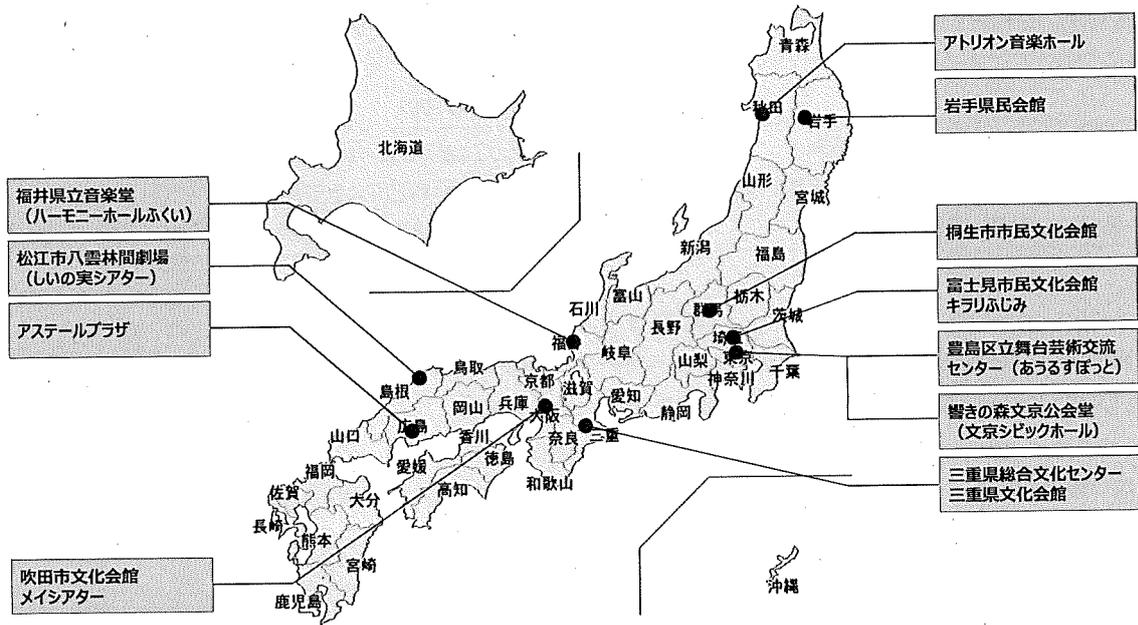
- ・「活動別支援事業」区分で採択されている施設（122施設）のうち、時系列比較を行うため「平成25年度 劇場・音楽堂等活性化事業」でも採択されている施設を対象。
- ・全国で事業を進める劇場・音楽堂等の運営に携わる職員の参考となるという主旨から、施設や予算の規模が大きな傾向のある「特別支援事業」区分で採択されている施設（20施設）は対象外。
- ・民設・民営の施設については運営の状況が異なるため対象外。

これらの候補のうち、文化庁の協力のもと各施設の「①自主企画・制作公演の入場者数」、「②施設全体の入場者数」、「③事業収入」について2009年度から2015年度の時系列の比較を行い、それぞれの指標の伸びが大きい施設から、地域バランスを考慮しながら、最終的に調査の協力を得られた以下の11施設を対象とした。

なお、対象施設の選定においては片山泰輔氏（静岡文化芸術大学 文化政策研究科長・教授）、小林真理氏（東京大学 文学部・大学院人文社会系研究科教授）の両名にアドバイスを頂いている。

- ・響きの森文京公会堂（文京シビックホール）
- ・豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）
- ・福井県立音楽堂ハーモニーホールふくい
- ・三重県総合文化センター三重県文化会館
- ・しいの実シアター
- ・アステールプラザ
- ・桐生市市民文化会館
- ・吹田市文化会館メイシアター
- ・岩手県民文化会館
- ・アトリオン音楽ホール
- ・富士見市民文化会館キラリふじみ

図表・1 調査対象施設



出所) (一社) 芸術と創造作成

②調査対象とした劇場・音楽堂の調査

各劇場・音楽堂に訪問し、担当者にヒアリング調査を行った。ヒアリング項目とヒアリング対象者は以下のとおりである。

図表・2 文化団体へのヒアリング項目

・成果をあげるために行った取り組み	・取り組みを行うことができた／成果に結びついた秘訣
・そのような取り組みを行った背景・目的	(人材採用・育成、行政による支援、等)
・取り組みの発案・実現のプロセス	・取り組みを行ううえで直面した課題・対応策

図表・3 ヒアリング対象者

響きの森文京公会堂 (文京シビックホール)	・公益財団法人文京アカデミー シビックホール 館長 上野晶子氏 ・同上 ホール事業係 係長 金子雅彦氏 ・同上 公演企画担当 津田真由美氏
福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくい	・公益財団法人福井県文化振興事業団 ハーモニーホールふくい 事業振興課長 プロデューサー 橋本恭一氏 ・同上 主任 チーフディレクター 佐々木玲子氏
しいの実シアター	・認定 NPO 法人あしぶえ理事長／しいの実シアターアートディレクター 園山士筆氏
三重県総合文化センター三重県文化会館	・公益財団法人三重県文化振興事業団 三重県文化会館長 梶吉宏氏 ・同上 事業課長 松浦茂之氏
アステールプラザ	・公益財団法人広島市文化財団 アステールプラザ 副館長 高宮敏浩氏 ・同上 主査 梶原美浩氏
富士見市民文化会館 キラふじみ	・公益財団法人キラ財団 富士見市民文化会館キラふじみ 館長 松井憲太郎氏 ・同上 事業担当リーダー 矢野哲史氏
豊島区立舞台芸術 交流センター (あうるすぽっと)	・公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと 支配人 岸正人氏 ・同上 チーフプロデューサー 根本晴美氏 ・同上 制作 岸本匡史氏
桐生市市民文化会館	・公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団 文化事業部 文化事業課 文化振興係 係長 牧島史明氏
岩手県民文化会館	公益財団法人岩手県文化振興事業団 岩手県民会館事業部 本波敏氏
アトリオン音楽ホール	・厚生ビル管理株式会社 秋田アトリオン事業部 音楽プロデューサー 藤原崇世氏
吹田市文化会館 メイシアター	・公益財団法人吹田市文化振興事業団 吹田市文化会館メイシアター 常務理事／事務局長 古矢直樹氏 ・同上 事業課 課長代理 梶原美浩氏

③調査結果のとりまとめ

①②の結果を基に調査結果をとりまとめた。

### 1-3. 本事業の体制

本事業は以下の体制により実施した。

- ・綿江彰禪 一般社団法人芸術と創造 代表理事 (統括責任者・プロジェクトリーダー)
- ・高村美和 一般社団法人芸術と創造 研究員
- ・手銭和加子 一般社団法人芸術と創造 研究員
- ・中川歩美 一般社団法人芸術と創造 客員研究員
- ・大竹あかり 一般社団法人芸術と創造 客員研究員

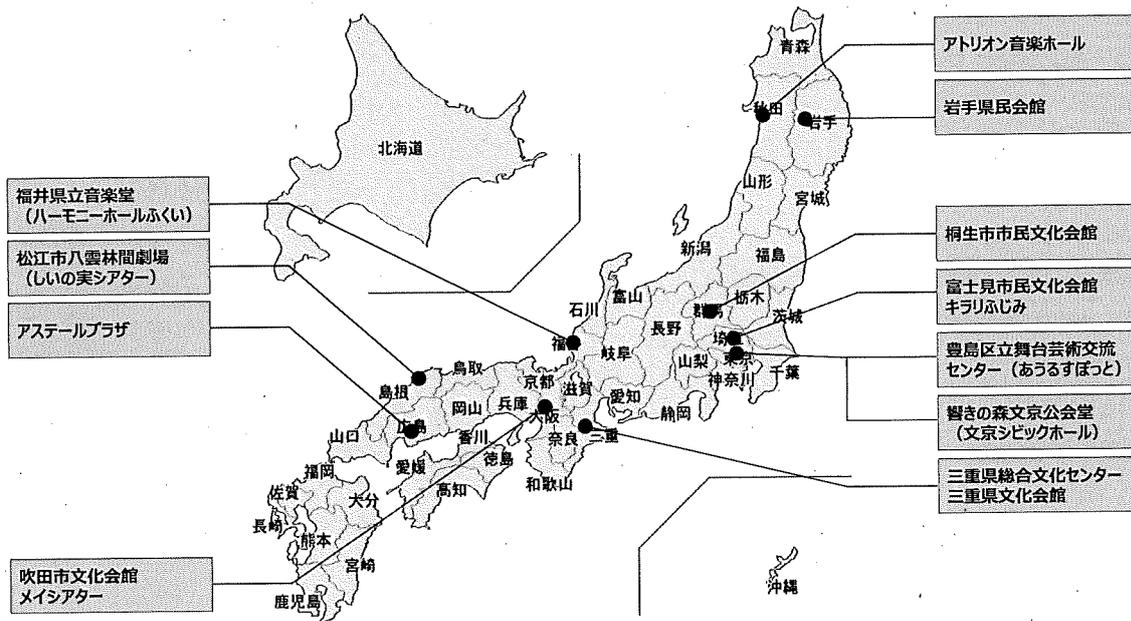
## 第2章 調査対象の抽出と共通点

2-1. 調査対象の抽出

第1章で記述のとおり、本調査では文化庁「平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業」に採択された施設のうち、以下の条件に合致する64施設を調査対象候補とした。

これらの候補のうち、文化庁の協力のもと各施設の「①自主企画・制作公演の入場者数」、「②施設全体の入場者数」、「③事業収入」について、2009~2015年度の期間において時系列の比較を行い、それぞれの伸びが大きい施設から、地域バランスを考慮するとともに、最終的に調査の協力を得られた以下の11施設を対象とした。

図表・4 調査対象施設



出所) (一社) 芸術と創造作成

各施設のそれぞれの視点における結果は以下のとおりである。

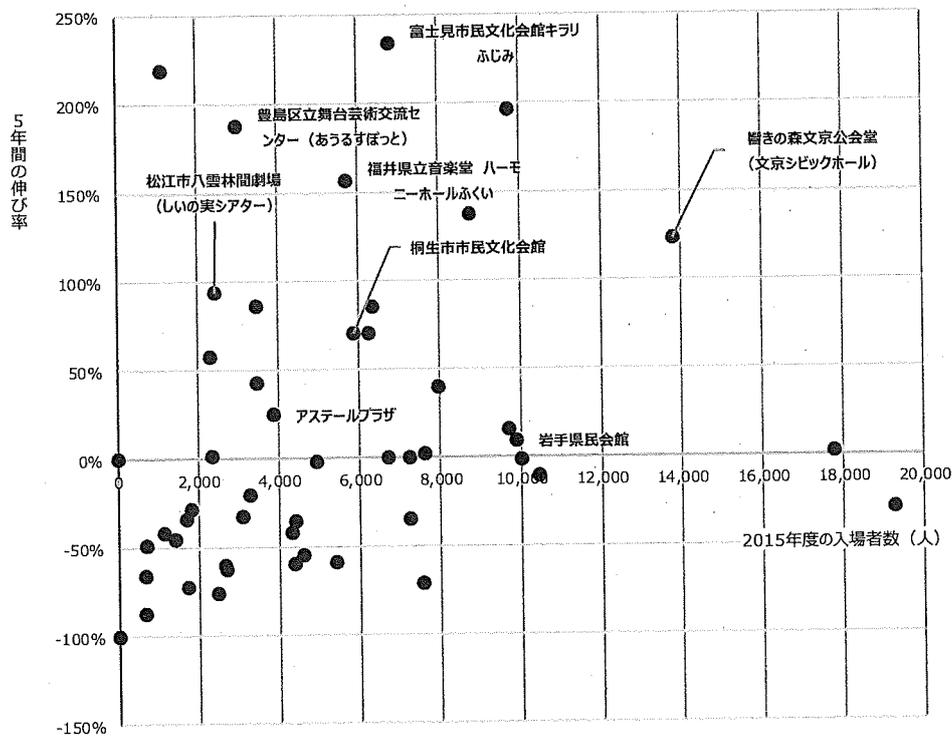
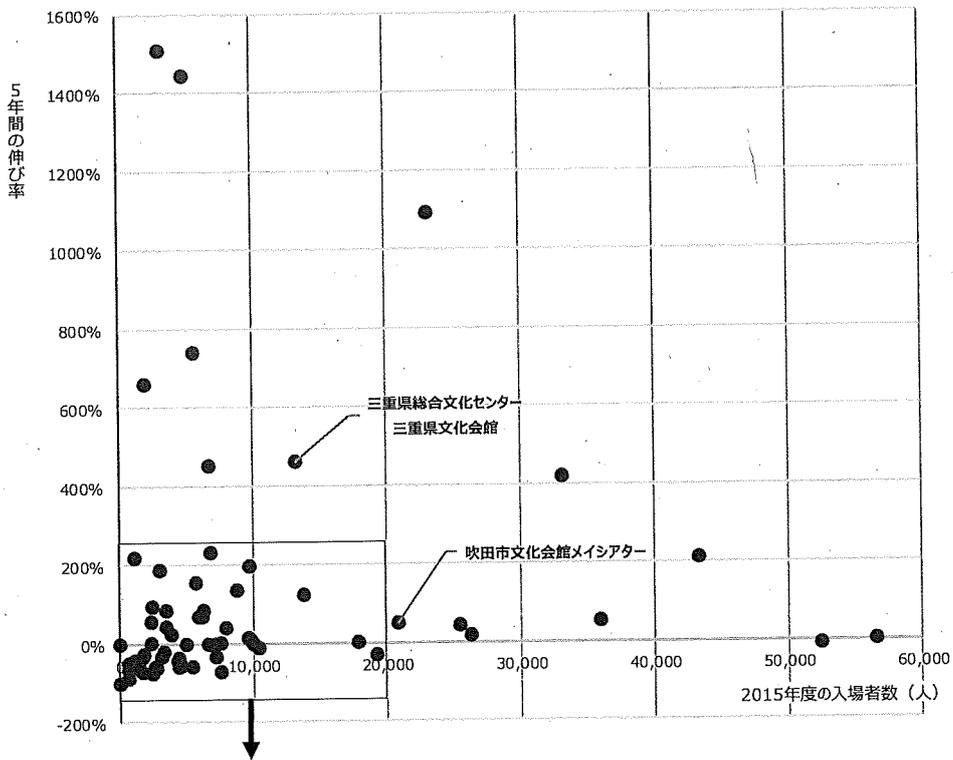
図表・5 調査対象施設の状況

施設名	入場者数計				③事業収入	
	①自主企画・制作公演		②全体		2015年度値 (千円)	5年間の 伸び率
	2015年度値 (人)	5年間の 伸び率	2015年度値 (人)	5年間の 伸び率		
響きの森文京公会堂 (文京シビックホール)	13,807	123%	442,662	15%	80,641	106%
福井県立音楽堂 (ハーモニーホールふくい)	5,715	157%	210,310	9%	71,675	9%
松江市八雲林間劇場 (しいの実シアター)	2,433	94%	8,429	200%	6,913	46%
三重県総合文化センター 三重県文化会館	13,276	465%	201,788	15%	102,609	2%
アステールプラザ	3,881	25%	100,755	48%	20,933	-6%
富士見市民文化会館 (キラリふじみ)	6,807	234%	98,887	6%	40,300	191%
豊島区立舞台芸術交流センター (あうるすぽっと)	3,012	188%	66,735	-2%	7,129	24%
桐生市市民文化会館	5,867	71%	321,070	2%	30,915	7%
岩手県民会館	9,878	10%	281,899	5%	134,299	55%
アトリオン音楽ホール	2,338	1%	70,434	57%	18,646	9%
吹田市文化会館メイシアター	20,794	50%	344,414	3%	108,923	-1%

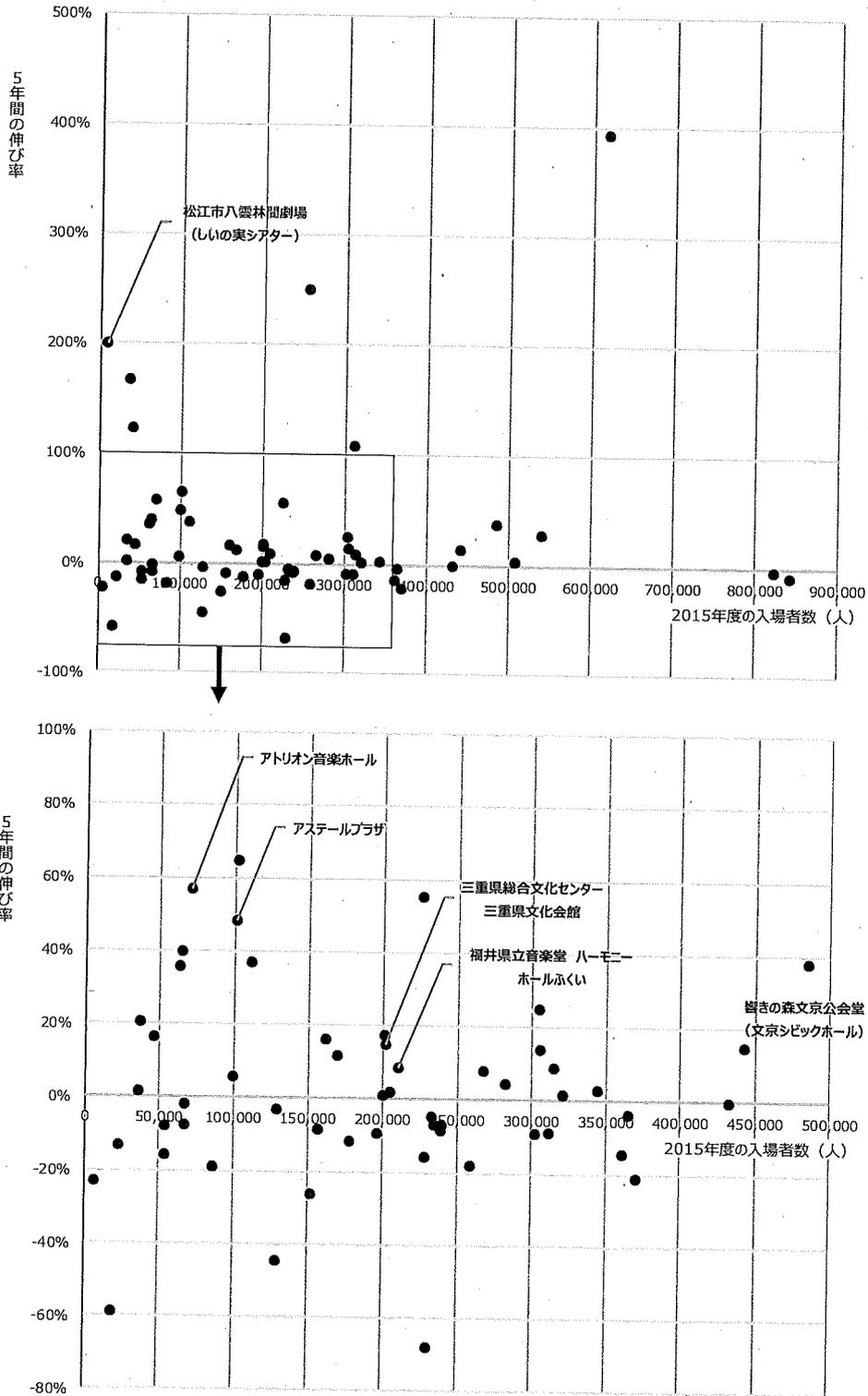
※2009年度から2015年度の間に年率1% (7年間で約6.2%) の伸びがあるものにハイライトを行っている。

以下、参考資料として、各対象施設の「①自主企画・制作公演の入場者数」、「②施設全体の入場者数」、「③事業収入」の「5年間（2009年度～2015年度）の伸び率」と「2015年度の状況」に基づいてプロットしたものを示す。

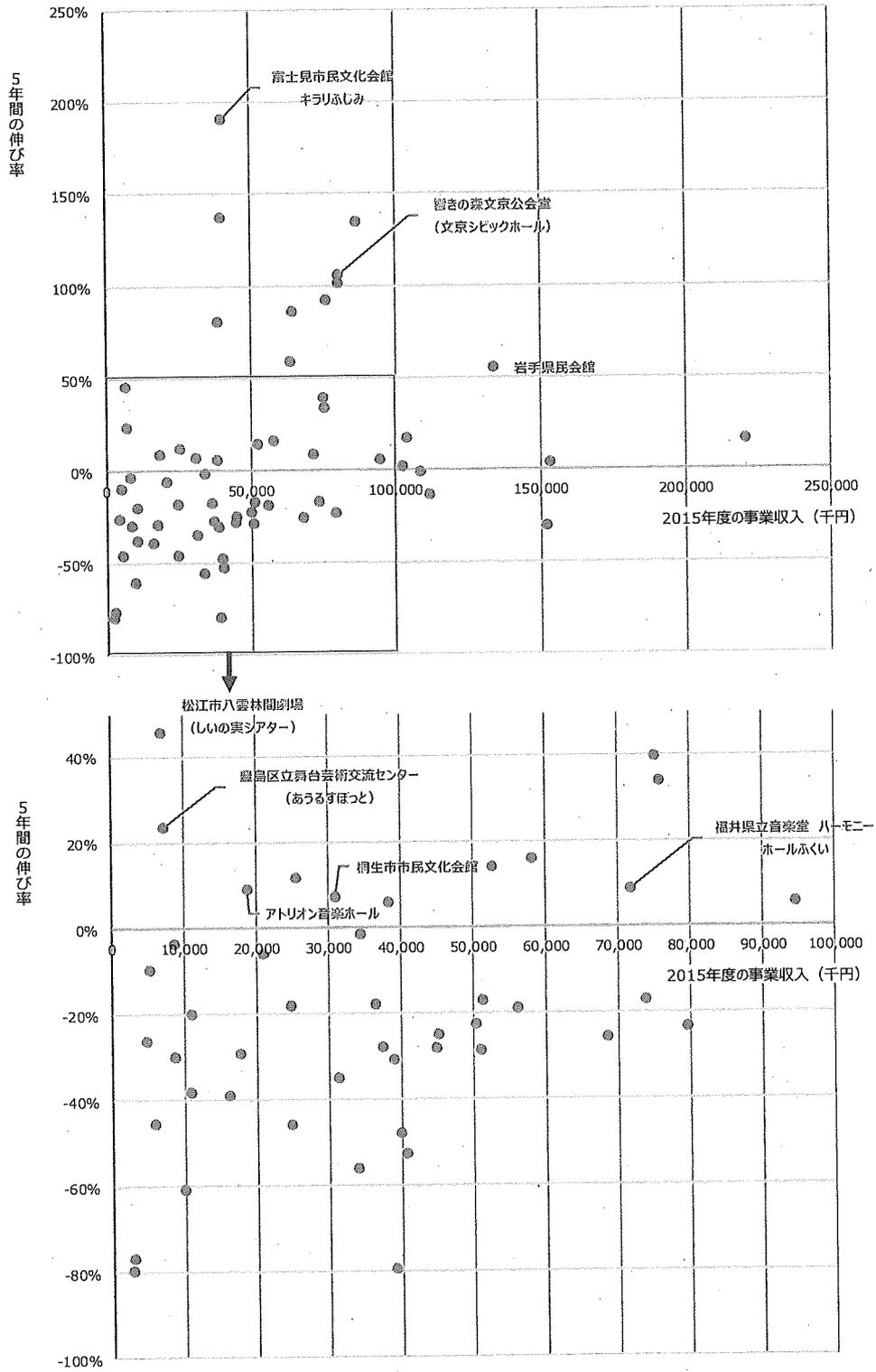
図表・6 「①自主企画・制作公演の入場者数」の「5年間の伸び率」と「2015年度の実績」



図表・7 「②施設全体の入場者数」の「5年間の伸び率」と「2015年度の実績」



図表・8 「③事業収入」の「5年間の伸び率」と「2015年度の実績」



## 2-2. 調査対象の共通点

調査対象とした11施設の「①自主企画・制作公演の入場者数」、「②施設全体の入場者数」、「③事業収入」の増加に関連する取組みと、その取組みを実現できている背景の一覧は次表の通りである（詳細は第3章参照）。それぞれの取組みは、施設の特性や施設が置かれた状況により多岐にわたり、共通項が見いだせないものの、取組みを実現できている背景については以下の3点にあてはまる施設が多い。

### ①職員が地域や施設の事を中長期的な目線から考えて、PDCAプロセスをしっかりとまわしながら、経営・オペレーションを行っている。

結局のところ、有効な取組みは施設の特性や施設が置かれた状況に依る所が大きい。取組みの精度をあげていくためには、職員が地域との関係性や施設のあるべき姿を中長期的な目線で考え、真剣にトライアンド・エラーを重ねていく（PDCAサイクルをまわす）ことが、最も重要であり、かつそれが効率的であると考えられる。

### ②地域の企業・住民との関係作りを行い、力を借りながら活動を行っている。

入場者数・事業収入の拡大に向けて努力をするなか、頭打ちとなっている施設も多いと考えられる。施設内で有数リソースのみで事業を行い、拡大を目指していくという点においては限界もみられ、そのような点においては地域の企業や住民の力を借りながら、施設単独ではできない取組み、単独ではリーチできない人々への訴えが有効となる。また、そのような活動を行うにあたっては、中長期的に企業・住民との建設的な関係づくりを行っていることが前提となる。

### ③ ①②の前提となる職員の正職員比率が高い・チームワークがある。

上記①②のような取組みは短期に達成できるものではなく、中長期的な視点における経営・オペレーションが必要となる。これは同時に、中長期的な視点を持てる環境にある職員の存在が重要であり、本調査で調査対象とした11施設でも正職員比率が高い傾向があった<sup>1</sup>。また、組織内の高いチームワークや、経営層の人材を大切にしているという考えも感じ取ることができた。

指定管理者制度のもと、期間が満了するごとに指定管理料が下げられ、厳しい雇用環境に置かれている職員が多いなか、入場者数・事業収入を増やすのであれば、適正な職員の雇用条件が大前提になりうるといえる。

図表・9 各施設の取組み（●）と取組みを実現できている背景（■）

響きの森文京公会堂 （文京シビックホール）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラシック音楽初心者ターゲットに絞った事業構成</li> <li>●仕事帰りの観客をターゲットにした企画立案</li> <li>●セット券販売によるリピーターの獲得</li> <li>●10周年イベントをきっかけとした囲い込み</li> <li>■PDCAサイクルを回し事業を改善していく風土</li> </ul>
福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地元企業からの協賛金の獲得</li> <li>●地元メディアとの連携による広報</li> <li>●教育行政との連携による中長期的な観客創造</li> <li>■県の教育行政との連携</li> <li>■長期間在籍し広いネットワークを持つ職員の存在</li> </ul>

<sup>1</sup> 公益社団法人全国公立文化施設協会「平成26年度 劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査研究報告書」の結果との比較に基づく。

第2章 調査対象の抽出と共通点

しいの実シアター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表作のロングラン</li> <li>● 八雲国際演劇祭の開催</li> <li>● 支持者（寄付者）の積極的な獲得</li> <li>■ 地域社会への貢献の意識</li> <li>■ 事業の振り返りの徹底</li> </ul>
三重県総合文化センター三重県文化会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 500円コンサートの充実</li> <li>● 会員としての囲い込み</li> <li>● 徹底した事業管理に基づく企画立案</li> <li>■ 試行的な取り組みを行える仕組み</li> <li>■ 職員の能力・成果が正当に評価される仕組み</li> <li>■ 県との関係性と経営の自由度</li> </ul>
アステールプラザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子供向け事業の充実</li> <li>● 共催公演の公募</li> <li>■ 指定管理期間全体での予算管理</li> </ul>
富士見市民文化会館 キラふじみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アソシエイト・アーティスト制度による事業プログラムの多様化</li> <li>● 「サーカスパザール」による家族層の取り込み</li> <li>● 事業の「階段」化</li> <li>■ 市民活動が盛んな土地柄</li> <li>■ 芸術監督及び館長のリーダーシップ</li> </ul>
豊島区立舞台芸術 交流センター (あうるすぽっと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 劇場外での事業（にゅ〜盆踊り）の実施</li> <li>● 劇場内での各種展示</li> <li>■ 「公共劇場だからやるべきことを」という意識の浸透</li> </ul>
桐生市市民文化会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>● クラシック音楽ファンにターゲットを絞った事業展開</li> <li>● 音楽事務所・マネジメント会社と協働したプログラムづくり</li> <li>● シニア層を取り込むための平日昼間の公演開催</li> <li>■ 長年従事している職員によるステークホルダーとの関係づくり</li> </ul>
岩手県民文化会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>● テレビ局や新聞社との折半共催による事業実施</li> <li>● 県内他館との調整</li> <li>■ 民間事業会社で経験を積んだ職員の存在</li> <li>■ 長年に渡る活動において築いた地域における信頼</li> </ul>
アトリオン音楽ホール	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化庁補助金活用による事業の拡大</li> <li>● 広報活動を意識した企画立案</li> <li>● 普及事業・育成事業の充実</li> <li>■ 指定管理会社による地域貢献の意識</li> <li>■ 地元出身の職員による運営</li> </ul>
吹田市文化会館 メイシアター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地元団体と連携した市民参加型企画</li> <li>■ 市との良好な関係性に基づく長期的な管理</li> <li>■ 街のブランド力と市民自治意識の強さ</li> </ul>

### 第3章 各施設の取組みの紹介

### 3-1. 響きの森文京公会堂（文京シビックホール）

#### (1) 施設の概要

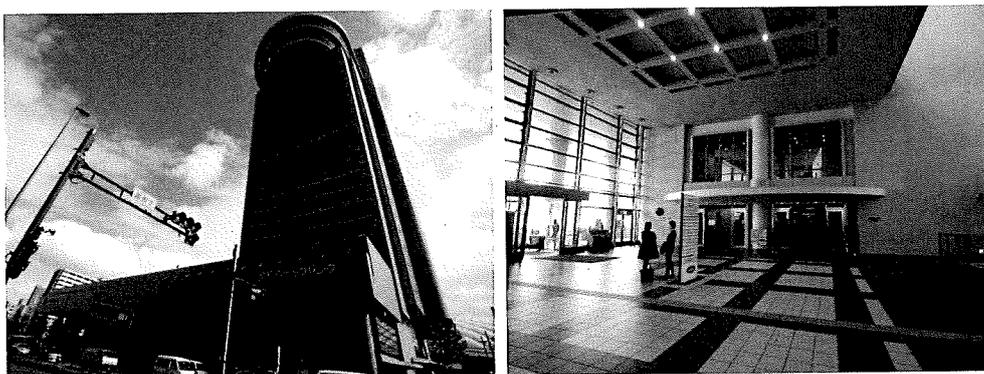
響きの森文京公会堂（文京シビックホール、以下シビックホール）は、2000年に開館した東京都文京区が設置する多目的ホールである。文京シビックセンターの中にクラシック音楽に適した大ホールと多様な目的に使用可能な小ホール、練習室等を擁し、また、東京フィルハーモニー管弦楽団、鼓童、シエナ・ウインド・オーケストラ、牧阿佐美バレエ団と事業提携を結んでいる。

図表・10 響きの森文京公会堂（文京シビックホール）の概要

名称（通称）	響きの森文京公会堂（文京シビックホール）
開館年	2000年
所在地	東京都文京区春日 文京シビックセンター1F 大ホール、2F 小ホール
施設内容	・大ホール（1802席）、小ホール（371席） ・練習室3、会議室3

出所) 公益財団法人文京アカデミーWebサイトを基に（一社）芸術と創造作成

図表・11 響きの森文京公会堂（文京シビックホール）の外観とホール入口（大ホール）



出所)（一社）芸術と創造

#### (2) 運営形態

現在、公益財団法人文京アカデミーが文京シビックホールの指定管理者となっている。公益財団法人文京アカデミーは、文京区の出資により、1986年に財団法人文京区地域振興サービス公社として設立され、その後名称を変更して現在の組織となった。

公益財団法人文京アカデミーは「コミュニティの育成、文化芸術の振興及び生涯学習の推進に寄与し、もって地域社会の発展と豊かな区民生活の形成に資すること<sup>2</sup>」を目的とし、シビックホール、スカイホール、アカデミー文京、地域アカデミー（アカデミー向丘除く）の管理運営を行っている。

図表・12 公益財団法人文京アカデミーの概要

団体名	公益財団法人文京アカデミー
出捐金	2億円（全額文京区が出資）
設立	1986年 ※前身の文京区地域振興サービス公社の設立
職員数	45名（内訳：派遣職員11名、固有職員20名、非常勤職員14名）

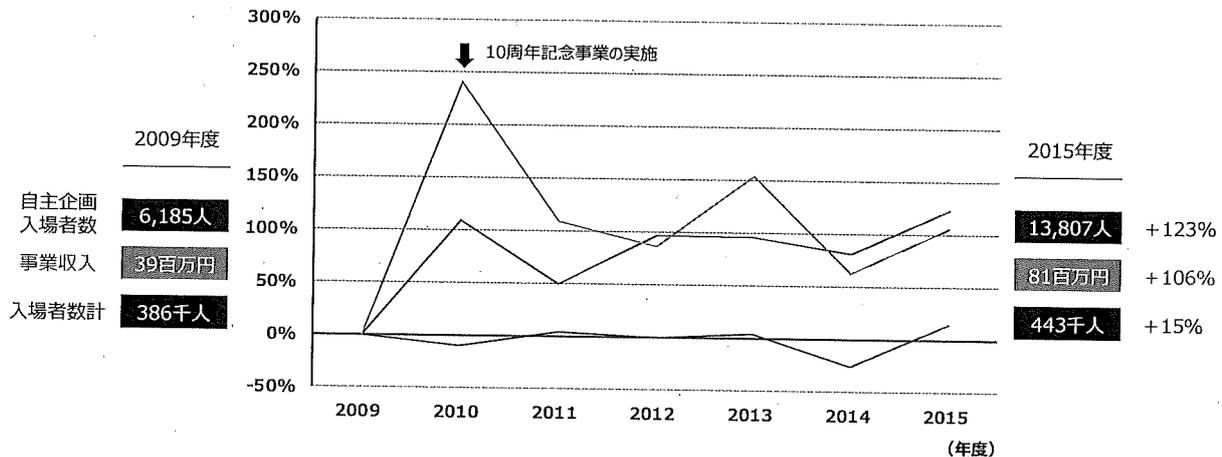
出所) 公益財団法人文京アカデミーWebサイトを基に（一社）芸術と創造作成

<sup>2</sup> 公益財団法人文京アカデミー定款より。

### (3) 入場者数・事業収入の伸び

シビックホールでは、近年、自主制作・企画公演の入場者数の増加が飛躍的に増加しており、2015年度の自主制作・企画公演の入場者数や事業収入は、2009年度と比較して100%を超える増加になっている。

図表・13 響きの森文京公会堂（文京シビックホール）の自主企画入場者数・事業収入



### (4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入が増加している要因として以下の取組みが考えられる。

- クラシック音楽初心者ターゲットに絞った事業構成
  - 仕事帰りの観客をターゲットにした企画立案
  - セット券販売によるリピーターの獲得
  - 10周年イベントをきっかけとした囲い込み
- 
- クラシック音楽初心者ターゲットに絞った事業構成
 

シビックホールでは、クラシック音楽初心者ターゲットとし、わかりやすい、ベーシックなプログラムを展開しており、ベートーベンやチャイコフスキー等クラシックに詳しくない人でも耳にしたことのある曲を選んで。初めてクラシック音楽のコンサートに足を運ぶ方にも関心を持ってもらえるようなプログラム作りを心掛けている。

東京にはクラシック音楽専門のコンサートホールも多く、先鋭的な演奏会や玄人向け演奏会は他のホールでも体験できるとし、シビックホールでは初心者・入門者を対象としたプログラムを充実させることで、ライトな観客層を取込もうとしている。
  - 仕事帰りの観客をターゲットにした企画立案
 

2014年度から開始した「夜クラシックシリーズ」は、平日の19:30に開演する90分の室内楽のコンサートである。クラシック音楽専門のコンサートホールに行くのはハードルが高いが、仕事帰りにクラシックをちょっと聞いてみたいという人をターゲットにし、開演時間、上演時間、価格（3,000円程度）を設定している。

耳馴染みのある曲やCMで聞いたことのある曲を中心に構成し、また、演奏者らによるトークを挟み、初心者でも楽しめるようにするとともに、シリーズ全体のテーマ曲を設け、コンサートのオープニングに演出を施す等の工夫を行っている。

出演者の選定に関しても、テレビ番組で取り上げられた話題の演奏者などを取り上げ、話題性のあるプログラムを組むことで、新規顧客の獲得に努めている。

図表・14 「夜クラシックシリーズ」の案内

出所) 公益財団法人文京アカデミーWeb サイト

●セット券販売によるリピーターの獲得

シビックホールの主催公演である東京フィルハーモニー交響楽団「響きの森クラシックシリーズ」及び平日の夜に実施している室内楽コンサート「夜クラシックシリーズ」では、それぞれ年4回の公演全てが聴けるセット券を販売している。セット券購入者は、毎回同じ席で鑑賞することができるため、お得な価格で好みの席を確保できると好評である。

「響きの森クラシックシリーズ」の入場者数の2/3程度がセット券で入場しており、リピート率も高い。人気のある指揮者や演奏者が出演する際にセット券を購入し、そのままリピートして毎年購入する方が多いため、広報にかかる広告費や手間を大幅に削減することができている。

また、「夜クラシックシリーズ」はセットの割引率が高く、3公演分の料金で4公演が聴ける価格設定にしている。目玉になる有名なアーティストをプログラムに組み込むことで、セット券の販売増加を狙っている。

図表・15 「響きの森クラシックシリーズ」の案内

出所) 公益財団法人文京アカデミーWeb サイト

● 10周年イベントをきっかけとした囲い込み

2010年度はシビックホールの10周年にあたり、区からの予算も拡大され、財団の自己財源からの積極的に支出を行い記念事業として通常よりも多くの事業を行った。これをきっかけとして多くの人々に文京シビックホールの認知度が高まり、また、前述の継続的な来場を促す工夫と相まって、以降、安定的に入場者が増加するようになっている。

(5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

■ PDCA サイクルを回し事業を改善していく風土

シビックホールでは、職員による気づきや来場者からの反応により、絶えず事業を変化させようとする風土がある。例えば、「夜クラシックシリーズ」では、事業の開始当初は20時開演の1時間の公演だったが、来場者から「1時間では勿体無い」という意見が寄せられたため、現在では、19時30分開演の1時間半の公演としている。また、当初はピアノやその他の楽器のソロで行っていたが、ソロでは集客に限界があるため、2年目からはトリオ等により構成し、入場者数を確保できるようにしている。

これらの企画は、事業系の係長1名と係員5名で行っている（係長は区からの出向、係員は財団採用で全員無期雇用）<sup>3</sup>。各職員の裁量は大きく、シリーズものは係員にて企画立案を行い、館長が承認している。

館長（上野氏）も区からの出向であるが、長期間にわたって文京シビックホールを担当しており、財団の運営にも熟知している。区との良好な関係を保ちつつ、独立性を有しており、それが自律的にPDCAサイクルを回し事業を改善していく風土につながっていると考えられる。

<sup>3</sup> ヒアリング実施時点。

### 3-2. 福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）

#### （1）施設の概要

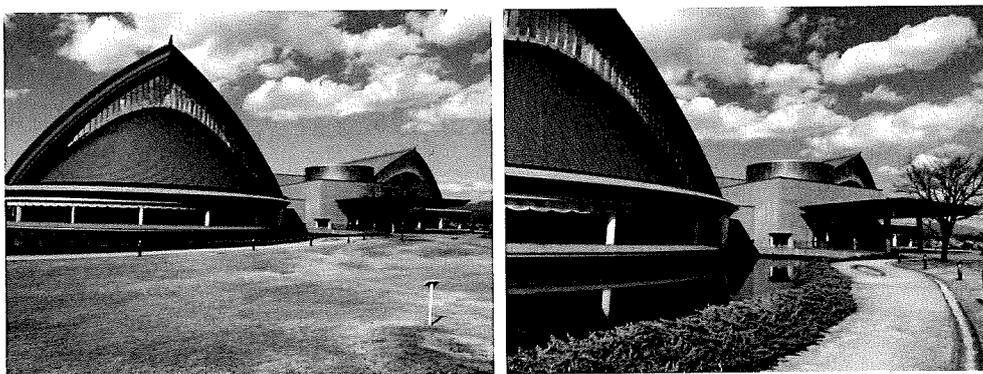
福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい、以下ハーモニーホール）は、1997年に開館した、福井県が設置したコンサートホールである。福井県福井市に位置し、大ホール、小ホールに加え、6つの練習室とリハーサル室を有する。クラシック音楽を中心に主催公演を展開するほか、鑑賞者から演奏者まで、様々な育成事業を実施している。

図表・16 ハーモニーホールふくいの概要

名称（愛称）	福井県立音楽堂（ハーモニーホールふくい）
開館年	1997年
所在地	福井県福井市今市町 40-1-1
施設内容	・大ホール（1,456席、パイプオルガンあり）、小ホール（610席） ・練習室 6、リハーサル室 1

出所）ハーモニーホールふくい Web サイトを基に（一社）芸術と創造作成

図表・17 ハーモニーホールふくいの外観



出所）（一社）芸術と創造

#### （2）運営形態

公益財団法人福井県文化振興事業団がハーモニーホールの指定管理者となっている。公益財団法人福井県文化振興事業団は、福井県と福井県内の全市町（当時）と地元企業（金融機関、電力会社等）が約12億円を出捐し、1982年に設立された。

「芸術文化等多様な文化振興事業を行うことにより、県民の文化意識の高揚を図り、もって個性豊かな地域の生活文化の向上発展に寄与すること<sup>4</sup>」を目的とし、開館当初からハーモニーホールの運営を受託し、2006年からは指定管理者として運営を行っている。

<sup>4</sup> 公益財団法人福井県文化振興事業団定款より。

図表・18 福井県文化振興事業団の概要

団体名	福井県文化振興事業団
出捐金	約 11.7 億円 (福井県、県内 17 市町、(株) 福井銀行、関西電力(株)、(株) 北陸銀行、北陸電力(株)、日本原子力発電(株)、独立行政法人日本原子力研究開発機構、社団法人福井県繊維協会 ほか)
設立	1982 年
職員数	20 名 (うち事業系職員 10 名) ※約 8 割が正規職員

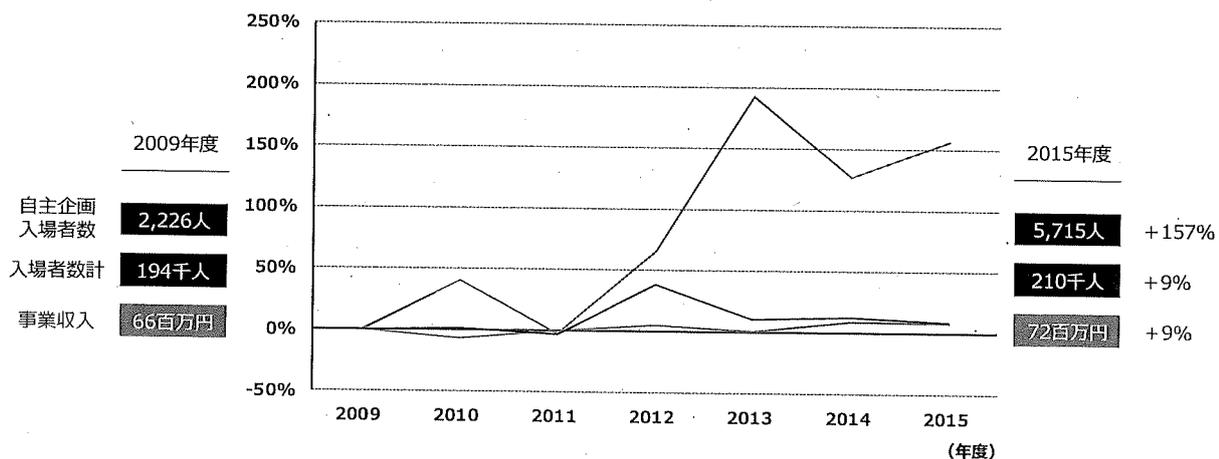
出所) ハーモニーホールふくい Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

### (3) 入場者数・事業収入の伸び

自主制作・企画公演の入場者数は年度によってややばらつきはあるものの、右肩上がりとなっており、2015 年度の自主制作・企画公演の入場者数は 2009 年度に比べて 157% 増になっている。

入場者数全体及び事業収入は、少しずつではあるが安定的に増加しており、全体の入場者数・事業収入ともに 2015 年度は 2009 年度の 9% 増となっている。

図表・19 ハーモニーホールふくいの各指標の推移



### (4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- 地元企業からの協賛金の獲得
  - 地元メディアとの連携による広報
  - 教育行政との連携による中長期的な観客創造
- 地元企業からの協賛の獲得
- ハーモニーホールでは協賛を制度化しており、「公演冠協賛（公演事業費の 1/3 以上、1 事業 1 社）」、「法人協賛（年間 50 万円）」、「個人協賛（1 口 5 万円）」の区分を設けている。
- 協賛を行った法人や個人の名前はチラシやパンフレットに掲載している。この制度は浸透しており、現在、ハーモニーホールのほぼ全ての主催事業に公演冠協賛がついている。



図表・21 ハーモニーホールふくいの冠協賛の特典

**特典1 貴社名(御芳名)掲載**

「ハーモニーホールふくい」自主公演プログラム、ならびに「ハーモニーホールふくい」エントランスに掲示するパネルに貴社名(御芳名)を掲げ、ご支援いただいていることを広く紹介いたします。

**特典2 広告・冠名掲載**

「ハーモニーホールふくい」自主公演プログラム、各種印刷物などに広告、冠名を掲載します。(ただし、協賛金額に応じた掲載となります。)

**広告**

協賛金額	広告の内容(情報誌は原則として中面1/8頁で掲載)
1 50万円まで	協賛する公演のプログラムに全面広告1回のほか、他公演のプログラムに全面広告1回
2 50万円を超え 100万円まで	協賛する公演のプログラムに全面広告1回のほか、他公演のプログラムに全面広告2回
3 100万円を超え 200万円まで	協賛する公演のプログラムに全面広告1回のほか、他公演のプログラムに全面広告3回と情報誌に1回掲載
4 200万円を超え 400万円まで	協賛する公演のプログラムに全面広告1回のほか、他公演のプログラムに全面広告4回と情報誌に2回掲載
5 400万円超	協賛する公演のプログラムに全面広告1回のほか、他公演のプログラムに全面広告5回と情報誌に3回掲載

**特典3 公演チケットの提供・割引**

協賛いただきました公演について協賛金額の1/4相当分のチケットをご提供します。  
 さらに、「ハーモニーホールふくい」自主公演チケットを一般販売に先がけてご予約を承り、割引価格(原則1割引)にて販売いたします。  
 また、年に数回程度、チケットの割引率が高い「優待公演」をご用意しております。

**特典4 情報のご提供**

当財団が発行する情報誌「季刊ブンカ」の送付サービスにより、県内の文化イベントや音楽公演などのさまざまな情報を提供いたします。

**特典5 その他**

公演当日、公演開催ホールのホワイエにて貴社の広報活動等をご支援させていただきます。  
 なお、広報活動内容等については事前にお打ち合せをさせていただきますので、予めご了承ください。  
 公演終了後、貴社が発行される広報誌等への当該公演の文章・写真をご提供させていただきます。

出所) ハーモニーホールふくい Web サイト

●地元メディアとの連携による広報

福井県内には、福井放送と福井テレビの2つのテレビ局があり、ハーモニーホールではこれらのメディアと連携して、広報活動を行っている。現在、両テレビ局と年に3本ずつ共催でコンサートを実施している（ハーモニーホールが共催名義を購入している）。これによりテレビ局が保有する広告枠にてハーモニーホールのCMを数多く流すことができる。

ハーモニーホールのテレビCMに使用されているサウンドロゴは、コンサートを聞きに来た小学生が口ずさむほどに福井県民に浸透している。ある子供向けの公演では、公演の協賛である福井放送が上演までの過程を取材し、ドキュメンタリーとして番組化された。県民と公演までの過程を共有することで、ハーモニーホールをより身近に感じてもらえるきっかけとなったという。

●教育行政との連携による中長期的な観客創造

ハーモニーホールでは、鑑賞者・演奏者を育成するための様々なプログラムを実施している。その中でも、小学校5年生全員をハーモニーホールに招いて行っている「ふれあい文化子どもスクール オーケストラと子どもたちのふれあいコンサート」、中学生全員を対象にアウトリーチ事業として行っている「出張音楽堂」が、中長期的な観客創造に寄与している。

「ふれあい文化子どもスクール オーケストラと子どもたちのふれあいコンサート」は、福井県及び福井県教育委員会がハーモニーホールに運営委託をし、2009年から実施している事業である。福井県内の小学校5年生全員をハーモニーホールに招き、オーケストラの演奏を鑑賞してもらっている。

福井県は比較的面積が小さいため、県内各地からハーモニーホールへの来場が可能であり、また、人口が少なく県内の1学年が8,000人弱であるため、6~7回コンサートを行えば、小学校5年生全員がコンサートを楽しむことができる。

聞き馴染みのあるクラシック音楽を中心にプログラムを構成し、演奏家には福井県出身の音楽家を起用、パンフレットに出身校を記載して、音楽や演奏家を身近に感じてもらえるように工夫している。

図表・22 「ふれあい文化子どもスクール オーケストラと子どもたちのふれあいコンサート」の概要

日時	2017年12月6日(火)~9日(金) 全7公演 ・午前の部 10:30~12:00 (12月7日~9日) ・午後の部 13:30~15:00 (12月6日~9日)
会場	ハーモニーホールふくい 大ホール
参加者	県内の小学校5年生・引率教員 (2016年度実績/190校、7,491人)
主催 運営委託	主催：福井県、福井県教育委員会 運営委託：公益財団法人福井県文化振興事業団

出所) ハーモニーホールふくい Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

2015年度からは、同じく福井県及び福井県教育委員会からの運営委託により、県内全ての中学生を対象とした「出張音楽堂」を開始している。

ハーモニーホールでは、「越のルビーアーティストバンク」という福井県にゆかりのあるアーティストの登録制度を設置しており、「出張音楽堂」では、このアーティストバンクを活用し、登録している演奏家の中から選ばれたコーディネーターにコンサートを企画してもらう。ハーモニーホール職員が企画をブラッシュアップした後、中学校でコンサートを実施することで、中学生にクラシック音楽（室内楽）に親しんでもらうとともに、アーティストの育成にも取り組んでいる。

図表・23 「出張音楽堂」の概要

実施内容	県内市町の中学校、特別支援学校に演奏家を派遣し室内楽コンサートを実施
実績	3年間で県内76中学校および、特別支援学校11校にて実施
期間	2015年度～
会場	校内の体育館や音楽室等
対象	生徒
構成	5人のコーディネーターを中心に、越のルビーアーティストバンク登録者から3～4名で構成
主催	主催：福井県
運営委託	運営委託：公益財団法人福井県文化振興事業団

出所) ハーモニーホールふくい Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

## (5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

- 県の教育行政との連携
- 長期間在籍し広いネットワークを持つ職員の存在

### ■ 県の教育行政との連携

福井県は全国学力・学習状況調査でも毎年上位に名を連ね、教育において成果をあげている県として知られているが、その方針がハーモニーホールの事業にも反映されている。

小学生から高校生向けの普及プログラムが充実しているほか、コンサートホール建設の段階から合唱や吹奏楽の音楽系部活動のコンクール実施を前提とした設計がなされているなど、福井県教育委員会との強固なつながりのうえで、運営が行われている。

県内で唯一の音楽科（高校・短期大学）の廃止による演奏家育成への影響を案じた福井県の意向により、中学生・高校生が楽理やソルフェージュを学ぶ「ハーモニーアカデミー」が開始されるなど、福井県の教育行政と長期的な視点を共有することで、より多くの県民にリーチし、ニーズに応える事業を展開することができている。

■長期間在籍し広いネットワークを持つ職員の存在

上記の取組みを実施するにあたり、福井県内の音楽家、地元企業、教育委員会、行政等に幅広いネットワークを持つ事業振興課長ら開館以来ハーモニーホールに尽力してきた職員（橋本氏・佐々木氏等）の存在が大きいと考えられる。

事業振興課長は元音楽教諭で、ハーモニーホール開館時には教育委員会から派遣された職員であったが、その後、財団の固有職員となり、現在に至るまでプロデューサーとして活躍している。20年以上にわたりハーモニーホールに勤務している。

各職員の定着率は高く、地元企業やメディア、演奏家とのネットワークを豊富に持っている。特に協賛の獲得や地元メディアとの共同主催・広報においては、当該職員との信頼関係による部分も大きい。

また、現在では改正労働契約法への対応を踏まえ、8割程度の職員が無期雇用となっている。財団のトップは、人は「コスト」ではなく「資産」であると考え人材を重要視しているという。

### 3-3. 松江市八雲林間劇場（しいの実シアター）

#### （1）施設の概要

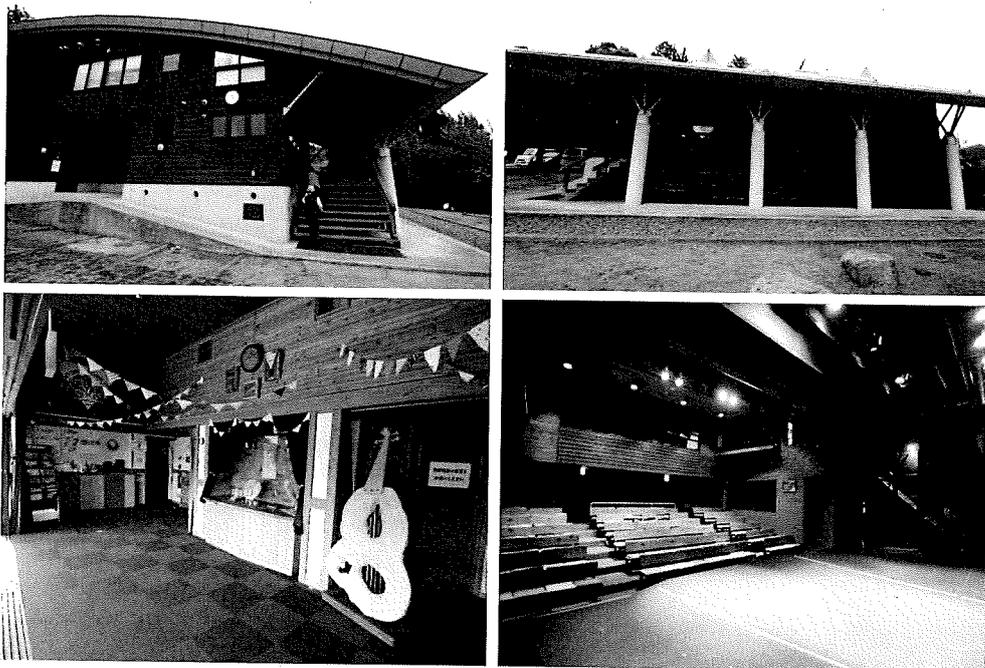
松江市八雲林間劇場（しいの実シアター、以下しいの実シアター）は、2005年に開館した、島根県八雲村（現・松江市）が設置した劇場である。島根県松江市に位置する108席の劇場で、「日本一小さな公立劇場」と称し、演劇の企画制作・上演や普及活動を行うとともに、国際演劇祭を開催している。

図表・24 しいの実シアターの概要

名称（愛称）	松江市八雲林間劇場（しいの実シアター）
開館年	2005年
所在地	島根県松江市八雲町平原 481-1
施設内容	ホール（108席）

出所）しいの実シアターWebサイトを基に（一社）芸術と創造作成

図表・25 しいの実シアターの外観・内観



出所）（一社）芸術と創造

(2) 運営形態

現在、NPO 法人あしづえが、しいの実シアターの指定管理者となっている。NPO 法人あしづえは、1966 年に演出家（現・理事長）の園山士筆氏と若者 5 人で結成された劇団あしづえを母体とし、2001 年に法人化されたものである。しいの実シアターは、当時は指定管理者制度がなかったため八雲村文化協会による管理運営を経て、2007 年からは NPO 法人あしづえが指定管理として運営を行っている。

図表・26 NPO 法人あしづえの概要

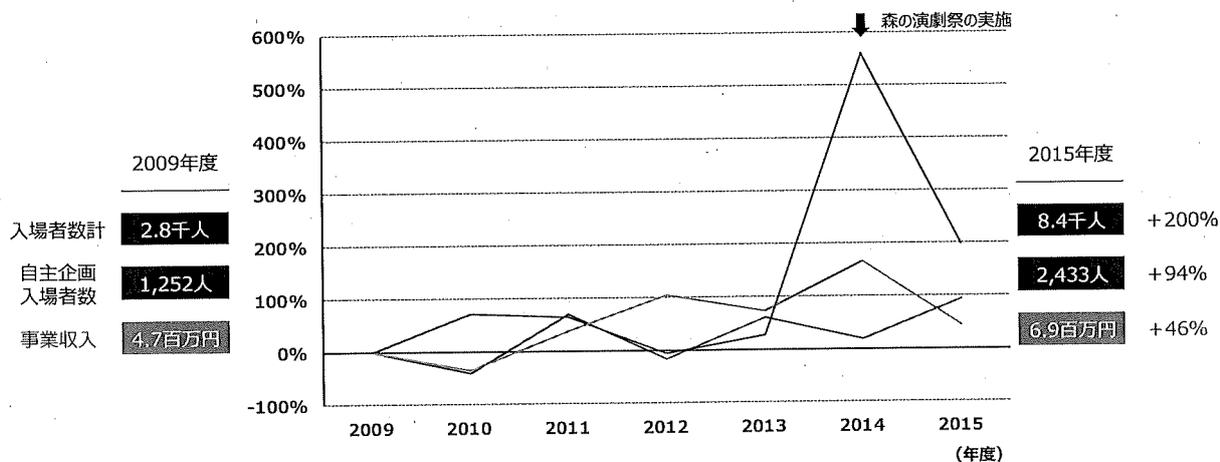
団体名	特定非営利活動法人あしづえ
設立	2005 年 12 月 ※任意団体としての設立は 1966 年
職員数	10 名（常勤 5 名、非常勤 5 名）

出所) しいの実シアター Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

(3) 入場者数・事業収入の伸び

しいの実シアターでは入場者数と事業収入の伸びが大きく、2014 年度には森の演劇祭（八雲国際演劇祭）を開催したため、特に数字が大きくなっている。2009 年度比の 2015 年度の値は、入場者数が 200%増、事業収入が 46%増になっている。

図表・27 しいの実シアターの各指標の推移



(4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- 代表作のロングラン
- 八雲国際演劇祭の開催
- 支持者（寄付者）の積極的な獲得

●代表作のロングラン

しいの実シアターでは、入場料を2,000円に設定し、1つの作品を年間10回程度上演している。100人が入場すると1回の公演の収入が20万円となり、3年間で30公演行くと制作費の600万円が捻出できるという計算で行っているという。その間に芝居のクオリティを上げていくという、キャパシティが小さい劇場としての工夫を行っている。

●八雲国際演劇祭の開催

劇団あしぶえは、アメリカのウィスコンシン州ラシーンで開催されているアメリカ国際地域演劇祭に1994年に参加し、「ゼロ弾きのゴーシュ」が最高賞を受賞した。本演劇祭は、地域の大手企業であるJohnson & Johnsonが積極的に支援するとともに、地域の人々もボランティアとして支えていた。

演劇祭への参加を通じて、「1つの劇団が頑張るだけでは進まないが、演劇祭を開催することで劇団が育ち、地域のボランティアも育ち、必ず街づくりになる<sup>5</sup>」ということを認識。その後、「八雲国際演劇祭」を発案し、2009年に実験的に開始した。以降、3年に1度開催しており、2014年には第5回を迎えている。

第4回（2011年）の八雲国際演劇祭まではコンテスト形式だったので参加団体は渡航費、道具の輸送など自費で支払い、滞在中はホームステイをするという方式をとっていた。食事代などは出していたが、ホストファミリーが送り迎えも行うため移動費はかからず、全体の費用を抑えることができた。しかし、コンテスト形式の場合、スタッフも直で見たことがない作品も選定するため、作品の質は必ずしも担保はされていなかった。第5回からはコンテスト形式をやめて、制作費が安くともプロの劇団の良い作品を観てもらおうという方針になってきている。

図表・28 第5回八雲国際演劇祭への参加アーティスト



出所) 第5回八雲国際演劇祭 Web サイト

<sup>5</sup> NPO 法人あしぶえへのヒアリングより。

### ● 支持者（寄付者）の積極的な獲得

しいの実シアターの設立の費用は八雲村がその多くを拠出しているが、当時、劇団あしづえも3,000万円の寄付金を集め八雲村に寄付している。

劇団あしづえは2005年のNPO法人化後に公益認定も受けており、寄付者は寄付控除を受けられる。現在、九州から東京までの間の幅広い人から寄付を受けている。現在は正会員が80名、サポート会員が240名程度（正会員は1万円、サポート会員は1口1千円）であり、多くの会員が継続的に支援を行っている。

また、八雲国際演劇祭においても寄付者を募っている。また、近年は会社に訪問し、トップに直接依頼を行っているほか、カナダリバプール国際演劇祭では寄付者に冠を贈呈して表彰していたことから、2009年の八雲国際演劇祭では高額寄付者を招待し発表を行っている。寄付者にとっては会社のPRとなると同時に、企業の方にも演劇を観てもらう機会となり、演劇に対する理解を深めてもらうことができる機会と捉えているという。

### （5）取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

#### ■ 地域社会への貢献の意識

#### ■ 事業の振り返りの徹底

#### ■ 地域社会への貢献の意識

NPO法人あしづえでは演劇を上演しているだけでなく、地域の人たちの活動を支援するため、地域の約30団体の事務局を行っている。良い演劇を作るだけでなく、地域の中に入っていき、地域の住民の理解を得られるとともに、少子化、高齢化など地域のニーズが見え寧ろ良い作品作りにも繋がると考えている。

「八雲の地域では演劇を観なれている人は多くないが、地域との交流が生まれることで芝居を観に来てくれる。それをきっかけに芝居を好きになってくれる人もいるし、芝居を好きにならなくても、若い人が生き生きと働いているのを見ていただくことで、しいの実シアターの活動への評価につながることもある<sup>6</sup>」という。

#### ■ 事業の振り返りの徹底

NPO法人あしづえでは事業の振り返りを大事にしており、事業の良かった点・良くなかった点を議論し、記録に残し、次の事業に活かすようにしている。また、東京や大阪の勉強会などに頻繁に参加するようにしており、その際には、1人ではなく2～3名で参加し、それぞれの受け止め方を共有するようにしている。複数名が参加することで、個人的な体験に留めず、学んだ内容を十分に組織の中で活かすことができるという。

<sup>6</sup> NPO法人あしづえへのヒアリングより。

### 3-4. 三重県総合文化センター 三重県文化会館

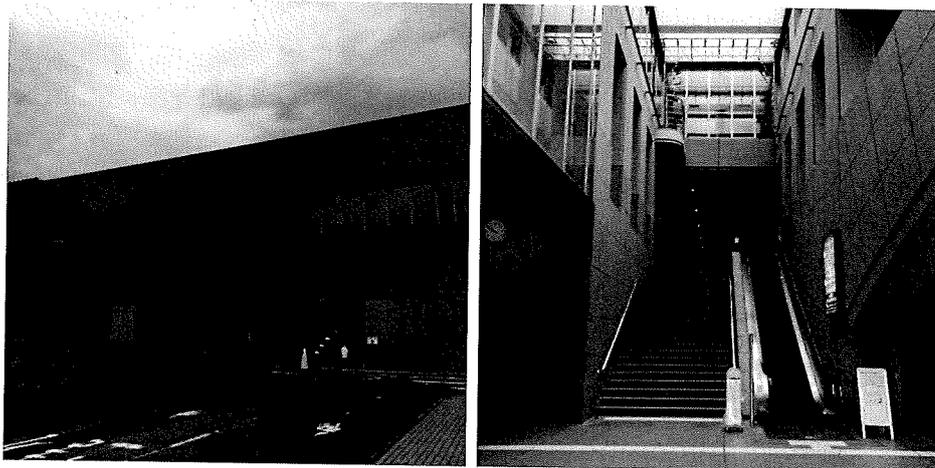
#### (1) 施設の概要

三重県総合文化センター三重県文化会館（以下、三重県文化会館）は1994年開館の、三重県が設置した総合文化施設である。4つのホールのほか、ギャラリー、会議室、練習室を有する。なお、三重県総合文化センターは、三重県文化会館のほか、生涯学習センター、男女共同参画センター、県立図書館、放送大学三重学習センターらから構成されている。

図表・29 三重県総合文化センター 三重県文化会館の概要

名称（愛称）	三重県総合文化センター 三重県文化会館
開館年	1994年
所在地	三重県津市一身田上津部田 1234
施設内容	・大ホール（1,903席）、中ホール（960席）、小ホール（約300席）、多目的ホール（約400席） ・ギャラリー2、会議室3、リハーサル室2

図表・30 三重県総合文化センターの外観・内観



出所）（一社）芸術と創造

#### (2) 運営形態

1992年に設立された公益財団法人三重県文化振興事業団が、三重県文化会館を含む三重県総合文化センターの指定管理者となっている。公益財団法人三重県文化振興事業団は、「文化芸術、生涯学習及び男女共同参画社会づくりに関する事業を行うことにより、県民の文化芸術の振興、生涯学習の推進及び男女共同参画社会の実現に寄与すること<sup>7</sup>」を目的としている。

<sup>7</sup> 公益財団法人三重県文化振興事業団定款より。

図表・31 公益財団法人三重県文化振興事業団の概要

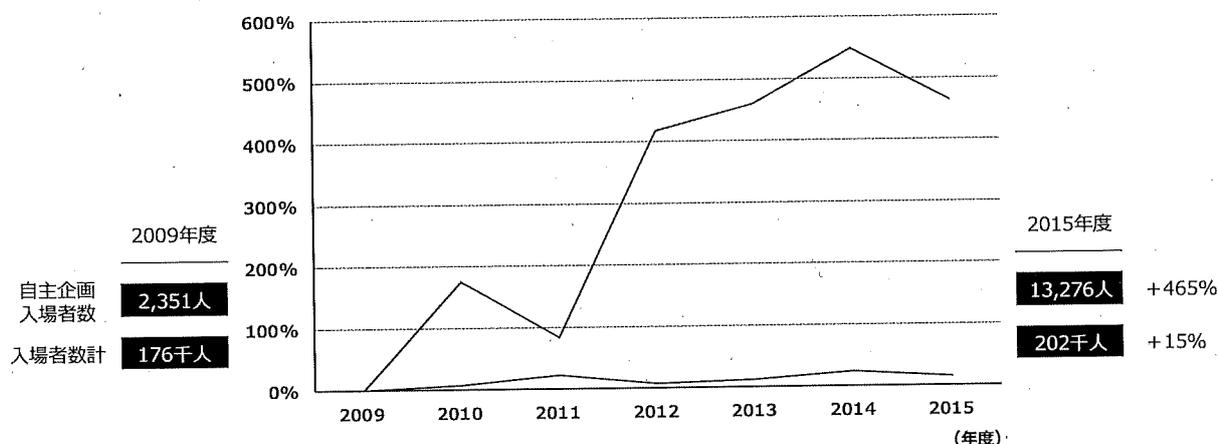
団体名	公益財団法人三重県文化振興事業団
出捐金	20 億円（全額三重県出捐）
設立	1992 年
職員数	71 名

出所) 三重県文化振興事業団 Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

### (3) 入場者数・事業収入の伸び

三重県文化会館では自主企画・制作公演の入場者数と全体の入場者数がともに増加しており、2015 年度は 2009 年度比で前者が 465% 増、後者が 15% 増となっている。

図表・32 三重県文化会館の各指標の推移



### (4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- 500 円コンサートの充実
- 会員としての囲い込み
- 徹底した事業管理に基づく企画立案

#### ● 500 円コンサートの充実

平日の大ホールの稼働率は比較的低いため、入場料と事業費を抑えた自主企画事業を行っている。例えば、ワンコイン（500 円）の企画を数多く行っており、年間公演 30 本のうち、18 本は自主企画、うち 10 本はワンコインコンサートである。参加料が 500 円では安すぎるという意見もあるが、1 万人集客ができており、収支は成り立っているという。

ワンコインの企画の中では「『ヘンゼルとグレーテル』スライドコンサート」という、ユニークな企画が成功した。子どもはクラシックを聴いていても退屈するので、絵本をスライドで見せ、地元の指揮者や歌手を起用し、地元のオーケストラ・三重フィルと会館のジュニアオーケストラと一緒に演奏する企画である。0 歳から鑑賞可として、家族全員で来られるようにした。結果として、大ホールで 1,600 人埋まった。三重県の絵本作家の育成にもつながり、また、鑑賞者にも喜んでもらい、アンケート結果でも非常に良い評価を受けたという。

図表・33 ワンコインコンサート（「ヘンゼルとグレーテル」スライドコンサート）

日程	2月12日（日曜日） 14時00分開演（13時30分開場）
	上演予定時間 未定
料金	全席自由席 500円 ※3歳未満はひざ上無料
	※未就学児入場可能 ※残券ある場合は当日チケットレス入場も可能
チケット	12月4日（日曜日） 10時発売
	※予約店舗 ▶ 三重県文化会館チケットカウンター 電話 059-233-1122
クレジット	助成 文化庁 公益財団法人阿田文化財団
	協力 三重フィルハーモニー文楽楽団、三重オペラ協会
	主催 三重県文化会館

出所) 三重県文化会館 Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

●会員の囲い込み

三重県文化会館では、施設のファンを増やすため会員制度の運営に力を入れている。会員には2,800人が加入しており、各公演の5割程は会員にて構成されているという。

図表・34 三重県文化会館の会員制度（シアターメイツ）の概要

<p><b>シアターメイツのご案内</b></p> <p>優先予約でお座をGET！ しかも2Bまで10%OFF！ 三重県文化会館のみの会「シアターメイツ」はお得がいっぱい！ご入会受付中です。</p> <p><b>シアターメイツの特典</b></p> <p><b>チケットの優先予約</b></p> <p>一般発売の前日から、発演1までチケットの購入予約ができます。もちろん、チケット発券日に予約に必要はありません。ただし、優先予約期間中にご予約いただける枚数は、公演として会員お1人様4枚までです。公演によって、予約枚数、予約開始枚数が異なる場合がございます。※先着順です。人数超過の場合はご予約いただけない場合があります。</p> <p><b>チケットの割引販売</b></p> <p>1公演につき会員お1人様2枚まで、チケットを1枚割引価格にてご購入いただけます。ご家族で、またはお友達同士で・・・お持ちになったら嬉しい、会員ならではのサービスです。特別割引（半額1）が実施される公演もあります。※公演によって割引内容が異なる場合がございます。</p> <p><b>情報誌「Mニュース」等の無料送付</b></p> <p>三重県文化センターの情報誌「Mニュース」や公演チラシ、チケット発売情報等を無料でお届けいたします。これらも、お届くまでのご覧を優先させていただきます。</p>	<p><b>会員について</b></p> <p>2つの会員からお選びください。</p> <p><b>A会員</b></p> <p>— 年会費 3,350円（税込）</p> <p>クレジットカード決済可能な会員カードを発行します。シアターメイツ会員特典ももちろん、従来のオリーブ倶楽部、国内外のマスターカード加盟店でのショッピングにご利用いただけます。カードがお手元に届くまで3〜4週間かかります。</p> <p><b>B会員</b></p> <p>— 年会費 1,000円（税込）</p> <p>シアターメイツの会員特典をご利用いただけます。チケットの発送については、予約チケット代金と送料料を別途または別途送料での支払いとなります。文化会館窓口で年会費をお支払いいただく、お手持ちの会員になれます。特別年費会員特典のための、金物印刷口印番号と届出印が必要。</p>
--	---

出所) 三重県文化会館 Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

### ● 科学的な事業の目標設定と結果の分析

三重県文化会館では、基本的には全ての企画においてチケットの完売を目指しており、事前の目標設定と結果の分析を徹底して行っている。過去 20 年分の公演の事業結果がデータベース化されており、ジャンル別や座席のクラス別の売り上げや集客人数などを分析できるようになっており、それを基に目標設定を行っている。

必ずしも、全ての事業において黒字を目指しているわけではなく、赤字になる事業もあるが、それが意味のある赤字かどうかを判断しているという。

### (5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

- 試行的な取組みを行える仕組み
- 職員の能力・成果が正当に評価される仕組み
- 県との関係性と経営の自由度

#### ■ 試行的な取組みを行える仕組み

三重県文化会館では館長（梶氏）を含め幹部は全員、銀行や百貨店などの民間出身である。館長は就任 17 年になり、スタッフでは館長のビジョンが共有されているという。それがチャレンジな状況を生み出しており、また制度としても「グレードアップ事業費」という基本財産の運用益を財源としたチャレンジ用の予算がある。本予算で行った事業が成功したらその事業を定番化していく。

新しい取組みの成功の可否は不透明な部分があるので、まずは財団の自主財源で行い、成功すれば県に申請している。事業の内容は、今でも毎年スクラップアンドビルドを繰り返していて、結果次第では事業を減らして別の事業を行うなど、試行錯誤している。

#### ■ 職員の能力・成果が正当に評価される仕組み

三重県文化会館は特徴的な正職員登用制度を敷いていることで業界内でも有名である。職員は、年俸制管理職、正職員、年俸制専門員、専門員らで構成されている。専門員は 1 年契約で、3 年まで継続可能であり、その後は事実上無期雇用の年俸制専門員に移行する仕組みになっている。専門員には地域手当はつかないが、住宅手当、扶養手当等は支給されている。産休育休も取れ、給与以外の手当では充実している。

そして正職員の枠に空きが出た際には、年俸制専門員に対して募集を行い、部門長の推薦を得た職員のみが受験できる。正職員を一般公募して登用すると、仕事ができない人を採用してしまった場合に内部のモチベーションが大きく下がるため、正職員は内部登用することになっているという。

また、評価においても各スタッフは、年度末に部門長・課長と面談を行い、査定を行っている。部門長・課長が 2 人でやることで、査定に客観性を持たせている。最後の評価の面談は、全職員が事務局長と総務部長が行っている。課長職は、以前はグループリーダーという名前だったが、課長に名前を変えて管理職とし、部下のマネジメントや査定の権限を与えている。

■ 県との関係性と経営の自由度

事業予算については、指定管理期間の5年間は、収支差額6,500万円事業計画を立案している。全国の公共ホールの多くは自治体から事業支出予算として受け取っているが、三重県文化会館の場合は指定管理料の範囲内で独自に収支予算を組む構造となっているので、事業費規模は大きくしても問題ない。従って、赤字が6,500万円となるように、年間予算を組み立てていく。計画よりも集客率や収入が良く、余剰が出た場合でも県に返す必要がないので、毎年2,000万円くらい内部留保が生まれているという。

### 3-5. アステールプラザ

#### (1) 施設の概要

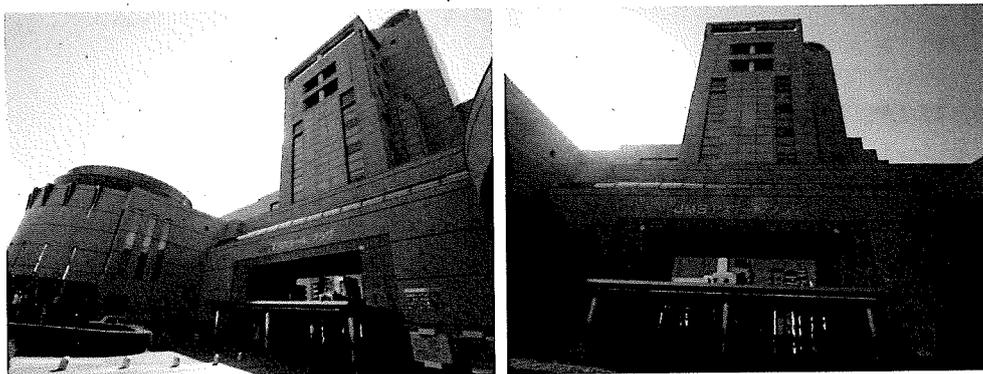
アステールプラザは、1991年に開館した広島市が設置した総合文化施設である。大・中2つのホールと小ホール並みの多目的スタジオのほか、ギャラリー、練習室、会議室等を有する。なお、アステールプラザは、広島市文化創造センター、広島市中区民文化センター、広島市国際青年会館、広島市立中区図書館から構成されている。

図表・35 アステールプラザの概要

名称（愛称）	アステールプラザ
開館年	1991年
所在地	広島市中区加古町 4-17
施設内容	・大ホール（1,204席）、中ホール（547席）、多目的スタジオ、ギャラリー ・練習室9、会議室9、研修室3、宿泊47室、図書館等

出所) アステールプラザ Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

図表・36 アステールプラザの外観



出所) (一社) 芸術と創造

#### (2) 運営形態

公益財団法人広島市文化財団が、アステールプラザの指定管理者となっている。公益財団法人広島市文化財団は、1981年に財団法人広島市文化振興事業団として設立され、名称変更などを経て、現在に至っている。「市民の文化及び学術活動の振興に関する事業、市民の生涯学習及びまちづくり活動の支援に関する事業並びに勤労者の福祉の向上に関する事業を行い、もって市民文化の向上と地域社会の発展に寄与すること<sup>8</sup>」を目的としている。

図表・37 広島市文化財団の概要

団体名	公益財団法人広島市文化財団
出捐金	約 22.6 億円
設立	1981年
職員数	約 650 名

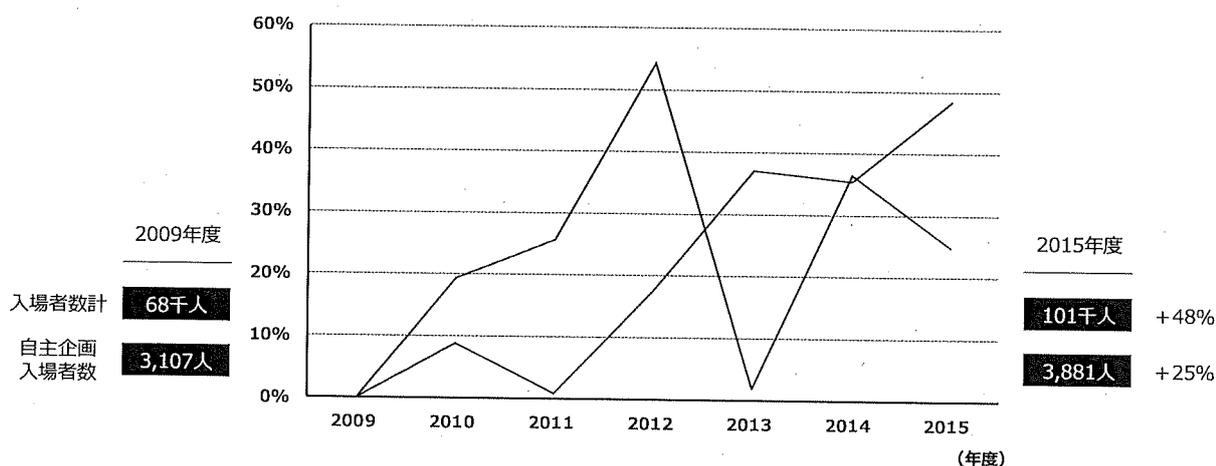
出所) 公益財団法人広島市文化財団 Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

<sup>8</sup> 公益財団法人広島市文化財団定款より。

### (3) 入場者数・事業収入の伸び

貸館なども含む入場者数全体が増加しており、2015年度は2009年度の48%増となっている。また、自主企画・制作公演の入場者数が増加しており、2015年度の自主企画・制作公演の入場者数は、2009年度の25%増となっている。

図表・38 アステールプラザの各指標の推移



### (4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- 子供向け事業の充実
- 共催公演の公募
  
- 子供向け事業の充実

アステールプラザでは劇場に来ることのない子どもたちへの施設の周知を目的として、ロビーギャラリーという展示会場で、夏休みに以下のような子どものためのイベントを企画している。

- ・舞台芸術に馴染みがない方でも施設に足を運んでもらうように2009年度からお化け屋敷を企画。
- ・2013年度：買取企画の恐竜展（「あそんで体験！ あそんで学習！ わくわく恐竜展」）
- ・2014年度：買取企画の鬼太郎展（「水木しげるの妖怪道五十三次展『ゲゲゲの妖怪たち』」）
- ・2015年度：お菓子のダンボールの企画（「親子であま〜い！ たのし〜い！ お菓子な迷路とダンボールランド」）
- ・2016年度：ビニールプールにペンギンがいる水族館（「みんなであそぼっ！ 水族館」）

入場料はいずれも500円程に設定している。これらの企画はアステールプラザの職員が行っている。制作は博物館系の職員と一緒に始めたが、途中からアステールプラザが担当するようになっている。

図表・39 夏休みの企画のチラシ



出所) アステールプラザ Web サイト

● 共催公演の公募

アステールプラザでは基本的に買取公演は行わず、オペラ、演劇、ダンス等を自館で制作を行っている。そのほか、共催事業は積極的に行っており、共催事業では、枠組みを提示して公募も行っている。企画が提案されることを一方的に待っていても、アステールプラザの趣旨に合わないものもあるので、積極的に外部事業者と共同で企画を行うようにしているという。広島以外にも、名古屋、東京などの団体が応募してきたりすることもある。選考を行い、月に1本程度実施している。

(5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

■ 指定管理期間全体での予算管理

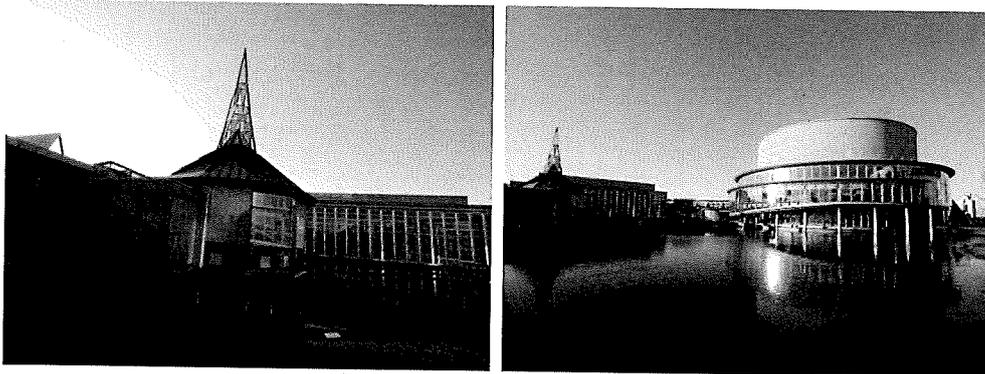
アステールプラザでは指定管理者制度のもと、市の外郭団体としての縛りはあるが、事業実施の裁量は大きく、指定管理料のうち、管理料を文化事業費にまわしたり、次年度に予算を回したりすることができるという。ほかの多くの団体は単年度決算に苦勞しているが、アステールプラザでは5年間の最終的な金額を市に返還するシステムを取っているため、余らせたり大きく使ったりすることができ、職員の自発性に富んだ企画を行うことができています。

### 3-6. 富士見市民文化会館 キラリふじみ

#### (1) 施設の概要

富士見市民文化会館 キラリふじみ（以下、キラリふじみ）は、2002年に開館した、埼玉県富士見市が設置した多目的ホールである。メインホールとマルチホールのほか、会議室や展示室、スタジオ（練習室）を備えている。芸術監督に加え、5名のアソシエイト・アーティストがともに事業を展開している点が特徴的である。

図表・40 富士見市民文化会館 キラリふじみの外観



出所) (一社) 芸術と創造

図表・41 富士見市民文化会館 キラリふじみの概要

名称(愛称)	富士見市民文化会館 キラリふじみ
開館年	2002年
所在地	埼玉県富士見市大字鶴馬 1803-1
施設内容	・メインホール(約800席)、マルチホール(約250席) ・会議室、展示室、スタジオ等

#### (2) 運営形態

公益財団法人キラリ財団が、キラリふじみの指定管理者となっている。公益財団法人キラリ財団は、1984年に設立され、名称変更などを経て現在の組織となった。「芸術文化及びスポーツの振興に関する事業等を行うことにより豊かな地域社会の形成と市民生活の充実に寄与すること<sup>9</sup>」を目的とし、富士見市民文化会館のほか、富士見市立市民総合体育館の管理運営を行っている。

図表・42 公益財団法人キラリ財団の概要

団体名	公益財団法人キラリ財団
出捐金	2,000万円
設立	1984年
職員数	27名

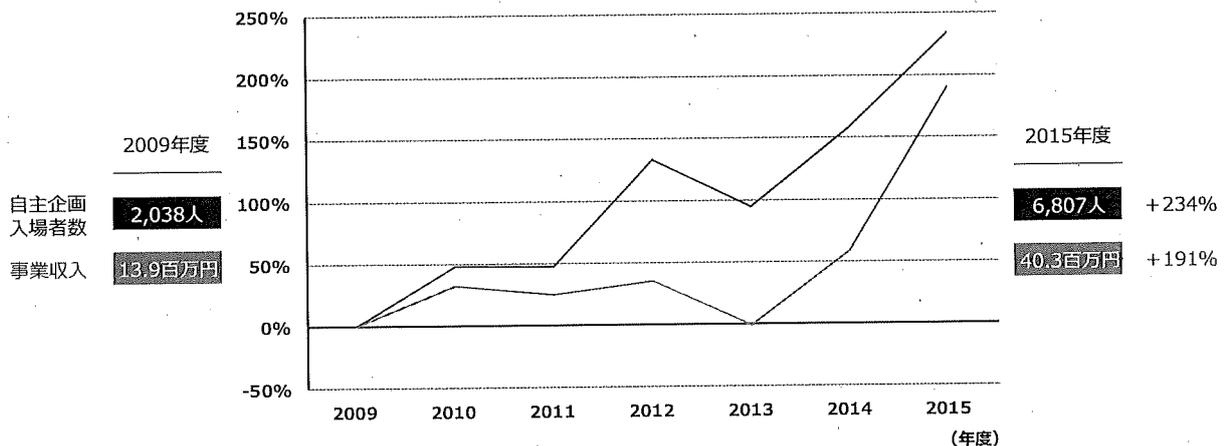
出所) キラリふじみ Web サイトより (一社) 芸術と創造作成

<sup>9</sup> 公益財団法人キラリ財団定款より。

### (3) 入場者数・事業収入の伸び

キラふじみでは自主企画・制作公演の入場者数が増加しており、2015年度の自主企画・制作公演の入場者数は、2009年度の234%増となっている。それに伴って事業収入も増加しており、2015年度の実業収入は、2009年度の191%増となっている。

図表・43 富士見市民文化会館 キラふじみの自主企画入場者数・事業収入の推移



### (4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- アソシエイト・アーティスト制度による事業プログラムの多様化
  - 「サーカスバザール」による家族層の取り込み
  - 事業の「階段」化
- **アソシエイト・アーティスト制度による事業プログラムの多様化**
- 現在、キラふじみでは、様々な市民の要望に応えるため、演劇、音楽、ダンス等様々なジャンルの5名のアーティストをアソシエイト・アーティスト（白神ももこ氏、田中泯氏、永井愛氏、矢野誠氏、田上豊氏）として置き、年に1~2本の事業を依頼している。
- 芸術監督は多田淳之介氏が担っており、このアソシエイト・アーティストの人選も行っている。多田氏本人が実験的な演劇を作る作家であるため、幅広いお客様に対応できるようにバランスを考慮してアソシエイト・アーティストを選定しているという。
- 例えば、ダンサーの田中泯氏に企画の提案を求めたところ、自分が踊るのではなく、街の人と踊りを創ってみたいという提案があり、市民と一緒に踊りのワークショップを行い、1年間の成果発表としてキラふじみの中庭で公演を行った。これがアーティストと市民がともにつくるプロジェクトのスタートになり、以降、市民参加型の企画が増えていった。このような活動に参加した方々が、ほかのプログラムに観客として来館したり、相互につながったりして、観客層を形成している。

●「サーカスバザール」による家族層の取り込み

農業を行っている田中泯氏から、劇場と農作物のマーケットを組み合わせた取組みの提案があり、2012年から「サーカスバザール」という大道芸のイベントを行っている。サーカスバザールでは、地元の農業従事者や飲食店も関わる形で野菜や食べ物を販売するマルシェが設けられるのとあわせて、ワークショップや劇場内では入場料を低価格に抑えたサーカスの公演が行われ、家族で来て1日中楽しめるイベントとなっている。

●事業の「階段」化

多田氏の発案で、「こどもステーション☆キラリ」というイベントを行っている。本イベントは、多田氏やアソシエイト・アーティスト、その他ゲストなどが様々な遊びを用意し、子供たちと一緒に遊ぶ企画である。子供演劇ワークショップはハードルが高いと感じるような子供たちに向けて、まず気軽に遊びに来てもらうところから始め、演劇ワークショップへの参加や劇場での観劇につながるように、事業に「階段」を作ること意識しているという。

(5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

- 市民活動が盛んな土地柄
- 芸術監督及び館長のリーダーシップ

■ 市民活動が盛んな土地柄

キラリふじみのある地域では昔から社会教育活動が盛んであり、キラリふじみの設置においても、この地域にある鶴瀬公民館で活動をしていた方々から、芸術文化施設をつくるという話が持ち上がったことが発端となった。最初は鑑賞型劇場を創る予定であったが、平田オリザ氏に関わることで創造型劇場になっていったという。

地域には小規模ではあるが民間のアートNPOがあり、地場の企業からお金を集め、そのお金で狂言やクラシックコンサート等のチケットを買い上げて、市内中学生を招待してくれているという。

職員にとって、実際に市民と一緒に事業をやる体験は重要であると考え、市民の生活の中での考え・アイデアをホールの運営にも反映している。

■ 芸術監督及び館長のリーダーシップ

館長の松井氏は2010年にキラリふじみの館長に就任し、同じタイミングで、それまでは3つのレジデント・カンパニーの1つ「東京デスロック」の主宰として、キラリふじみで活動していた多田淳之介氏が芸術監督となっている。基本的には、以降、多田氏と松井氏とで話し合いながら、事業プログラムを決めている。

また、平成2010年度からは文化庁「優れた音楽堂・劇場からの創造発信事業」が始まり、創造型劇場への支援が手厚くなった。この補助を受ける中で、両名のリーダーシップにより、創造的な取組を推進している。

### 3-7. 豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）

#### (1) 施設の概要

豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと、以下あうるすぽっと）は、2007年に開館した、東京都豊島区が設置したブラックボックス形のホールである。301席の劇場と2つの会議室を有する。

図表・44 豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）の概要

名称（愛称）	豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）
開館年	2007年
所在地	東京都豊島区東池袋 4-5-2 ライズアリーナビル 2F・3F
施設内容	・劇場（301席） ・会議室 2

#### (2) 運営形態

公益財団法人としま未来文化財団が、あうるすぽっとの指定管理者となっている。公益財団法人としま未来文化財団は、1985年に設立され、合併などを経て現在の組織となった。「さまざまな人々と共に生き、共に責任を担う協働と共創の文化都市を豊島区に実現するため、創造性のある文化・芸術活動の伸展を図りつつ、コミュニティの醸成とまちづくり活動の促進に関する事業を推進し、これらの事業を通じて豊かな区民生活と活力ある地域社会の形成に寄与すること<sup>10</sup>」を目的とし、あうるすぽっとのほか、地域文化創造館等の管理運営を行っている。

図表・45 公益財団法人としま未来文化財団の概要

団体名	公益財団法人としま未来文化財団
出捐金	5億円
設立	1985年
職員数	97名

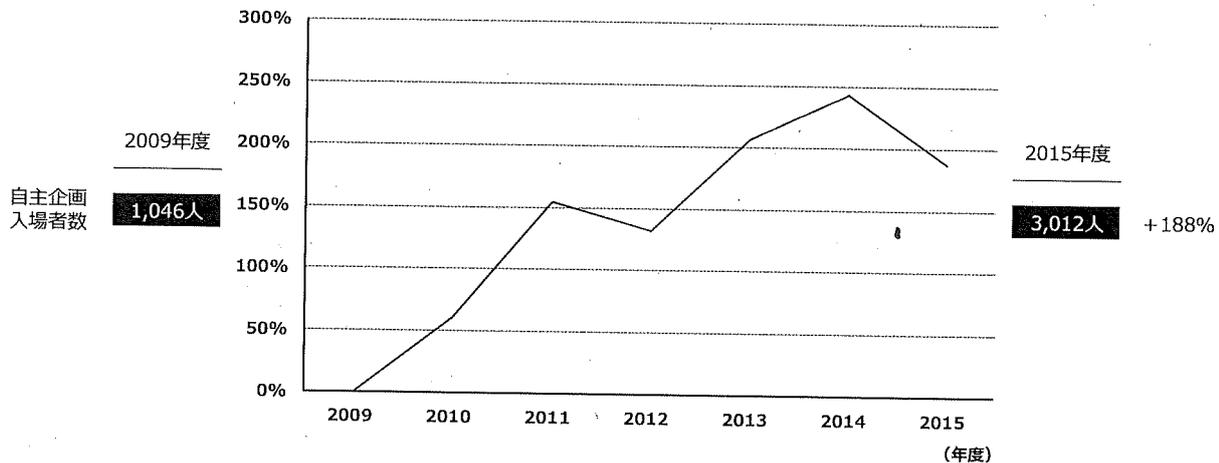
出所) 公益財団法人としま未来文化財団 Web サイトより (一社) 芸術と創造作成

<sup>10</sup> 公益財団法人としま未来文化財団定款より。

### (3) 入場者数・事業収入の伸び

あうるすぽっとでは自主企画・制作公演の入場者数が増加しており、2015年度の自主企画・制作公演の入場者数は、2009年度の188%増となっている。

図表・46 豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）の自主企画入場者数の推移



### (4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- 劇場外での事業（にゅ〜盆踊り）の実施
  - 劇場内での各種展示
- 劇場外での事業（にゅ〜盆踊り）の実施
- にゅ〜盆踊りは、ダンスカンパニー「コンドルズ」主宰の近藤良平氏が創作した、現代風盆踊りである。2008年にあうるすぽっと内で行われたが、2009年から池袋西口公園を会場としている。その参加者数は年々増え続け、2016年は過去最高の約9,500人が参加した。
- 区の町内掲示板への掲示、各種の公演でのちらし配布、区の広報誌などを積極的に行っている。近年は外国人向けに英語表記の入ったちらしを作り、近隣ホテルの宿泊者向けに配布している。また、旅行者だけでなく、近くに住んでいるアジア系の方も参加するようになっている。
- にゅ〜盆踊りは継続的に開催されることによって、より効率化が進められており、テント設営等の可能なものは外部委託しており、スタッフの労力は広報や商店街への出店願いや地域との関係構築に注がれている。にゅ〜盆踊りの開催期間中は、あうるすぽっとでは貸館・共催事業を行い、スタッフ総出でにゅ〜盆踊りに従事している。

図表・47 にゅ〜盆踊りのチラシと風景

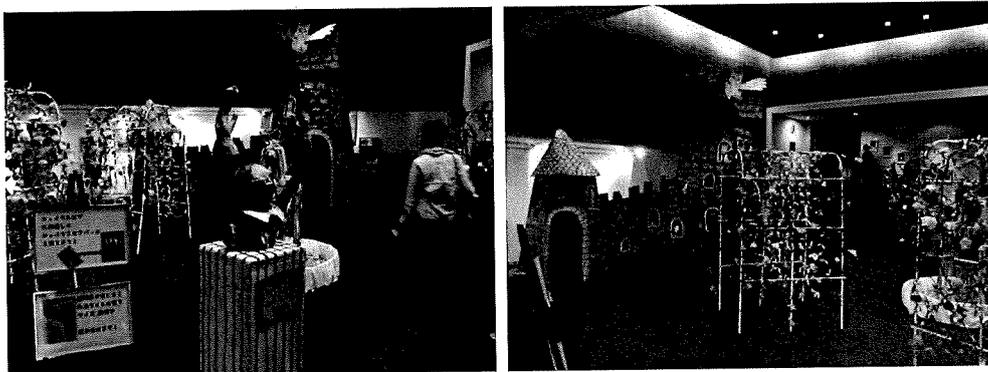


出所) あうるすぽっと Web サイト (左)、あうるすぽっと提供・撮影：涌井直志 (右写真)

● 劇場内での各種展示

あうるすぽっとは基本的には演劇向きのホールであるが、通常訪れないような方々に来てもらえるようにホワイエや劇場が入るビルの1階にて美術展示を行っている。通常、あうるすぽっとでは公演がある時以外はホワイエを公開していないが、展示をきっかけに遊びに来られるような仕掛けを行っている。

図表・48 ホワイエでの展示



出所) (一社) 芸術と創造

(5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

■ 「公共劇場だからやるべきことを」という意識の浸透

東京都では民間劇場やさらには大型の公共劇場が充実している。そのなかで「豊島区立の公共劇場が行うべきことは何か」という認識が職員の間で浸透している。

なかでも、障害者、国際交流などの視点を盛り込んだ事業など必ずしも集客が容易ではない事業にも取り組んでいる。企画は制作担当職員が全員で出し合い、議論しながら決めている。このようなプロセスのなかで、次第にその認識が職員間で共有されているものと思われる。

### 3-8. 桐生市市民文化会館

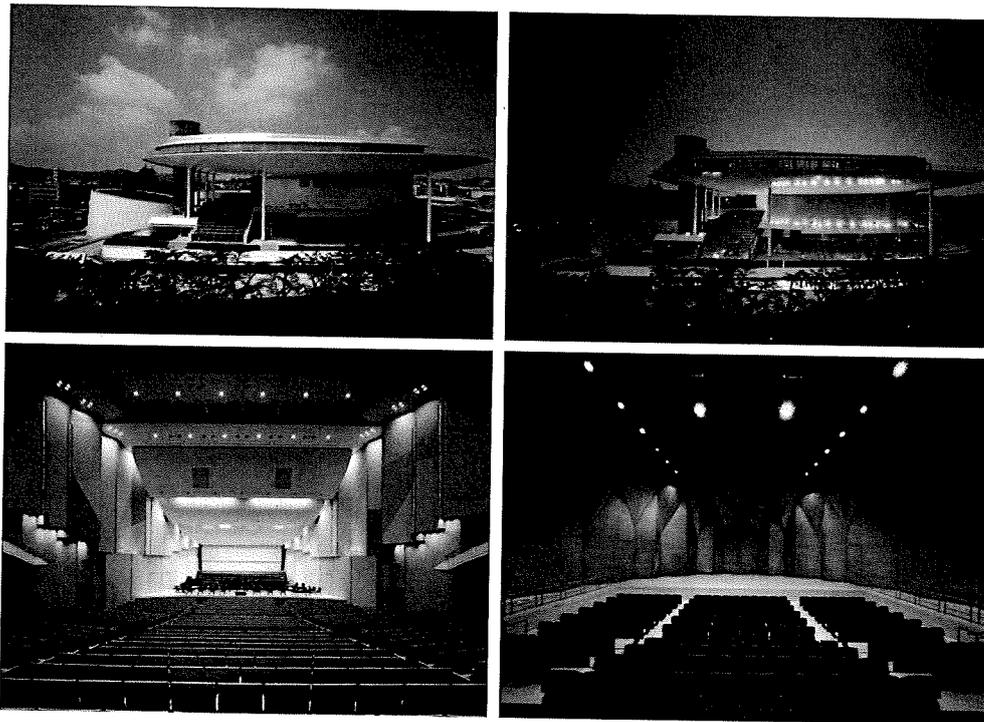
#### (1) 施設の概要

桐生市市民文化会館は、1997年に開館した群馬県桐生市が設置した多目的ホールである。多目的に使えるシルクホール（大ホール）と市民の発表の場として設置された小ホールのほか、レセプションホール、会議室・研修室、展示・学習室等、様々な活動に対応する施設を備えている。織物の町・桐生を象徴する繭型の建物がシンボルとなっている。

図表・49 桐生市市民文化会館の概要

名称（愛称）	桐生市市民文化会館
開館年	1997年
所在地	群馬県桐生市織姫町 2-5
施設内容	・シルクホール（1,527席）、小ホール（276席） ・会議室・研修室 4、展示・学習室 9

図表・50 桐生市市民文化会館の外観・内観



出所) 桐生市市民文化会館提供

(2) 運営形態

公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団が桐生市市民文化会館の指定管理者となっている。公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団は、1995年に設立され、3つの財団の合併を経て現在の組織となった。「スポーツ事業や文化事業、公園や遊園地などで行われる事業を通じて、市民の健康と体力の向上、文化の振興や地域コミュニティの醸成を図り、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与すること<sup>11)</sup>」を目的とし、桐生市市民文化会館のほか、体育施設や公園施設の管理運営を行っている。

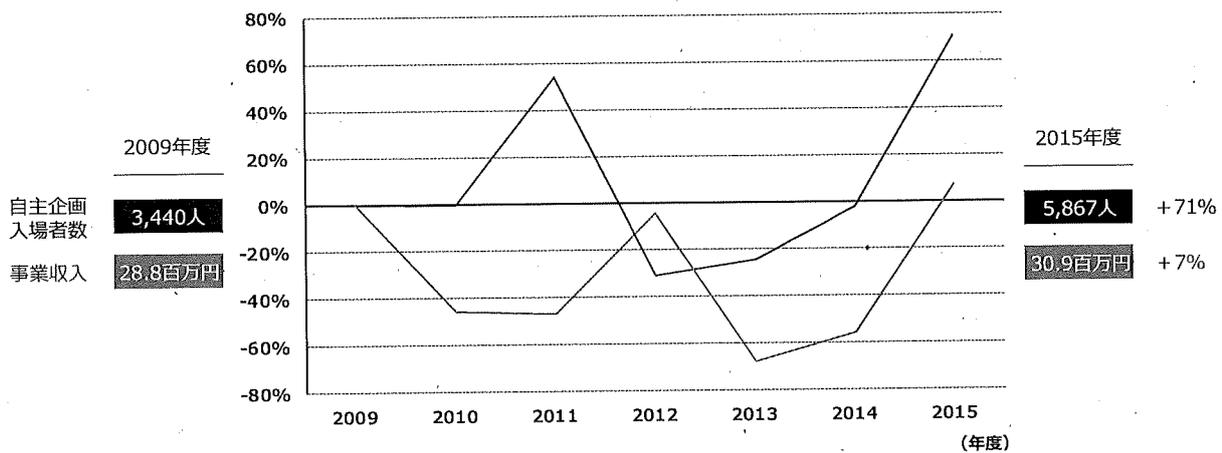
図表・51 公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団

団体名	公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団
設立	1995年6月
職員数	文化事業課 10名 ※全員正規職員

(3) 入場者数・事業収入の伸び

自主企画・制作公演の入場者数が増加しており、2015年度の自主企画・制作公演の入場者数は、2009年度の71%増となっている。

図表・52 桐生市市民文化会館の各指標の推移



(4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- クラシック音楽ファンにターゲットを絞った事業展開
- 音楽事務所・マネジメント会社と協働したプログラムづくり
- シニア層を取り込むための平日昼間の公演開催

<sup>11)</sup> 公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団定款より。

●クラシック音楽ファンにターゲットを絞った事業展開

桐生市市民文化会館ではクラシックを毎年6~7事業を行っているが、これらは基本的にクラシックファン向けに行っている。以前は初心者向けからコアなファンまで様々なレベルの事業を実施していたが、すでにある程度クラシック音楽の知識のあるファン向けのコンサートを実施するようにしたところ、観客が増加したという。

アドバイザーは、元サントリーホール支配人の渡壁輝氏らにお願いし、コンサートの内容についてアドバイスを受けている。また、音楽評論家の渡辺和彦氏にも、ラインナップをチェックしてもらっている。プログラムは会館の職員が決められており、ある程度ラインナップがそろった段階でアドバイザーに相談している。「チャレンジングでおもしろい」といわれる企画が人気であるという。

●音楽事務所・マネジメント会社と協働したプログラムづくり

企画は株式会社ジャパンアーツと株式会社KAJIMOTO等と協働しながら行っている。これらの企業の営業の担当者は、桐生市市民文化会館の状況をよく理解しており、状況を踏まえた提案を行っているという。必ずしも会館の職員全員がクラシック音楽の専門家ではないので、このような建設的な関係を築いている。

以前はアドバイザーを雇用していた時期もあったというが、そのネットワークでコンサートを組んでいると次第に同じようなラインナップになり、集客が落ちてしまうということがあったため、現在はその方式は辞めている。

音楽事務所はたくさんのアーティストを抱えているので、マンネリになることもなく、次々と新しいアーティストを紹介してくれるのが魅力であるという。

●シニア層を取り込むための平日昼間の公演開催

桐生市は群馬県の中でも高齢化率が高いので、文化庁の助成金を受け始めた年から、「大人の遊び場」としてリタイアした人のためにワンコインコンサートを実施している。現在の入場者数は400~500名だがニーズがあることは確認されており、より拡大していく方針であるという。

平日の朝や昼間の図書館やファミリーレストランには高齢者が多いことを受け、ワンコインコンサートは基本的に平日の昼に行っている。高齢者は夜に車を運転することを嫌がる傾向がある。以前にワンコインコンサートで昼と夜の両方に公演をやってみたところ、昼間の方が、客が多かったという。一方で、平日の昼間の開催となると働いている人を切り捨てることにもなり、ジレンマのなかで企画を行っている。

図表・53 桐生市市民文化会館のワンコインコンサートの紹介

「ワンコインコンサート 2017-2018」は、ランチタイムに約1時間、500円で気軽にお楽しみいただけるコンサートシリーズです。

各公演とも全席自由500円、シルクホール開催、11時30分開演！！

お得な回数券(5枚つづり) 2,000円(るうふ会員1,800円)も好評発売中！！



出所) 桐生市市民文化会館 Web サイト

### (5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

#### ■長年従事している職員によるステークホルダーとの関係づくり

文化事業部文化事業課文化振興係の職員 5 名のうち、2 名は文化会館開館当初から 20 年以上にわたって事業を担当している。地域の文化団体や地元メディア、音楽事務所・マネジメント会社とのネットワークが豊富であり、地域のニーズにあった事業を展開することができる。

職員が長年在籍することで、会館運営における様々なノウハウが蓄積されている。主催事業だけでなく、貸館においても、駐車場やお弁当、クリーニングに至るまで細かな気遣いをする事で利用者を獲得し、文化会館の活性化に寄与している。

3-9. 岩手県民会館

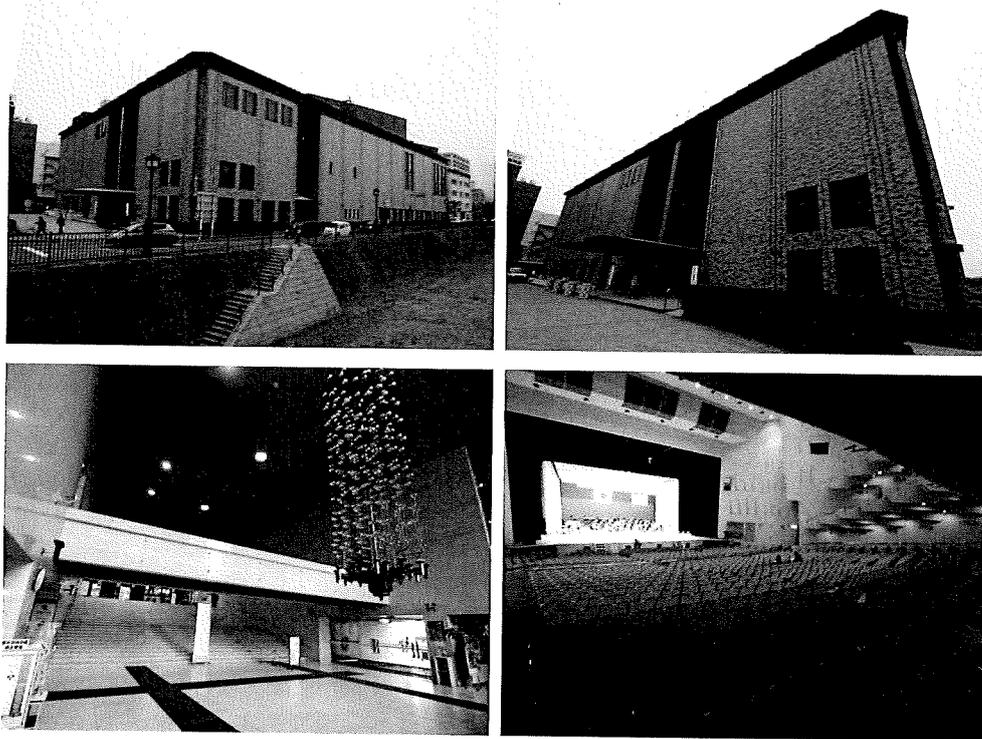
(1) 施設の概要

岩手県民会館は、1973年に開館した、岩手県が設置した多目的ホールである。大ホール、中ホールのほか、リハーサル室、会議室等の施設を備えている。舟越保武作の像「はばたき」が建物がシンボルとなっている。

図表・54 岩手県民会館の概要

名称（愛称）	岩手県民会館
開館年	1973年
所在地	岩手県盛岡市内丸13番1号
施設内容	・大ホール（1,991席）、中ホール（602席） ・リハーサル室1、会議室等

図表・55 岩手県民会館の外観・内観



出所）（一社）芸術と創造

(2) 運営形態

公益財団法人岩手県文化振興事業団が、岩手県民会館の指定管理者となっている。公益財団法人岩手県文化振興事業団は、財団法人岩手県民会館、財団法人岩手県埋蔵文化財センター及び財団法人岩手県文化振興基金を統合し、1985年に設立された。「芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保護・保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与すること<sup>12</sup>」を目的とし、岩手県民会館のほか、岩手県立博物館、岩手県立美術館の管理運営を行っている。

図表・56 公益財団法人岩手県文化振興事業団の概要

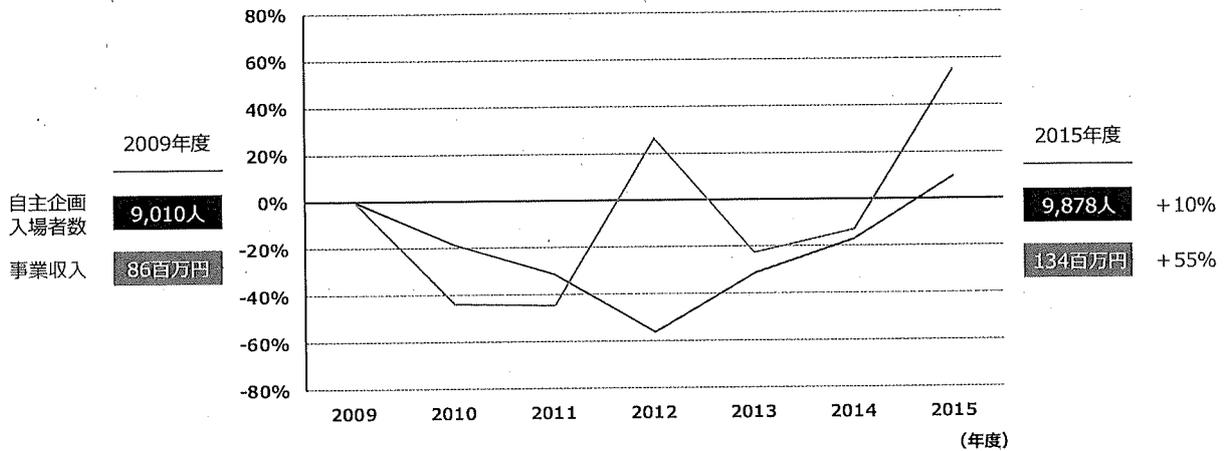
団体名	公益財団法人岩手県文化振興事業団
設立	1989年
職員数	71名（正規職員45名、県派遣職員26名） ※別途任期付職員あり

出所) 公益財団法人岩手県文化振興事業団 Web サイトを基に (一社) 芸術と創造作成

(3) 入場者数・事業収入の伸び

両指標ともに下降線にあったものの、その後は上昇に転じている。特に伸びが顕著なのが、事業収入であり、2015年度の事業収入は、2009年度の55%増となっている。

図表・57 岩手県民会館の各指標の推移



<sup>12</sup> 公益財団法人岩手県文化振興事業団定款より。

(4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- テレビ局や新聞社との折半共催による事業実施
- 県内他館との調整

● テレビ局や新聞社との折半共催による事業実施

岩手県民会館では県からの指定管理料に人件費は含まれているものの事業予算は含まれていない。そのため、岩手県民会館の独自事業は黒字化を目指すことはもとより、貸館事業などにより黒字化を行い、その収益を育成事業に充てている。しかしながら、盛岡市のなかでも貸館に関しては競合となるホールも多く、また高齢化に伴い、定期的に借りていた団体の活動も縮小するなど厳しい状況にある。

そのなかで岩手県民会館は招聘した事業の一部について、地元のテレビ局や新聞社等と折半共催（事業の収支を折半する）とし、マスメディアの新聞広告・テレビCM等を使ってプロモーションを行うとともに、岩手県民会館は事業の作り込みや地元のホテル・タクシーなどに広報協力の働きかけを行うなど、それぞれの強みを活かした形で協業している。このような形の折半共催を毎年3~4社で行っているという。

東京で行われている規模が大きく、質の高い事業を地方に招聘しようとする赤字になりがちだが、そのような事業でも安価に県民に紹介したいという考えがあり、折半共催の仕組みを取り入れてから事業収入が増加したという。

● 県内他館との調整

近い商圈で同じ演目を組んでしまうと客を取り合ってしまうので、岩手県内のホールとは事業担当者で連絡を取りながらバランスをとるようにしているという。岩手県民会館に売り込みのあった企画を他のホールに紹介することもあり、岩手県民会館の職員をボランティアで他のホールの事業を手伝うこともある。今後はさらに岩手県民会館が岩手県のホールのハブになるような役割を目指しているという。施設間のコミュニケーションは積極的に取っており、持ち回りで連絡会議を開催しており、このような会議のなかで連携についても協議している。

### (5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

- 民間事業会社で経験を積んだ職員の存在
- 長年に渡る活動において築いた地域における信頼

#### ■ 民間事業会社で経験を積んだ職員の存在

岩手県民会館の事業企画を担当している職員（本波氏）はレコード会社に勤務したのちに岩手県民会館に入職した。長年勤めており、媒体各社を始めとした地元企業との関係も強い。このような民間の感覚を持った職員が存在するからこそ、テレビ局や新聞社との折半共催の仕組みなどが実現していると考えられる。

#### ■ 長年に渡る活動において築いた地域における信頼

岩手県民会館は1973年に開館し、国内のホールのなかでも長い歴史を誇る。岩手県民会館では開館当初から自主事業を行っており、1974年から始まった「コンサートサロン」は200回を迎える。このような活動を通して地域において信頼を築いており、そのような関係を元に折半共催や地域を巻き込んだ広報など様々な取組みを行っていると考えられる。前述の職員（本波氏）も学生時代に岩手県民会館でジャズのコンサートを鑑賞するなど本館の利用者の一人であり、東京で働いたのち、Uターンで入職している。

## 3-10. アトリオン音楽ホール

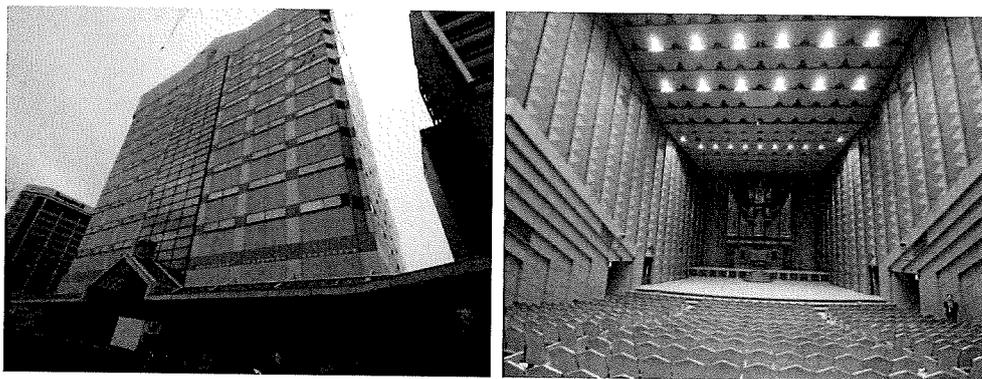
## (1) 施設の概要

アトリオン音楽ホール（以下、アトリオン）は、1989年に開館した、秋田県が設置したコンサートホールである。音楽ホールが所在するアトリオンビルは、秋田県と秋田市と日本生命が建設した地下2階地上12階建ての建物で、他階には美術館や物産館、一般企業のテナント等が入っている。

図表・58 アトリオン音楽ホールの概要

名称（愛称）	アトリオン音楽ホール
開館年	1989年
所在地	秋田県秋田市中通 2-3-8
施設内容	・音楽ホール（704席）、ミニコンサートホール（最大100席） ・練習室等3

図表・59 アトリオン音楽ホールの外観・内観



出所）（一社）芸術と創造

## (2) 運営形態

秋田県による直営、別のビル管理会社による指定管理を経て、2011年から厚生ビル管理株式会社がアトリオンの指定管理者となっている。なお、厚生ビル管理株式会社は、主にビルメンテナンスと清掃、病院の電子カルテ等の管理を主業務とする民間企業である。

図表・60 厚生ビル管理株式会社の概要

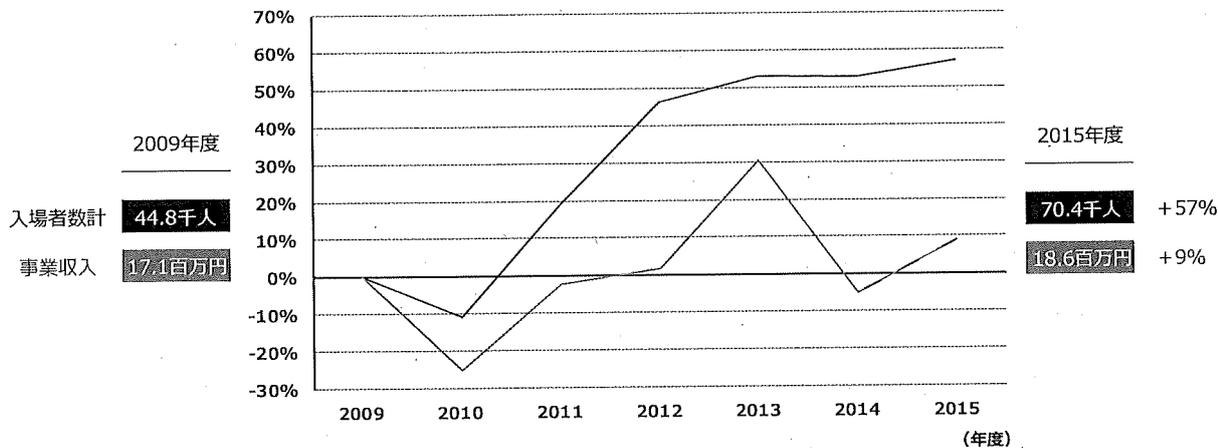
団体名	厚生ビル管理株式会社
資本金	1,000万円
設立	1967年

出所）厚生ビル管理会社 Web サイトを基に（一社）芸術と創造作成

(3) 入場者数・事業収入の伸び

貸館等を含む入場者数全体が増加しており、2015年度の入場者数は、2009年度の57%増となっている。

図表・61 アトリオン音楽ホールの入場者数の推移



(4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

- 文化庁補助金活用による事業の拡大
  - 広報活動を意識した企画立案
  - 普及事業・育成事業の充実
- 
- 文化庁補助金活用による事業の拡大
 

データには表れていないが、文化庁の補助金の効果として、地元のアマチュアの音楽愛好家の事業への参加数が圧倒的に増えたという（2011、2012年度は年平均67人だったのに対し、文化庁の補助金活用後は年平均208人）。また、文化庁の助成によって全体の事業規模を大きくすることが可能になっており、アトリオンの目玉にしたいと思っていたコンサートオペラシリーズも安定的に実施できているという。
  - 広報活動を意識した企画立案
 

限られた予算の中で効果的に広報を行うために、メディアが取材に来たくなるものを企画するようにしている。例えば、2016年に「夕鶴」の公演をした時には「つう」役の公開オーディションを行った。受験者の交通費を補助するという条件にしたところ、30人の応募があり、オーディションにはテレビ局が取材に来た。また、「夕鶴」という題字を著名な書家に揮毫（きごう）してもらい、後日アトリオン内の美術展示ホールでも公開揮毫を行ったところ、こちらにも取材が来た。そのほかにも、合唱に出演する少年少女合唱団員の保護者が積極的にチケット販売に協力するなどした結果、チケットは完売した。メディアは、県内で行われている沢山の事業のなかから取材するものを選択しているはずなので、事業企画の際にストーリーをつくり、メディアの目を引くことを意識しているという。

### ●普及事業・育成事業の充実

開館以来、校外学習の一環としてホールで行う音楽鑑賞教室を継続している。前年度末と年始に2回、県内全ての学校に案内を送付し、申し込みのあった学校に対し、パイプオルガンやチェンバロを交えた演奏会を行う流れで、その後、パイプオルガンにも触れてもらっている。「学校全体500人くらいで来て貸切りにする場合」、「市外から学年単位でくる場合」、「特別支援学校からくる場合」がある。オルガン体験をした子が、中学生になってからオルガン講座に入ってくる例もあり、さまざまな形でつながっていくことを目指しているという。

音楽鑑賞教室のコンサートは、各年度で毎回同じ曲や演奏者による学校関係の特別プログラムとして行っている。料金は学生が100円、保護者が200円としている。

様々な理由でどうしても来られない学校に対しては、出張コンサートを行うケースもある。ホールで行うプログラムを学校の校歌などの合同演奏、楽器体験コーナーを組み込むなどアレンジして実施する。そこにテレビ局が取材に来て、その後、そのニュースを見た先生から依頼が来たケースもあったという。

また、これまで定期的に県出身の若手を起用してきた結果、音大生が昔より増えた印象があるという。そういった秋田県出身の演奏家を集めて、プロと音大生と秋田出身の指揮者とで、30周年企画では吹奏楽公演を実施する予定。アトリオンとしては、今後も県ゆかりの演奏家を応援していく方針だという。

### (5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

#### ■ 指定管理会社による地域貢献の意識

#### ■ 地元出身の職員による運営

#### ■ 指定管理会社による地域貢献の意識

2011年度から、施設利用料はアトリオンの収入とすることができるようになった一方で、事業費は減額となった。それを受けて、公演の質を落とさないために、会社の持ち出しで自主事業を行っている。県主催事業と指定管理会社自主事業とを分けて実施している。自主事業は利益率が低い、厚生ビル管理株式会社としては地元貢献の一環として指定管理業務を行っている側面もあるという。

#### ■ 地元出身の職員による運営

アトリオンで勤務する職員の勤務年数は10年超が3名、5年超が3名とベテランが多い。職員は基本的に無期雇用でノウハウの蓄積と長期スキルアップを図っている。なお、芸術監督以外は全員地元の出身者で、1名は音楽大学卒、1名は美術系芸術大学卒、そのほかの職員も何らか音楽をやっていた方が多い。地域に根差したホール運営を行う上で、地域特性を知っていることは重要であるが、外からの視点を取り入れるためにも必要なので、芸術監督というポジションを設けているという。

### 3-1-1. 吹田市文化会館メイシアター

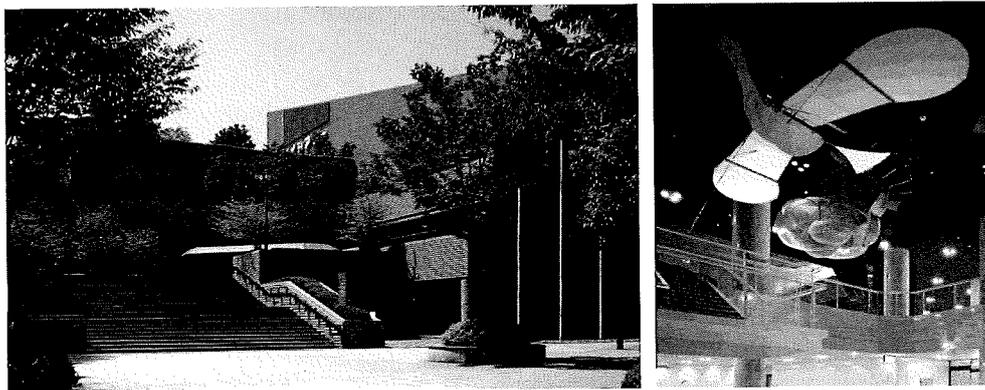
#### (1) 施設の概要

吹田市文化会館メイシアター（以下、メイシアター）は、1985年に開館した、大阪府吹田市が設置した多目的ホールである。大きさの異なる3つの多目的ホールのほか、練習室、会議室、展示室、茶室等を擁し、市民の様々な活動に対応する施設となっている。

図表・62 吹田市文化会館メイシアターの概要

名称（愛称）	吹田市文化会館メイシアター
開館年	1985年
所在地	阪府吹田市泉町
施設内容	・大ホール（1397席）、中ホール（492～622席）、小ホール（156席） ・練習室等3、会議室等3、展示室1、茶室、屋上庭園等

図表・63 吹田市文化会館メイシアターの外観・内観



出所：吹田市文化会館メイシアター提供

#### (2) 運営形態

公益財団法人吹田市文化振興事業団が、メイシアターの指定管理者となっている。公益財団法人吹田市文化振興事業団は、1984年に設立され、「吹田市文化会館の効率的な管理運営を行い、あわせて芸術性の高い自主文化事業を行うことによって、市民の皆様の文化活動の振興を図り、個性豊かな地域文化の創造に寄与すること<sup>13)</sup>」を目的としている。

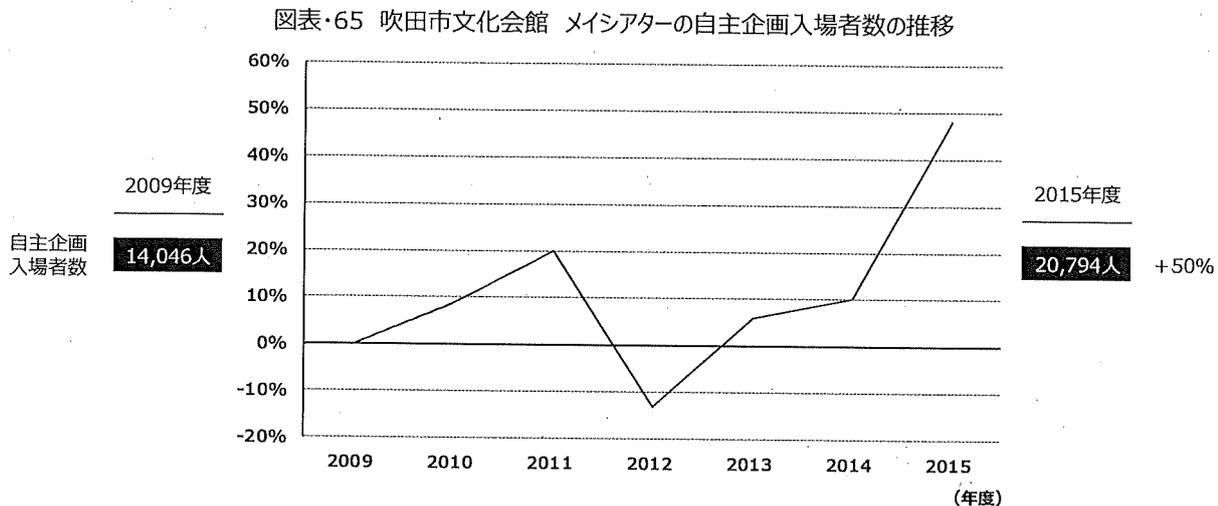
図表・64 公益財団法人吹田市文化振興事業団の概要

団体名	公益財団法人吹田市文化振興事業団
出捐金	2億円
設立	1984年
職員数	20人

<sup>13)</sup> 公益財団法人吹田市文化振興事業団定款より。

(3) 入場者数・事業収入の伸び

自主企画・制作公演の入場者数が増加しており、2015年度の自主企画・制作公演の入場者数は、2009年度の50%増となっている。



(4) 入場者数・事業収入増加ための取組み

このように入場者数、事業収入を増加させている主な背景として以下のような取組みが考えられる。

● 地元団体と連携した市民参加型企画

メシアターでは市民参加型の企画として、地元大学との連携を行っている。内容的には、大阪大学との演劇プログラムに20名、千里金蘭大学とのファミリーミュージカルに40名が参加し、その活動を通じて将来的に地域の文化活動のリーダー的存在になってもらうことを目指している。また、同参加型として市内小・中・高校生による「少年少女合唱団」や吹奏楽部のレクチャー活動を定期化し、年末恒例の「吹田市民の第九」には250名程度の一般市民が参加している。

第九の公演は過去12回実施している。参加者募集の際は、吹田に元々幾つかある合唱団やメシアターの利用者として多い市民文化団体（北大阪には高齢で元気な方が大勢いて、カラオケ、シャンソン、詩吟、民謡などで貸館利用をされるグループが存在）に声かけを行ったり、また吹田市の音楽連盟に周知の協力をしてもらったりしている。また、その中から常連の参加者となり口コミで広めてくれる方も存在するという。

第九は全体練習期間が9～12月だが、その練習に向けて自主練習する方もいるほど、参加者は楽しみにしているという。

### (5) 取組みの背景

このような取組みを実現できている背景として以下のような要素が考えられる。

- 市との良好な関係性に基づく長期的な管理
- 街のブランド力と市民自治意識の強さ

#### ■ 市との良好な関係性に基づく長期的な管理

指定管理についてはこれまで非公募で、17年目（4期目）に入っている。近年は、指定管理者制度は安く施設を運営するための手段ではないという認識は広まっており、市からは直営と実質的に同じような状況だと捉えてもらっているという。また、市の担当者とのコミュニケーションを密に行っている。

#### ■ 街のブランド力と市民自治意識の強さ

吹田市は1970年に大阪万博が開かれた頃から、人口が増え、現在は約370,000人である。また、過去5年間で13,000人ほど人口が増えている。大学が5つあり、約44,000人の学生が吹田の大学に在学している。また、2015年には市立吹田サッカースタジアムが、万博会場の後にEXPOCITYがオープンした。また、2018年秋にはJR岸辺駅近くに北大阪健康医療都市として一大医療クラスタができる予定である。また、阪急吹田は、梅田、難波など大阪市内からのアクセスが良く、メイシアターとしてターゲットとする鑑賞者は吹田のエリアに限ってはいないという。また、吹田市は市民自治が強い地域であり、市民がメイシアターに慣れ親しんでおり、この場所が必要だと考える住民が多いという。

平成28年度文化庁委託事業

劇場、音楽堂等の特徴的な取組に関する調査事業 報告書

---

平成 29 年 3 月 31 日 ■委託元

文化庁文化部芸術文化課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

■発行

一般社団法人芸術と創造

〒135-0034 東京都江東区永代 1-1-7-202

---

## 他の自治体の取り組みから見えるもの

〔出典〕

資料⑤-2

平成28年度文化庁委託事業

劇場、音楽堂等の特徴的な取組に関する調査事業報告書より

劇場名	所在地	伸び率等	取組内容	取組詳細・効果
文京シビック ホール (P20)	東京都文京区	自主制作・企画 公演の入場者数 や事業収入が 100%を超える 増加	クラシック音楽初心者をターゲットに絞った事業構成	クラシックに詳しくない人でも耳にした曲を選曲。初めてクラシック音楽のコンサートに足を運ぶ方にも関心を持ってもらえるようなプログラム作りを行った。 初心者・入門者を対象としたプログラムを充実させることで、ライトな観客層を取込むことを狙いとした。
			仕事帰りの観客をターゲットにした企画立案	「夜クラシックシリーズ」平日の19:30に開演する90分の室内楽コンサートで仕事帰りにクラシックをちょっと聞いてみたいという人をターゲットにした。耳馴染みのある曲やCMで聞いたことのある曲を中心に構成し、演奏者らによるトークを挟み、初心者でも楽しめるような企画とした。
			セット券販売によるリピーターの獲得	年4回の公演すべてが聴けるセット券を販売し、お得な価格で毎回同じ席を確保できると評判である。
福井県立音楽堂 (ハーモニー ホールふくい) (P24)	福井県福井市	自主制作・企画 公演の入場者数 が157%増、事 業収入9%増	地元企業からの協賛の獲得	公演冠協賛（公演事業費の1/3以上、1事業1社）」「法人協賛（年間50万円）」「個人協賛（1口5万円）」協賛を行った法人や個人の名前はチラシやパンフレットに掲載する。現在ほぼすべての主催事業に公演冠協賛がついている。
			地元メディアとの連携による広報	県内の2つのテレビ局と連携して広報活動。2つのテレビ局と年に3本ずつ共催でコンサートを実施。ある子供向けの公演では公演の協賛である福井放送が上演までの過程取材しドキュメンタリーとして番組化。県民と公演までの過程を共有することでホールをより身近に感じてもらえるきっかけとなった。

劇場名	所在地	伸び率等	取組内容	取組詳細・効果
三重県総合文化センター 三重県文化会館 (P35)	三重県津市	入場者数465%増、事業収入15%増	500円コンサートの充実	<p>・平日の大ホールの稼働率が比較的低いため、入場料と事業費を抑えた自主企画事業ワンコイン（500円）の企画を数多く行った。年間公演30本のうち、18本は自主企画、うち10本はワンコインコンサートである。500円は安すぎるという意見もあるが、1万人集客できており収支は成り立っているという。</p> <p>・「ヘンゼルとグレーテル」スライドコンサートという企画では、子供がクラシックを聴いていても退屈するので、絵本をスライドで見せ、地元の指揮者や歌手を起用して、地元のオーケストラとジュニアオーケストラと一緒に演奏する企画とした。クラシックコンサートと絵本スライドをミックスさせて、子供から大人まで楽しめる企画となり、地元のオーケストラや指揮者や歌手、三重県の絵本作家の育成にもつながった。</p>
			会員の囲い込み	シアターメイツ（会員制度）を募集し、チケットの優先予約や割引販売を行っている。会員には2800人が参加しており、各公演の5割程度は会員にて構成されている。会費（年間）3000円程度である。
富士見市民文化会館 キラリふじみ(P43)	埼玉県富士見市	自主制作・企画公演の入場者数や事業収入が234%増、事業収入191%増	アソシエイト・アーティスト制度による事業プログラムの多様化	演劇、音楽、ダンス等様々なジャンルの5名のアーティストをアソシエイトアーティストとして置き事業を依頼している。例えばダンサーからの提案により、自分が躍るのではなく、町の人と踊りを作ってみたいという提案から、市民と一緒に踊りのワークショップを行い、1年間の成果発表としてきらりふじみの中庭で公演を行ったことが、市民とともに作るプロジェクトのスタートとなり以降市民参加型の企画が増えていった。
豊島区立舞台芸術交流センター（あうるすぽっと）(P46)	東京都豊島区	自主企画・制作公演の入場者数188%	劇場内での各種展示	基本的には演劇向きのホールであるが、通常訪れないような人にも来てもらうためホワイエやビルの1階に美術展示を行っている。展示をきっかけに遊びに来られるような仕掛けを行っている。

劇場名	所在地	伸び率等	取組内容	取組詳細・効果
桐生市市民文化 会館(P49)	群馬県桐生市	自主企画・制作 公演の入場者数 が71%増	クラシック音楽ファン をターゲットに絞った 事業展開	以前は初心者向けからコアなファンまで様々なレベルの事業を実施していたが、すで にある程度クラシック音楽の知識のあるファン向けのコンサートを実施したところ観 客が増加した。
			音楽事務所、マネジメ ント会社と協働したプ ログラム作り	音楽事務所やマネジメント会社と共同しながら企画を行っており、会館の職員全員が クラシック音楽の専門家ではないので、建設的な関係を築いている。音楽事務所はた くさんのアーティストを抱えているので、マンネリになることもなく、次々と新しい アーティストを紹介してくれるのが魅力である。
			シニア層を取込むため の平日昼間の公演開催	桐生市は群馬県の中でも高齢化率が高いので、「大人の遊び場」としてリタイアした 人のためにワンコインコンサートを実施。現在の入場者数は入場者数は400～500名 だが、ニーズがあることは確認されており、より拡大していく方針である。ワンコ インコンサートは高齢者が夜の運転を嫌がる傾向にあることから基本的に平日の昼に 行っている。
岩手県民会館 (P53)	岩手県盛岡市	事業収入が 55%増	テレビ局や新聞社との 折半共催による事業実 施	招聘した事業の一部について、地元のテレビ局や新聞社等と折半共催（事業の収支を 折半する）とし、マスメディアの新聞広告・テレビCMを使ってプロモーションを行 うとともに岩手県民会館は事業の作りこみや地元のホテル・タクシーなどに広報協力 の働きかけを行うなど、それぞれの強みを生かした形で協業している。このような折 半共催を毎年3～4社と行っており、この仕組みを取り入れてから事業収入が増加し た。
アトリオン音楽 ホール(P57)	秋田県秋田市	入場者数57% 増	広報活動を意識した企 画立案	メディアが取材に来たくなるものを企画する。例えば、「夕鶴」の公演時に「つう」 役の公開オーディションを行い、オーディションにはテレビ局が取材に来た。メディ アは県内で行われているたくさんの事業の中から取材するものを選択しているはずな ので、事業企画の際にストーリーを作り、メディアの目を引くことを意識している。